



公益財団法人
全日本剣道連盟
All Japan Kendo Federation

剣道
やろうよ!
Ready, Set, Kendo!

公益財団法人 全日本剣道連盟
剣道未来プロジェクト

小・中・高校生
剣道の取り組み実態と剣道に対する認識調査
報告書

2026年6月



01 調査の概要

P2-P3

02 全体の傾向

P4-P18

03 校種別分析

P19-P27

04 性別分析

P28-P34

05 地域別分析

P35-P41

06 まとめ

P42-P44

01 調査の概要



調査の概要

調査の目的

全日本剣道連盟「剣道未来プロジェクト」の一環として、小・中・高校生の剣道の取り組み実態および剣道に対する認識を把握し、剣道人口の増加に向けた検討の基礎資料とする。

調査の対象

剣道に取り組む小学生・中学生・高校生

調査の内容

- 回答者属性：居住地，学年，性別，経験年数，段級位，競技実績
- 剣道の取り組み実態：稽古場所，稽古回数，稽古時間，他の習いごと，開始理由，継続理由，継続意思
- 剣道に対する認識：稽古・指導，仲間・交流，試合，意義・効果，発信・普及

調査の方法

- Webアンケート調査（Google Form利用）
- 全日本剣道連盟ホームページへの掲載，全日本剣道連盟公式SNSを通じた協力依頼
 - 関連団体を通じた協力依頼，各種大会参加者への協力依頼 ほか

調査の期間

令和7年7月15日～令和8年3月4日

回答件数

3,160件



02 全体傾向



回答者の属性 (1)

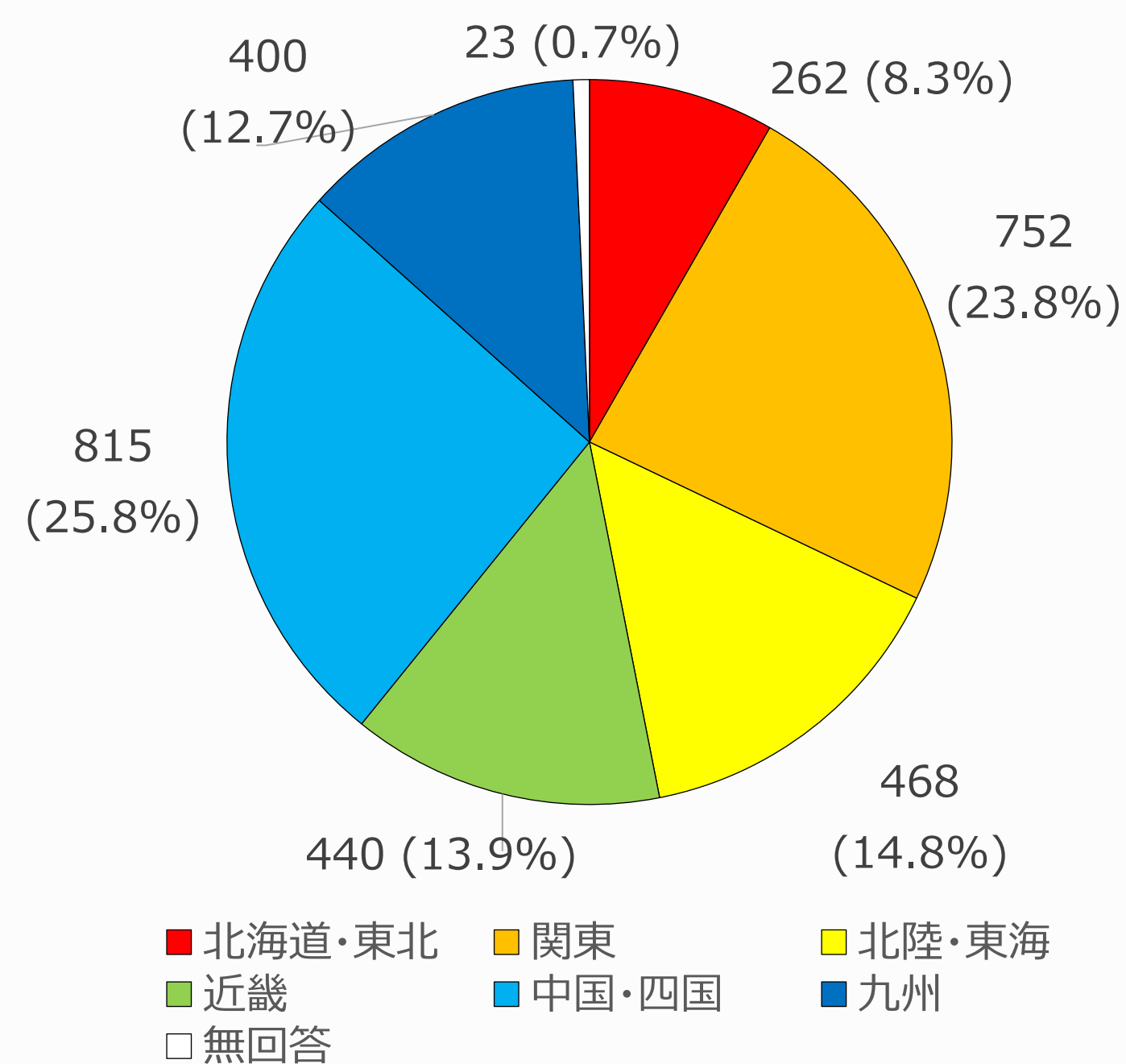


図1-1 回答者の居住地(N=3,160)

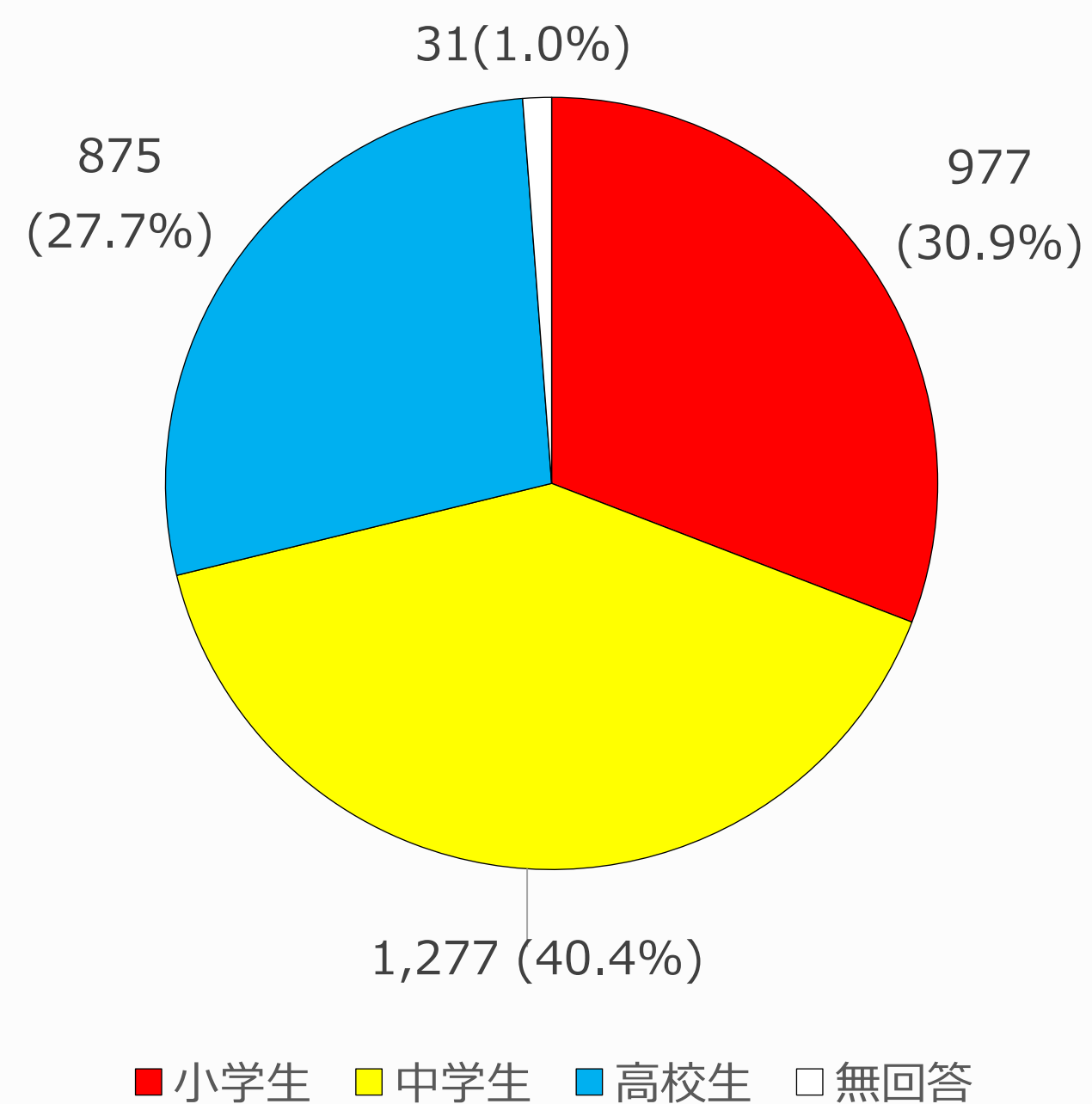


図1-2 回答者の在籍校種(N=3,160)

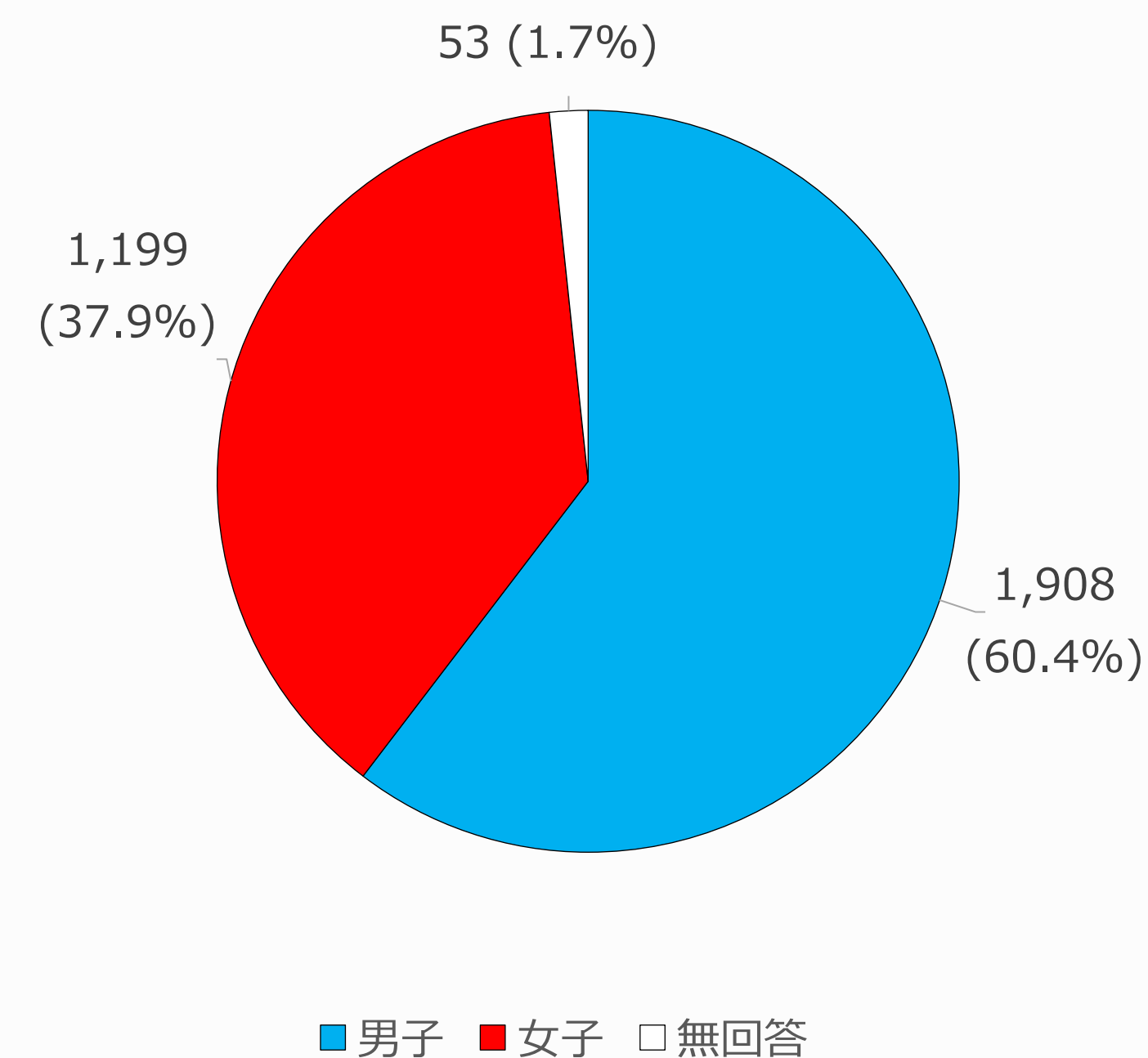


図1-3 回答者の性別(N=3,160)

- 居住地, 校種 (学年), 性別とも, 比較的バランスのとれた回答状況。

回答者の属性 (2)

表1-1 回答者の在籍校種×性別
(N=3,160)

	男子	女子	答えない	性別無回答	合計
小学生	700	270	7	0	977
中学生	719	543	9	6	1,277
高校生	476	385	9	5	875
学年無回答	13	1	0	17	31
合計	1,908	1,199	25	28	3,160

表1-2 回答者の居住地×在籍校種
(N=3,160)

	小学生	中学生	高校生	学年無回答	合計
北海道・東北	53	120	88	1	262
関東	262	259	228	3	752
北陸・東海	143	156	166	3	468
近畿	40	260	139	1	440
中国・四国	345	290	175	5	815
九州	130	190	78	2	400
地域無回答	4	2	1	16	23
合計	977	1,277	875	31	3,160

表1-3 回答者の居住地×性別
(N=3,160)

	男子	女子	答えない	性別無回答	合計
北海道・東北	154	104	4	0	262
関東	450	294	6	2	752
北陸・東海	288	173	3	4	468
近畿	241	194	3	2	440
中国・四国	522	288	4	1	815
九州	251	142	4	3	400
地域無回答	2	4	1	16	23
合計	1,908	1,199	25	28	3,160

- 居住地，校種（学年），性別とも，比較的バランスのとれた回答状況。

剣道の取り組み状況（1）

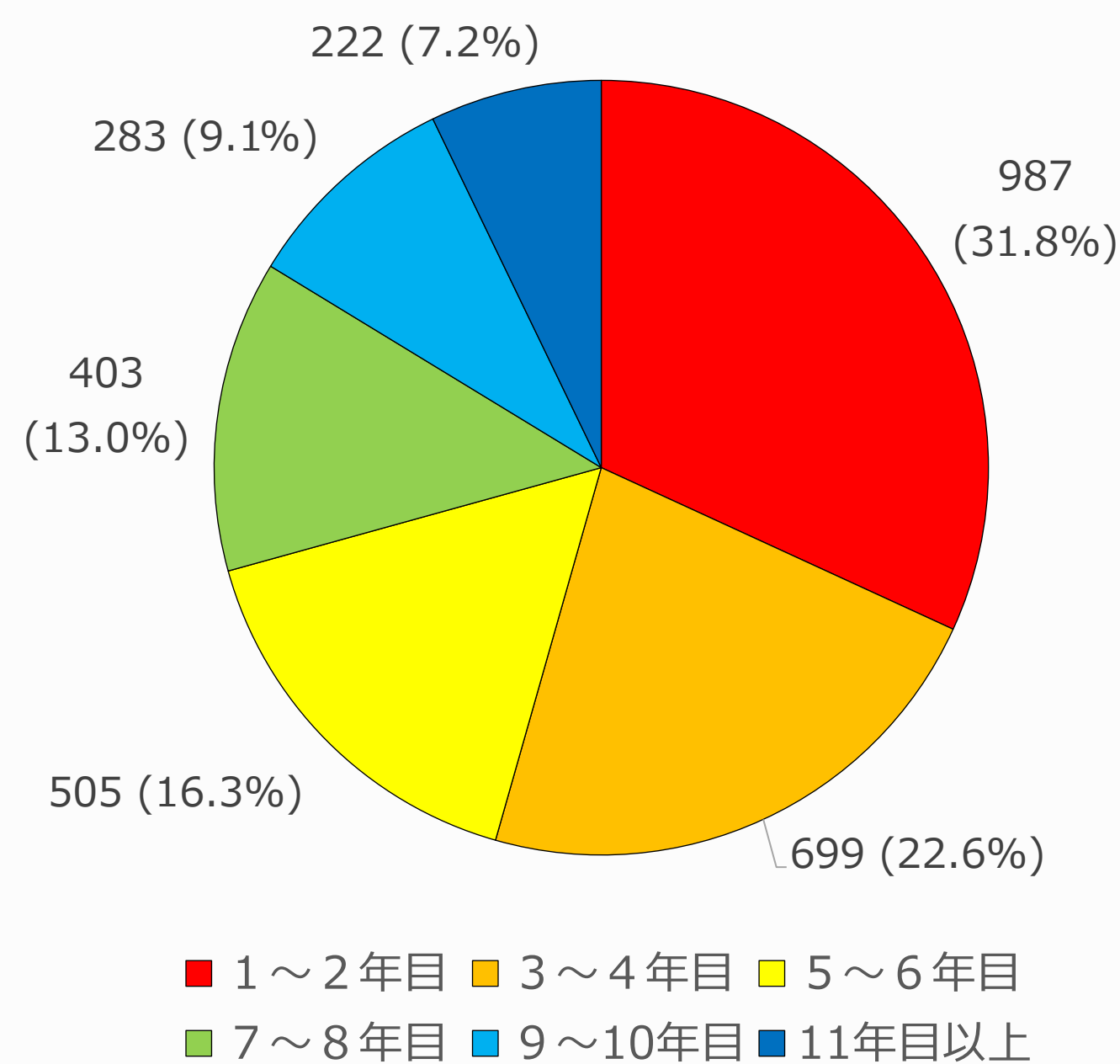


図1-4 剣道経験年数(N=3,099)

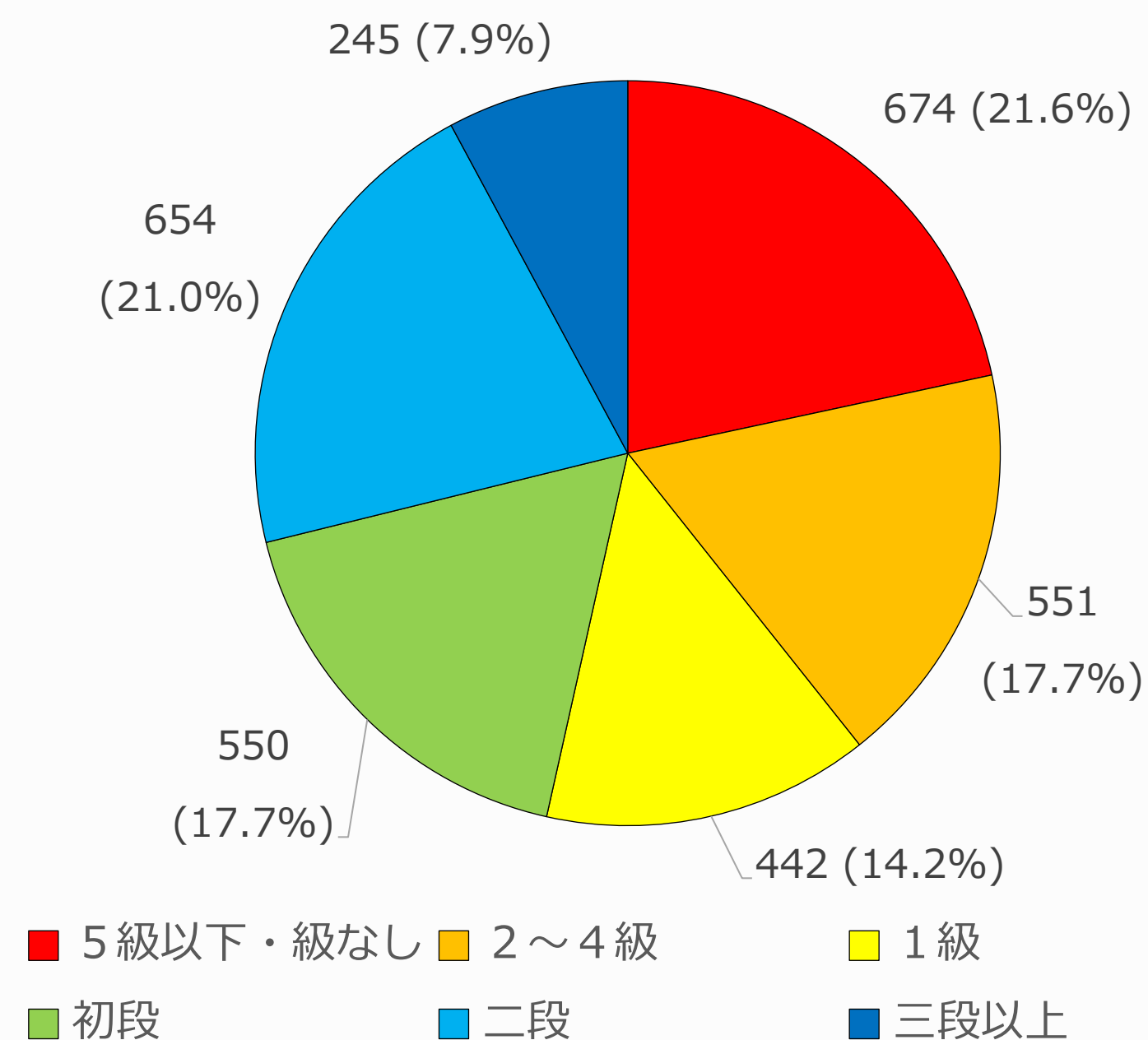


図1-5 所有段級位(N=3,166)

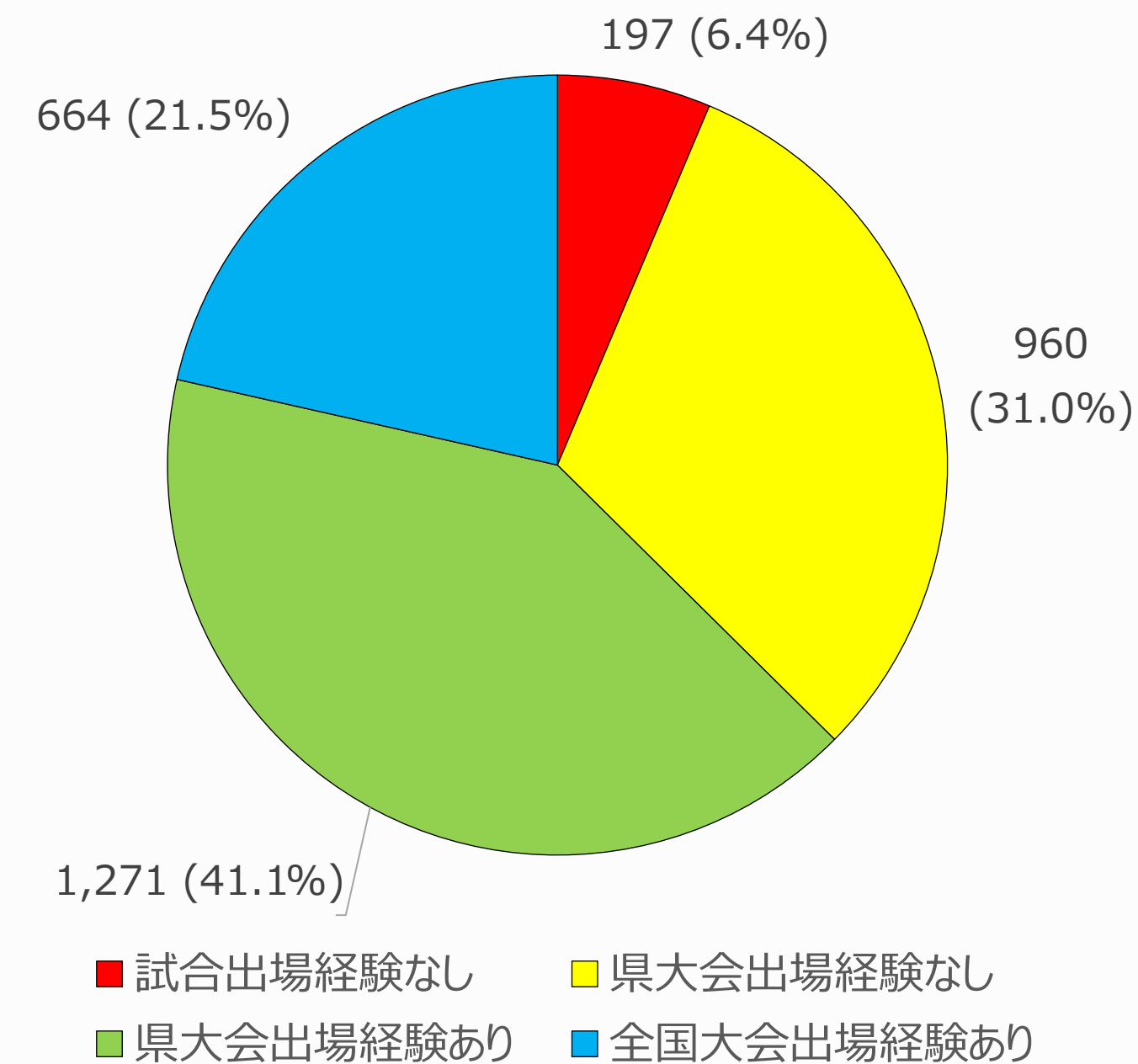


図1-6 剣道競技実績(N=3,092)

- 経験年数，段級位，競技実績とも，比較的バランスのとれた回答状況。

剣道の取り組み状況 (2)

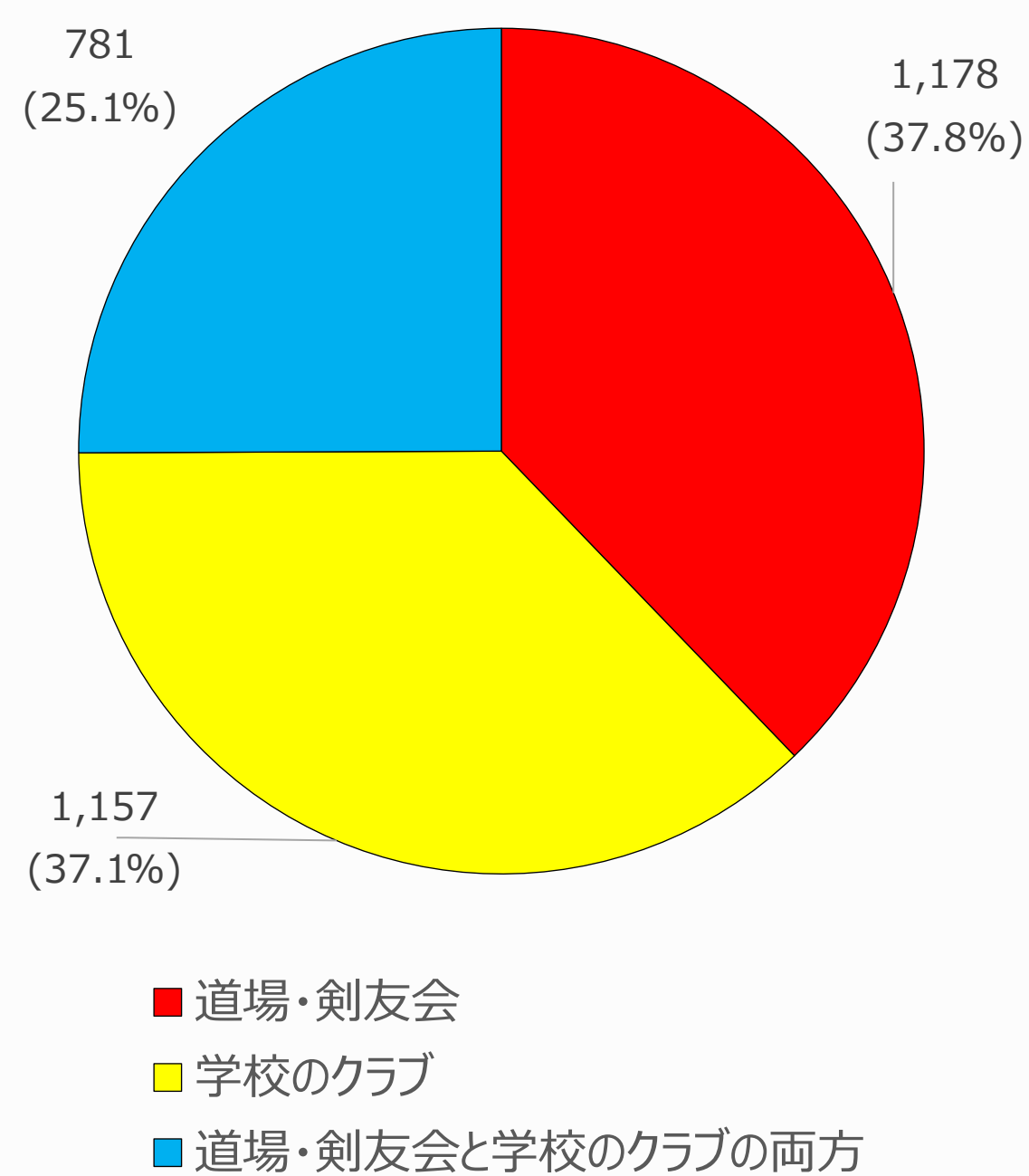


図1-7 稽古場所(N=3,116)

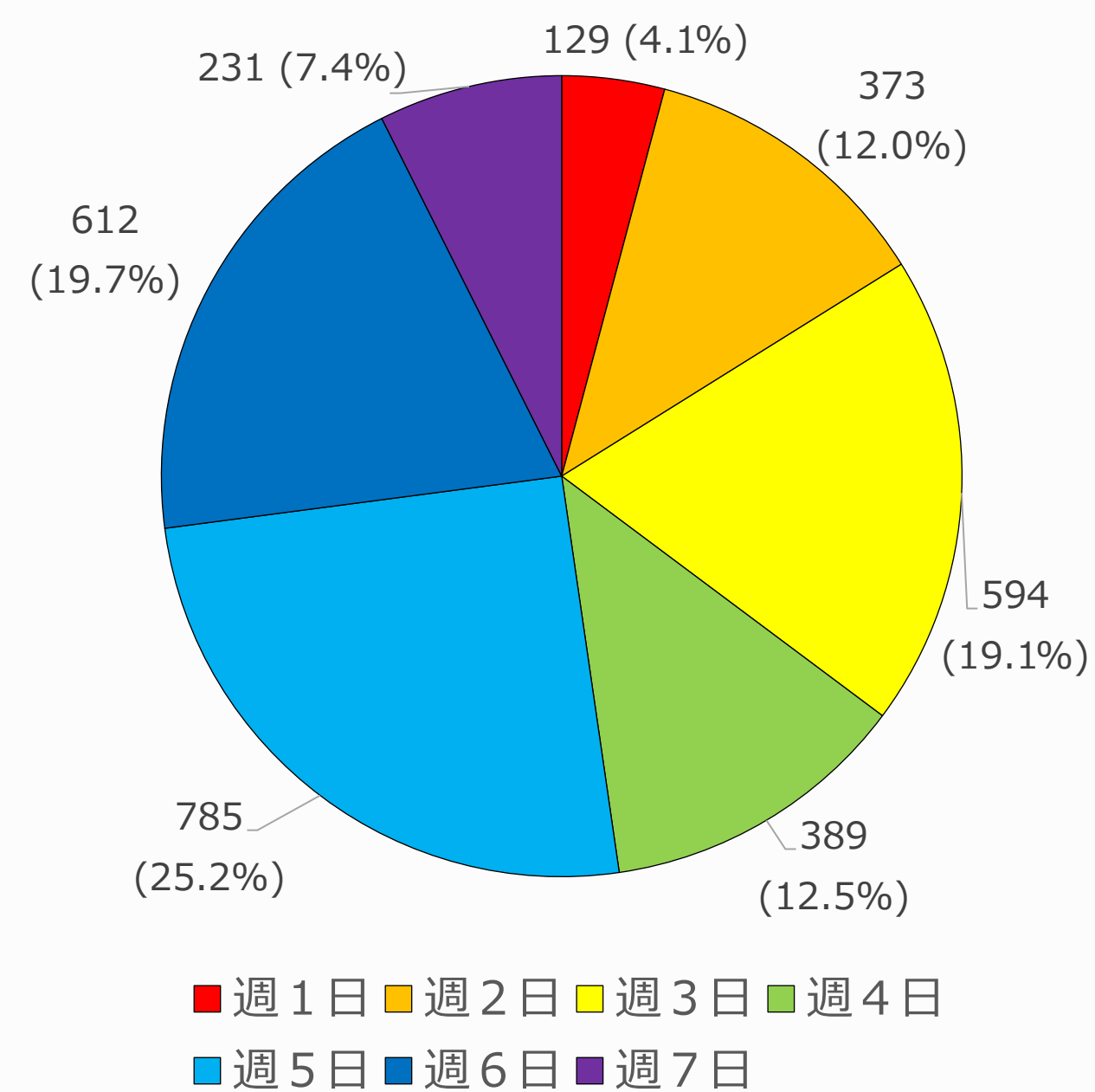


図1-8 稽古回数(N=3,113)

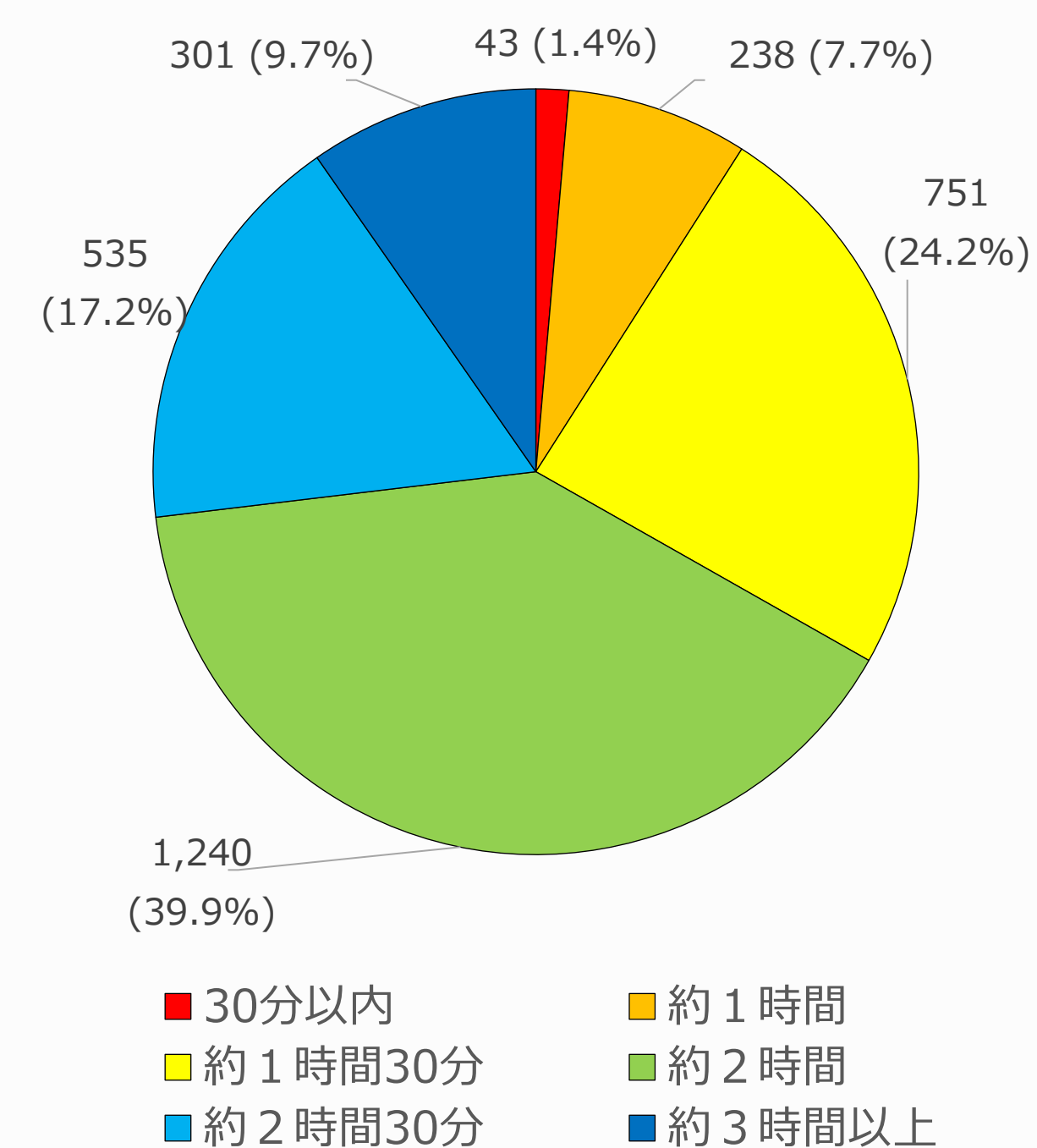


図1-9 1回あたり稽古時間(N=3,108)

- 稽古場所は、道場・剣友会と学校のクラブがほぼ同数。
- 稽古回数は、約5割が週5日以上。
- 約8割が1回あたり約1時間30分から約2時間30分の稽古を実施。

剣道以外の習いごと

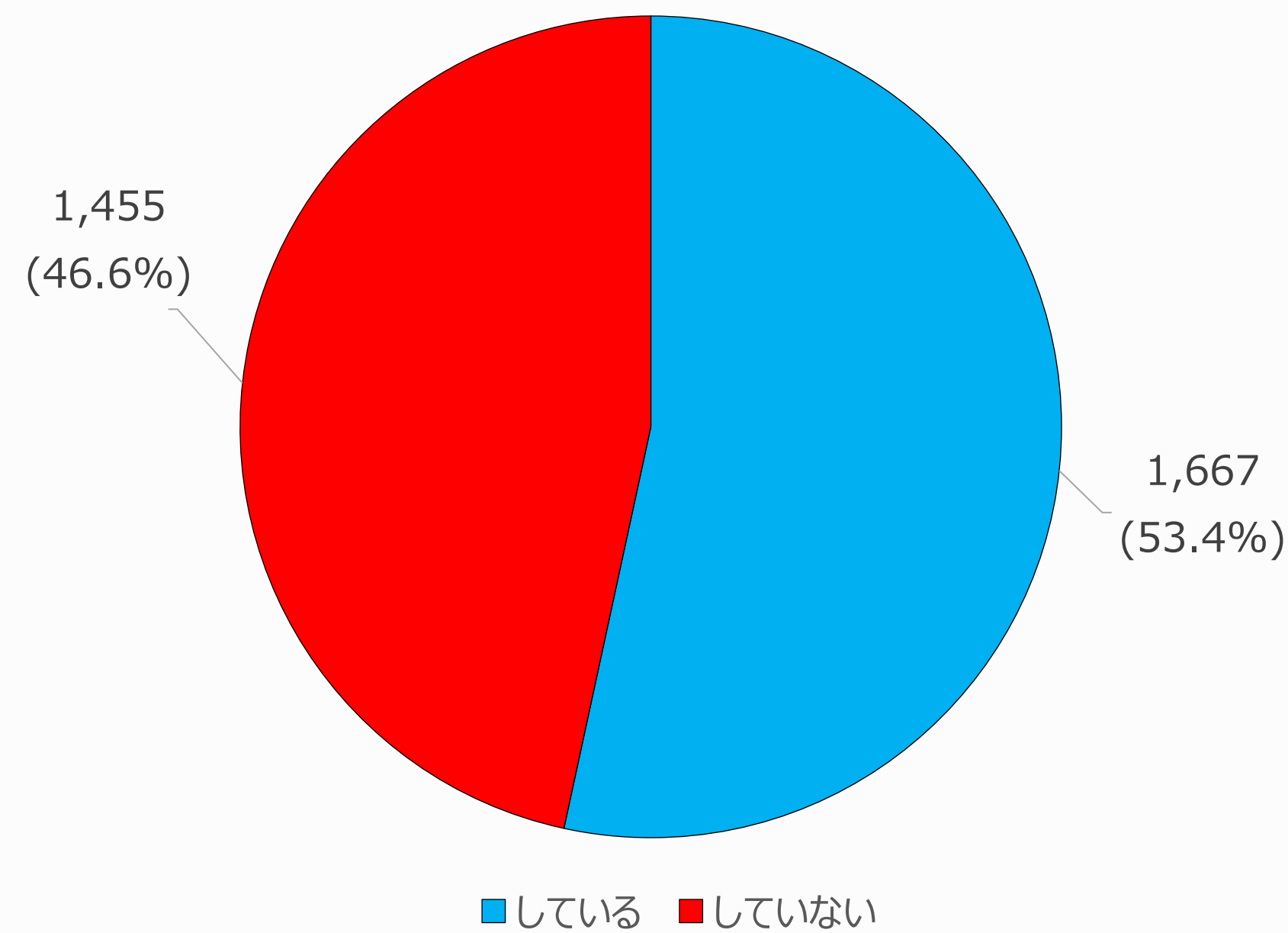


図1-10 剣道以外の習いごとの取り組み状況(N=3,122)

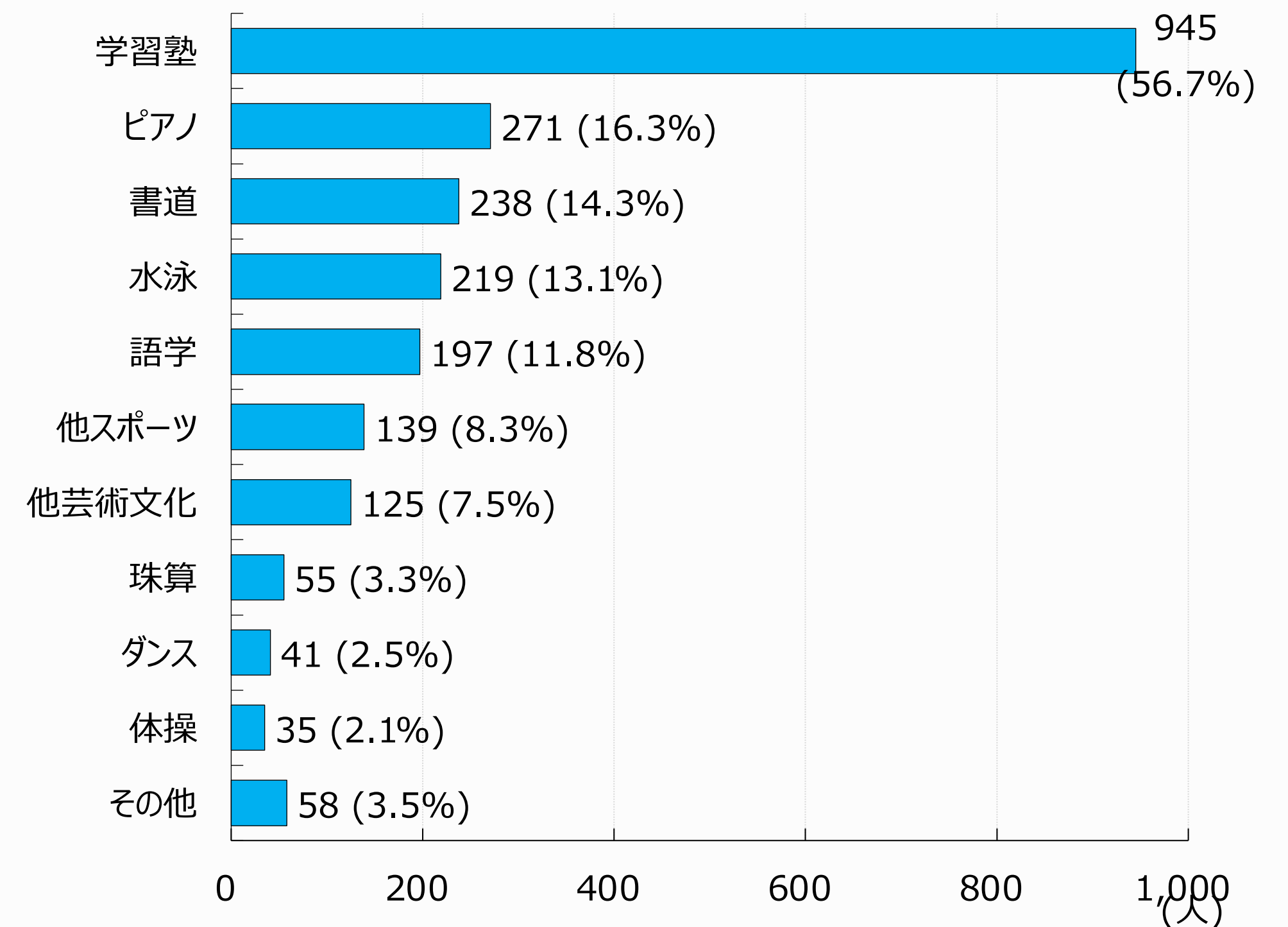


図1-11 剣道以外の習いごとの内容(N=1,667)

- 5割強が剣道以外の習いごとにも取り組む。
- 剣道以外の習いごとの内訳は、学習塾が圧倒的に多く（5割強）、これに次いでピアノや書道、水泳、語学などを学ぶ者が比較的多かった（各1割台）。

剣道を始めた理由

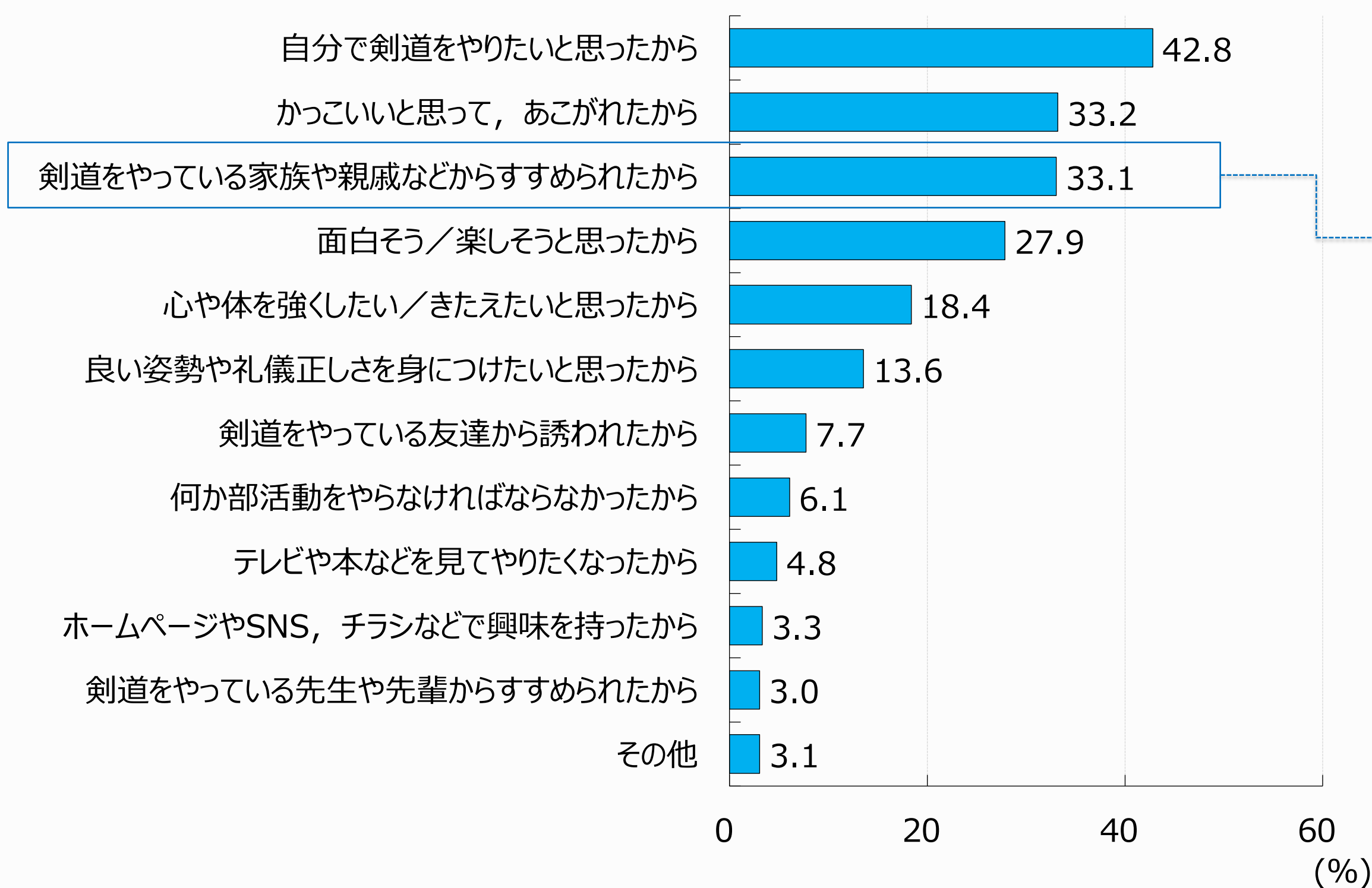


図1-12 剣道を始めた理由(N=3,128)

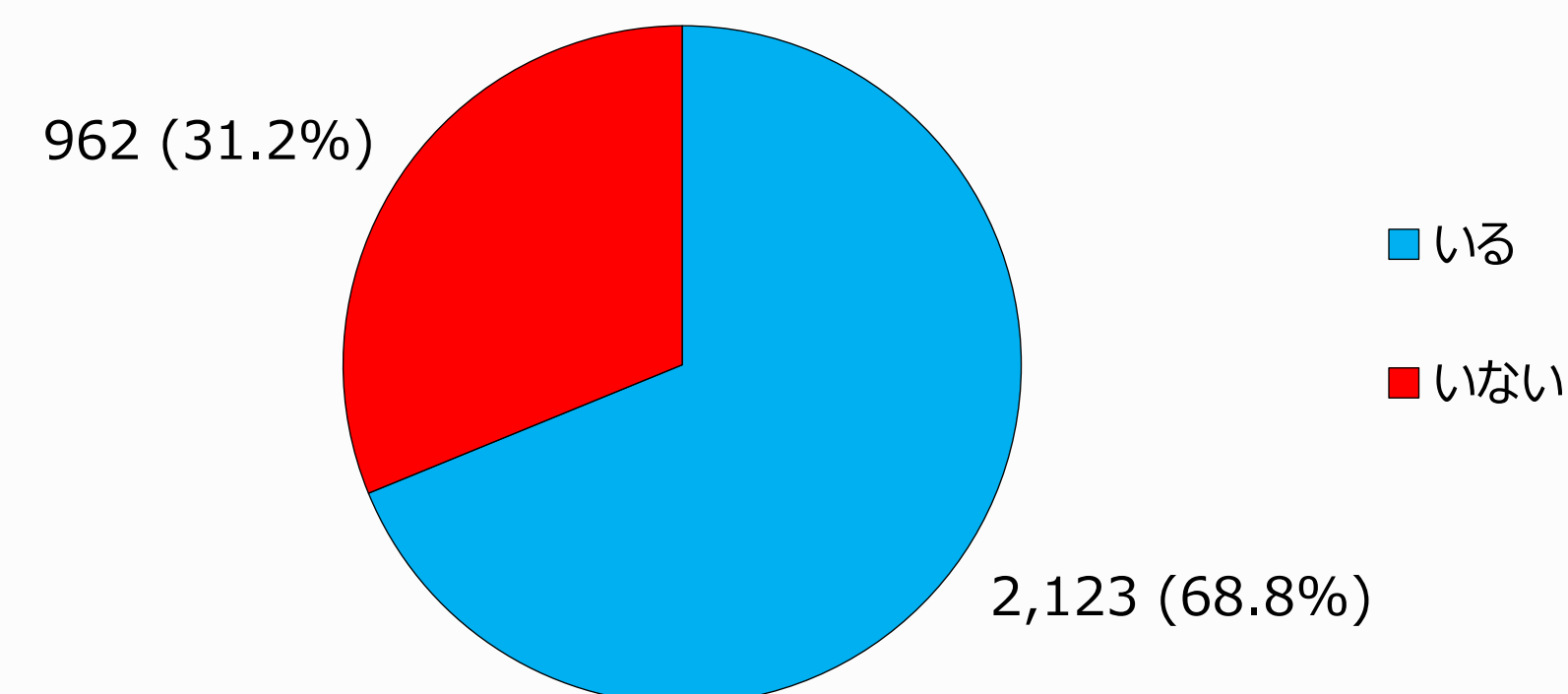


図1-13 家族の剣道経験者の有無(N=3,085)

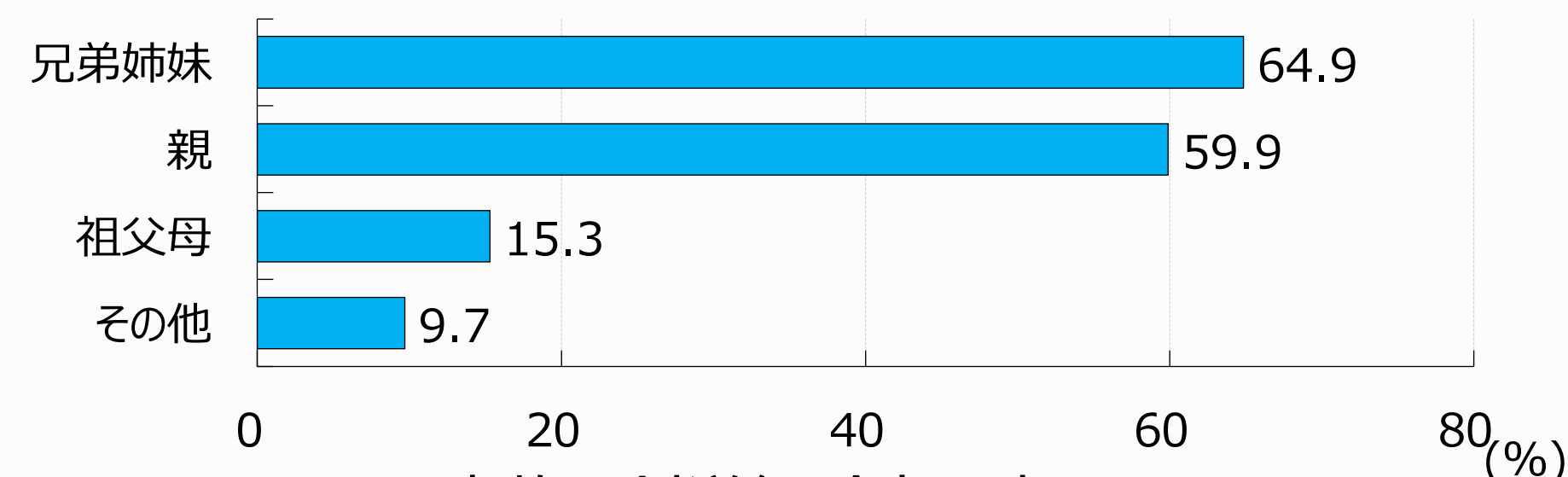


図1-14 家族の剣道経験者の内訳(N=2,123)

- 自分の意思で剣道を始めた者が4割強。
- 他者（家族・親戚，先生・先輩，友人等）の勧めで剣道を始めた者も4割強。
- 家族・親戚等からの勧めで剣道を始めた者が約1/3を占める（家族に剣道経験者がいる者は回答者全体の約2/3）。

剣道を続ける理由と継続意思

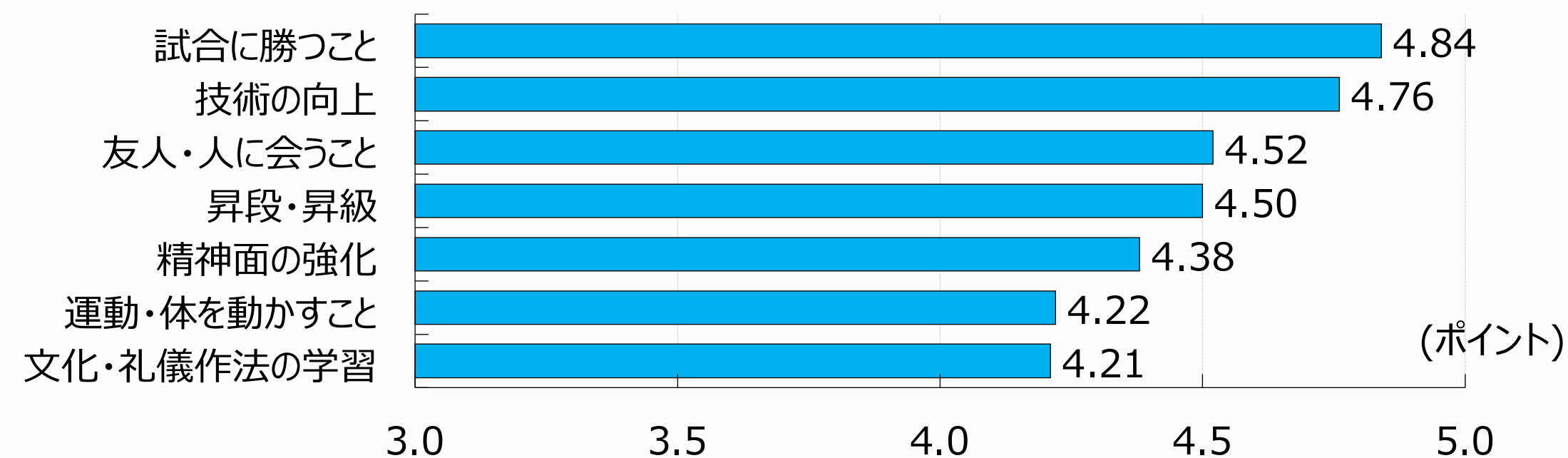


図1-15 剣道でうれしいこと(N=3,128)

注) 5 (とてもうれしい) ・ 4 (少しうれしい) ・ 3 (どちらともいえない) ・ 2 (あまりうれしくない) ・ 1 (全くうれしくない) の5段階評価の平均値

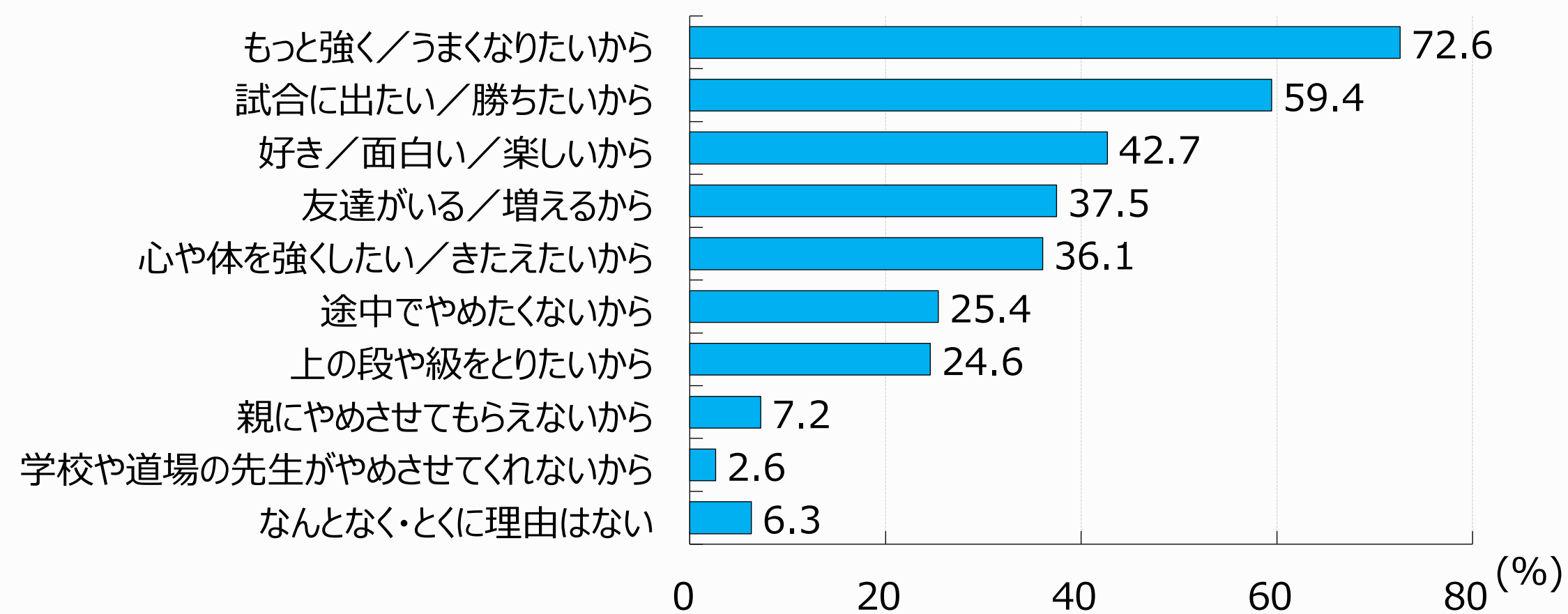


図1-16 剣道を続ける理由(N=3,134)

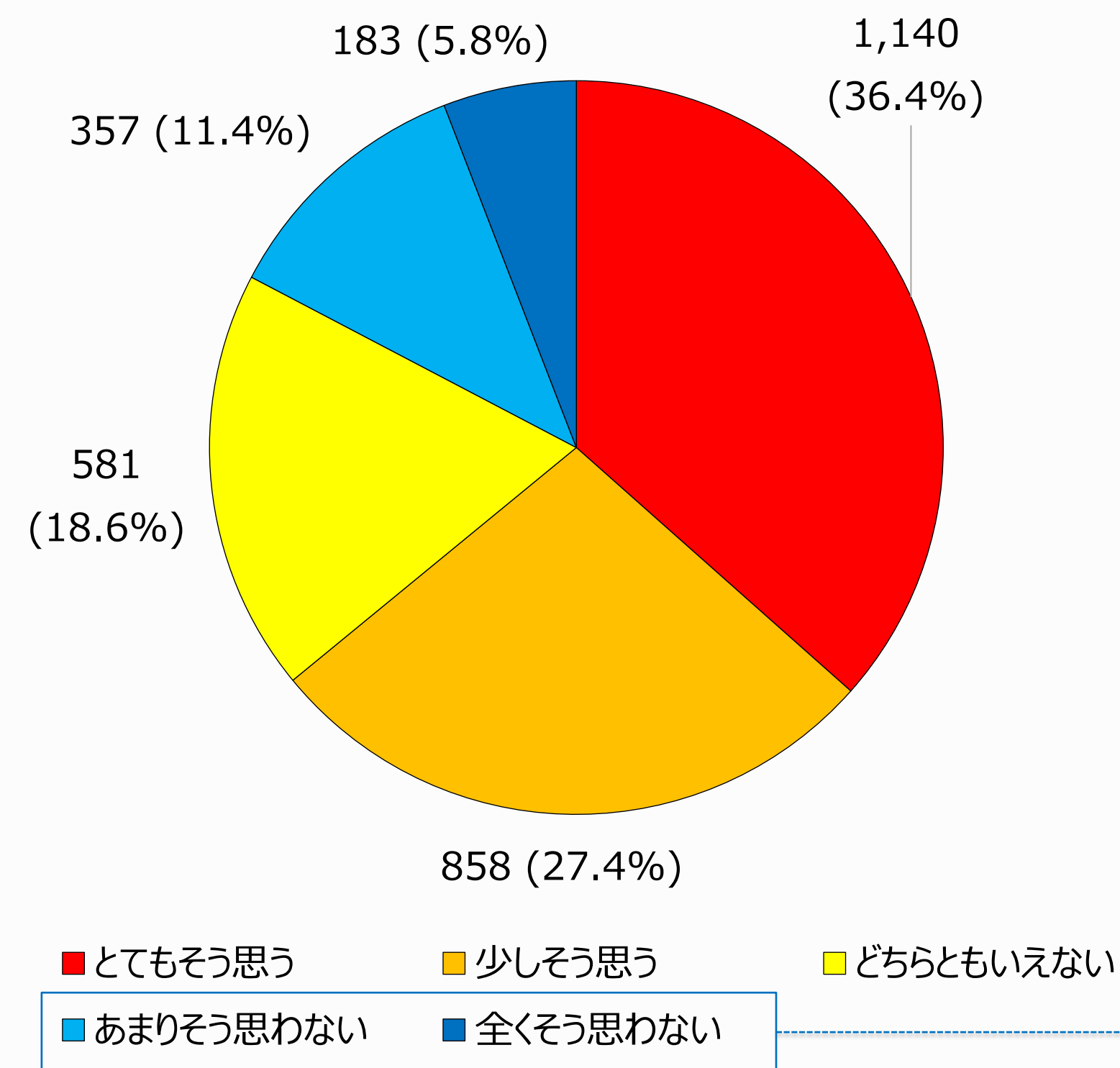


図1-17 剣道の継続意思(N=3,132)

剣道を続けようと思わない理由は次頁を参照

- 剣道を続ける理由（モチベーション）は、技術の向上と試合に勝つことがメイン。友人関係も重要な要素。
- 約2/3が剣道を続ける意思をもつ。続ける意思のない者は2割弱。

02 剣道を続けようと思わない理由

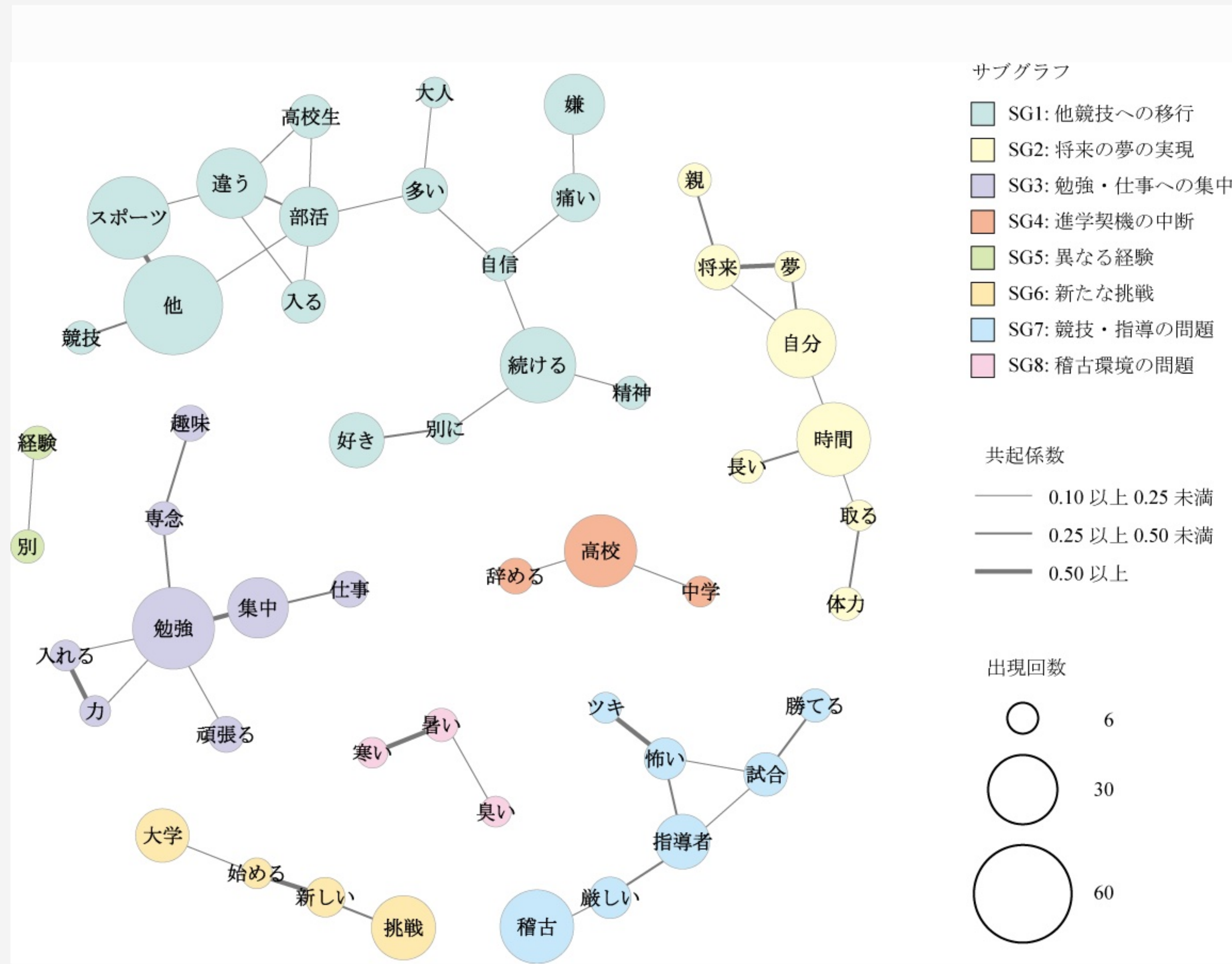


図1-18 剣道を続けようと思わない理由（自由記述）の頻出語の共起ネットワーク

注) KH-Coder3を用いたテキスト分析。記入者数551，分析対象文619，総抽出語数5,947（うち2,248語使用），異なり語数718（うち542語使用）。最小出現回数6，上位50の共起関係を抽出，Cosine法による。

続けようと思わない理由は、

① 勉強・仕事への集中または他競技等への移行（プル要因，SG1～6）

と、

② 剣道自体が抱える問題点（プッシュ要因，SG7・8）

に大別される。

剣道に対する認識(1)

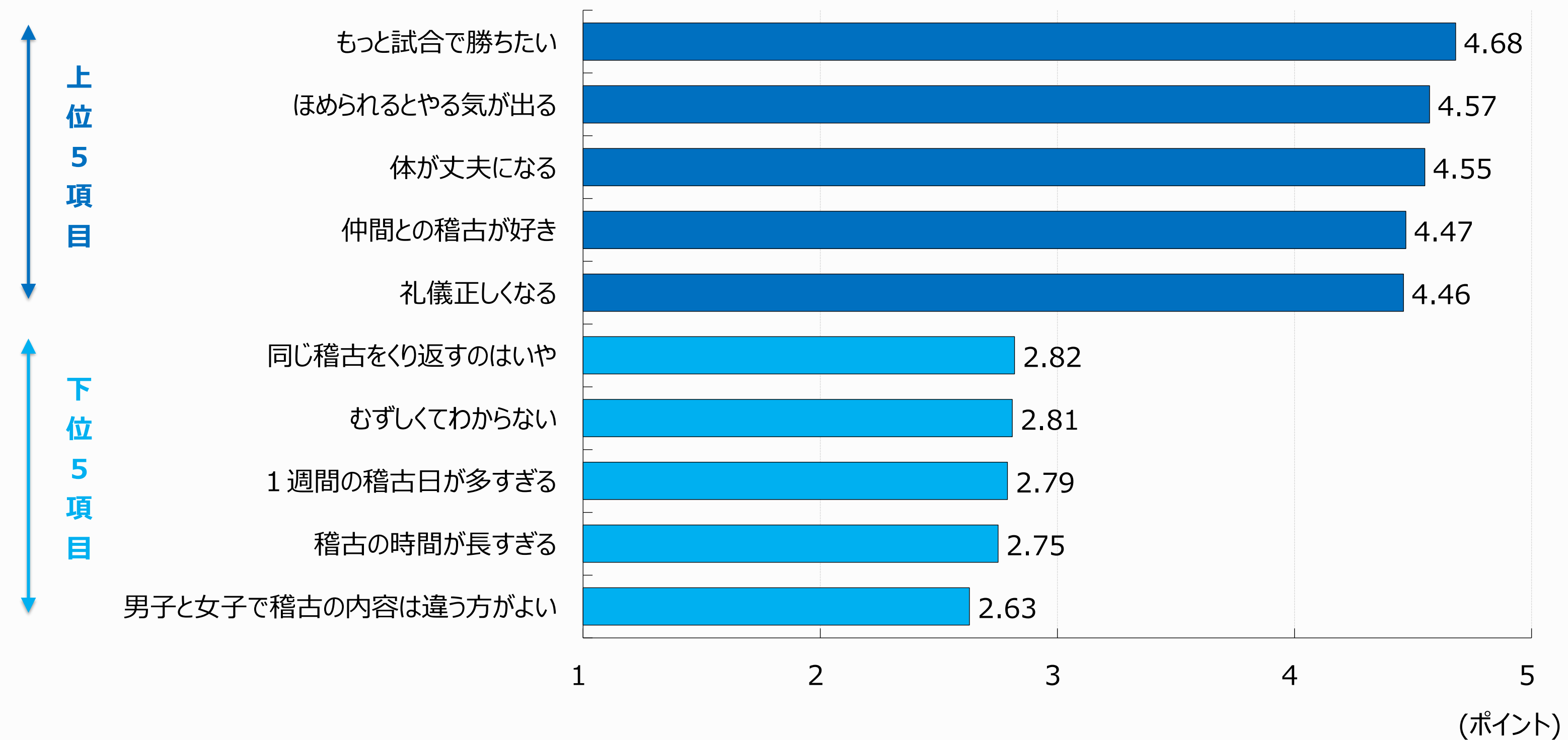


図1-19 剣道について思うこと(N=3,120)

注1) 5 (とてもそう思う)・4 (少しそう思う)・3 (どちらともいえない)・2 (あまりそう思わない)・1 (全くそう思わない) の5段階評価の平均値

注2) 青グラフは上位5項目, 水色グラフは下位5項目

- 肯定的に捉える要素：勝利，ほめること，体力，仲間，礼儀 など
- 変えなくてよいと考える要素：稽古頻度・時間・方法 など

剣道に対する認識(2)

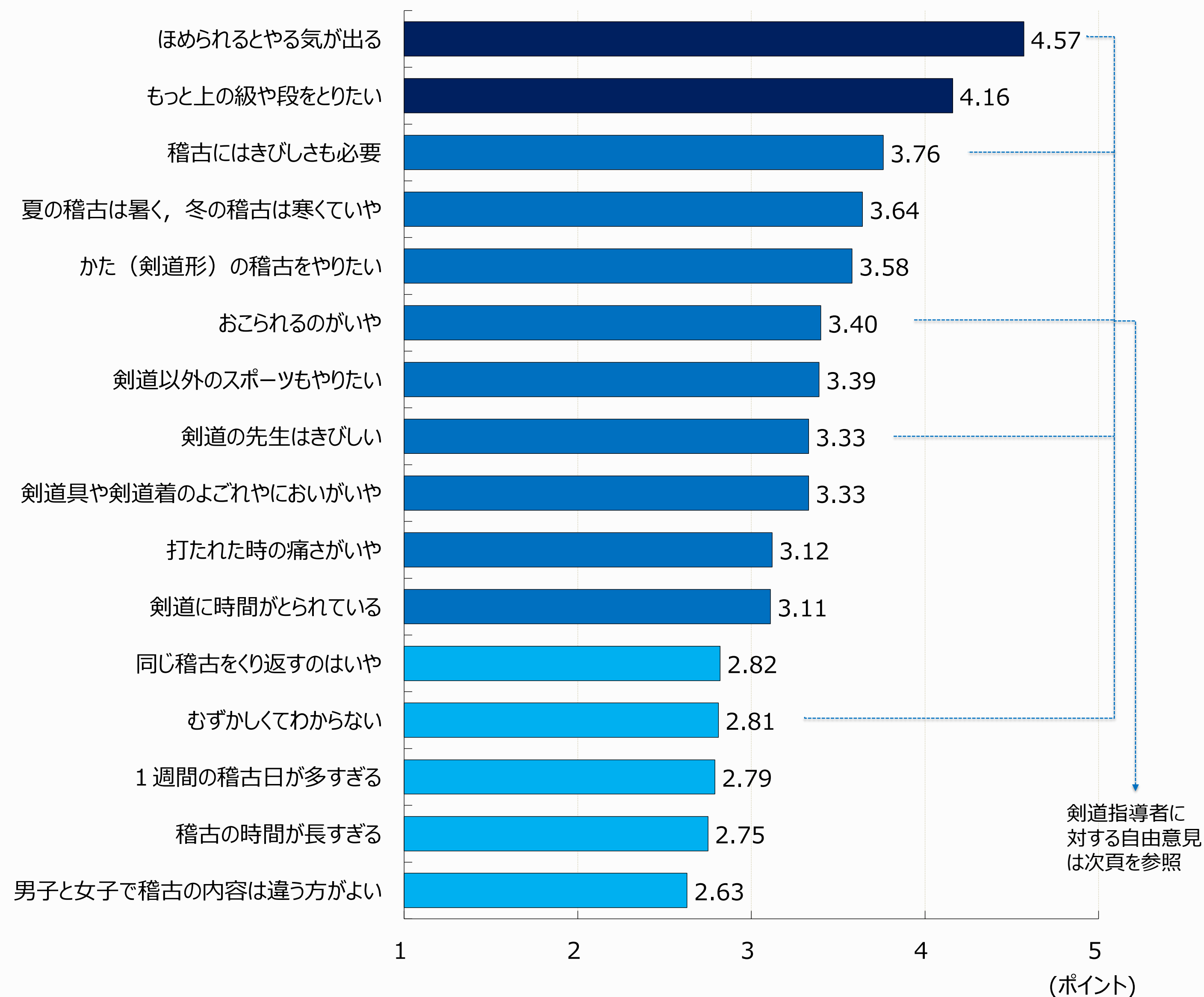


図1-20 剣道（稽古・指導）について思うこと(N=3,120)

注1) 5 (とてもそう思う)・4 (少しそう思う)・3 (どちらともいえない)・2 (あまりそう思わない)・1 (全くそう思わない) の5段階評価の平均値
 注2) 紺グラフは平均値4.00以上、青グラフは平均値3.00～3.99、水色グラフは平均値2.99以下

- 稽古・指導については、「ほめること」と「昇段・昇級」を高く評価。
- 一定程度の「厳しさ」も必要と考えている。
- 稽古頻度・時間・方法は変えなくてよいと考える傾向にある。

剣道に対する認識(4)

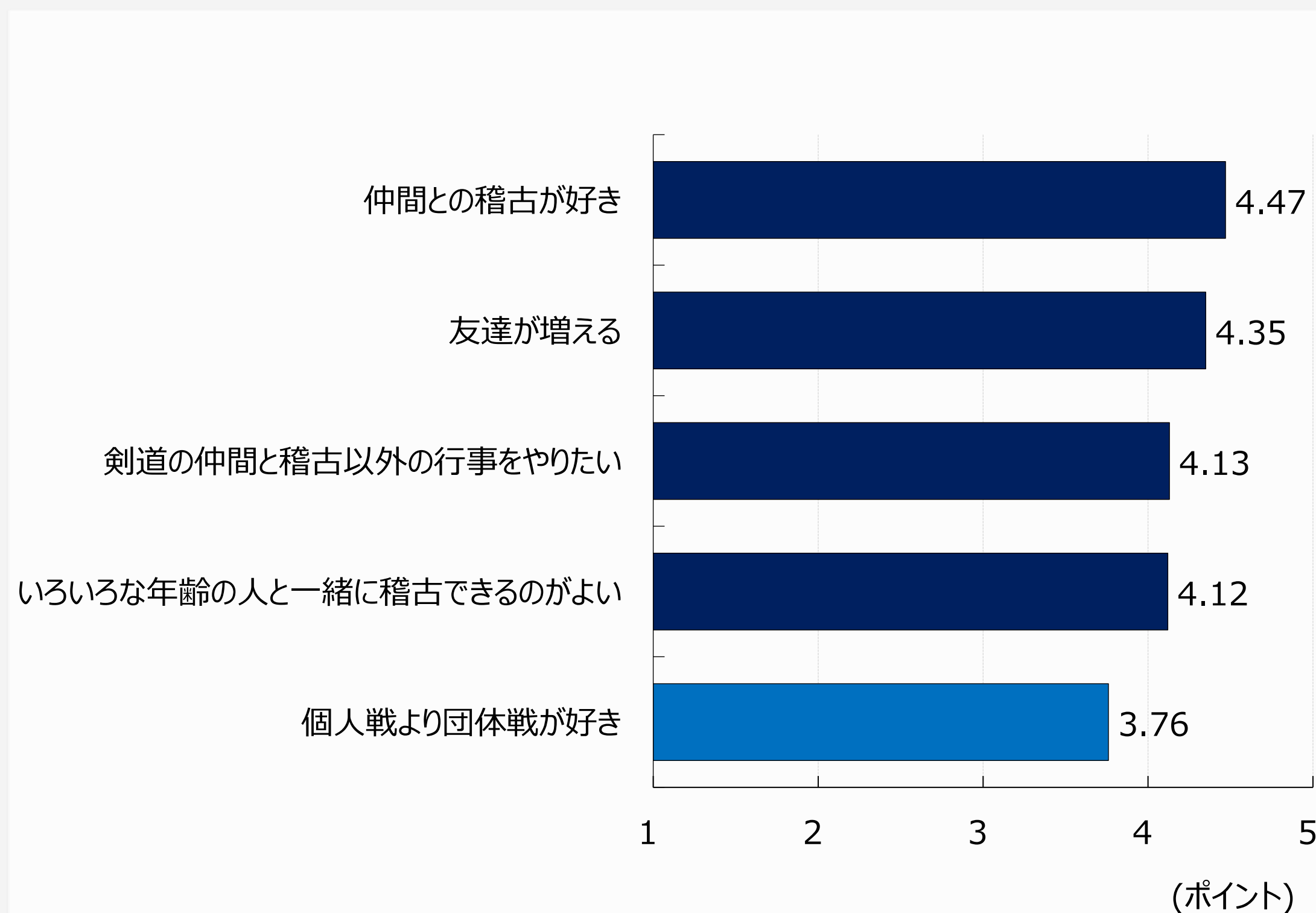


図1-22 剣道（仲間・交流）について思うこと(N=3,120)

注1) 5 (とてもそう思う)・4 (少しそう思う)・3 (どちらともいえない)・2 (あまりそう思わない)・1 (全くそう思わない) の5段階評価の平均値
 注2) 紺グラフは平均値4.0以上, 青グラフは平均値3.0~3.99, 水色グラフは平均値2.99以下

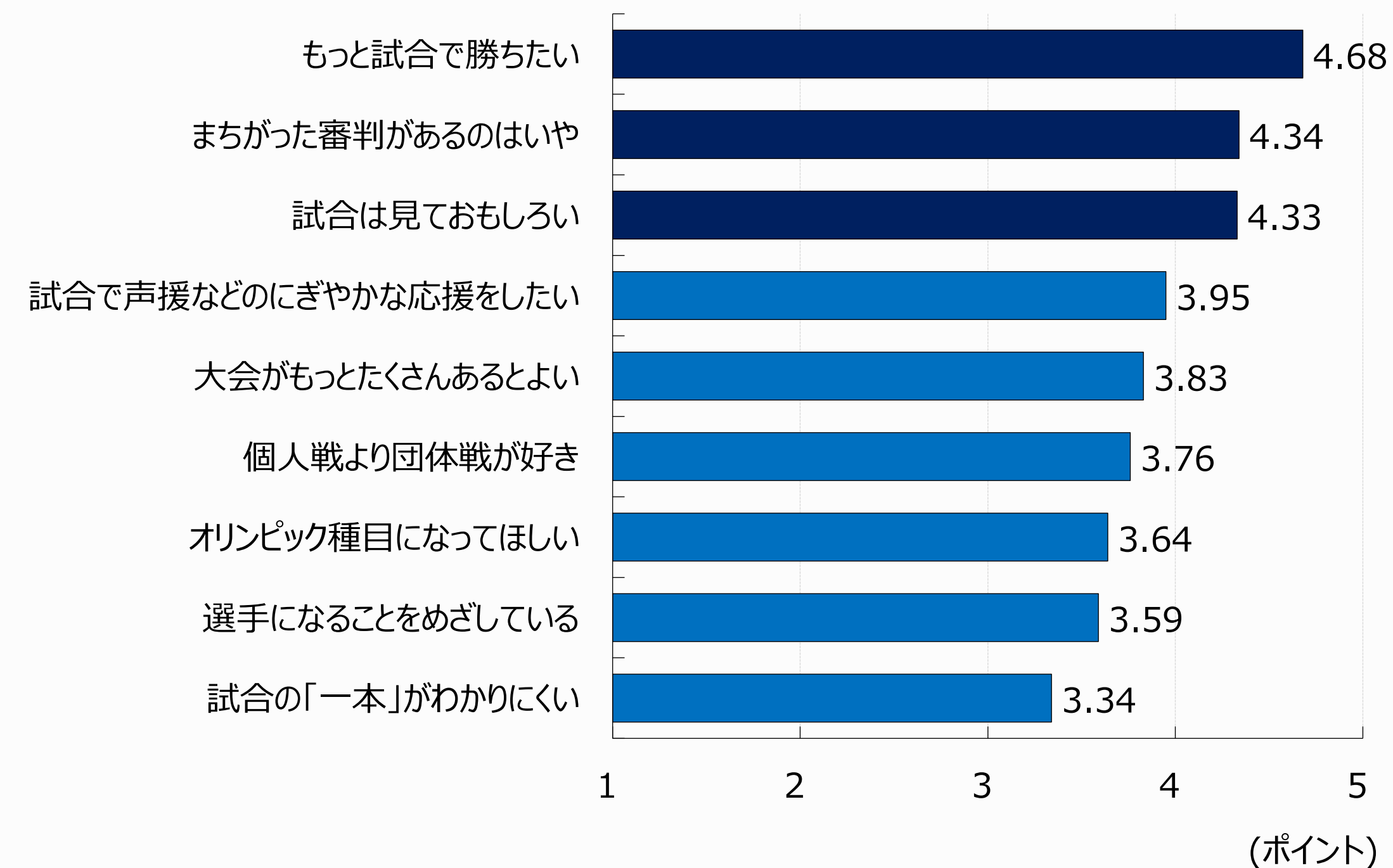


図1-23 剣道（試合）について思うこと(N=3,120)

注1) 5 (とてもそう思う)・4 (少しそう思う)・3 (どちらともいえない)・2 (あまりそう思わない)・1 (全くそう思わない) の5段階評価の平均値
 注2) 紺グラフは平均値4.0以上, 青グラフは平均値3.0~3.99, 水色グラフは平均値2.99以下

- 仲間・交流については、ほとんどの項目が4.0以上の高評価。
- 試合については、自分（たち）が勝つこと、他者の試合を見ることを高く評価する一方で、誤審をなくすことを強く期待。

剣道に対する認識(5)

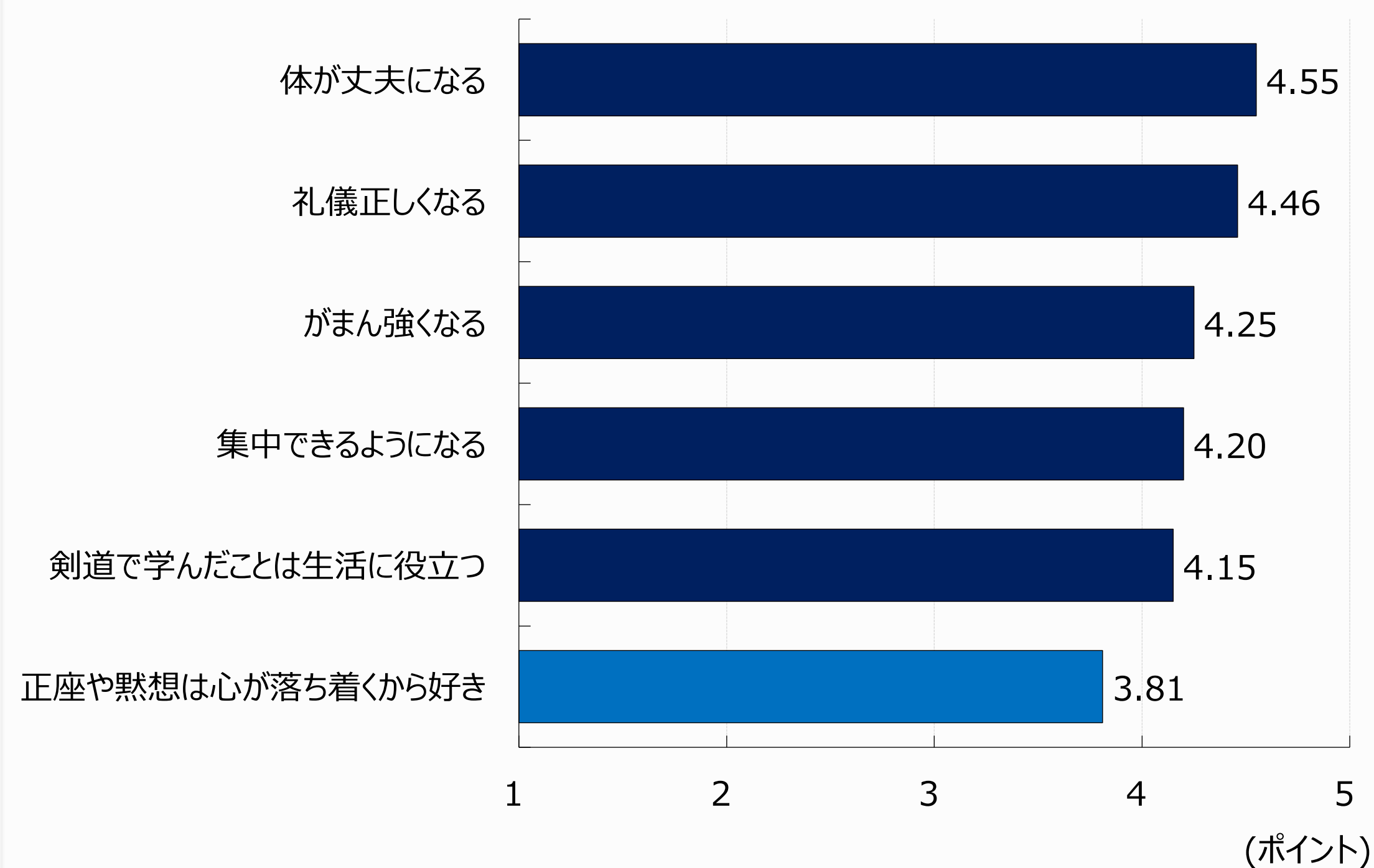


図1-24 剣道（意義・効果）について思うこと(N=3,120)

注1) 5 (とてもそう思う)・4 (少しそう思う)・3 (どちらともいえない)・2 (あまりそう思わない)・1 (全くそう思わない) の5段階評価の平均値
 注2) 紺グラフは平均値4.0以上, 青グラフは平均値3.0~3.99, 水色グラフは平均値2.99以下

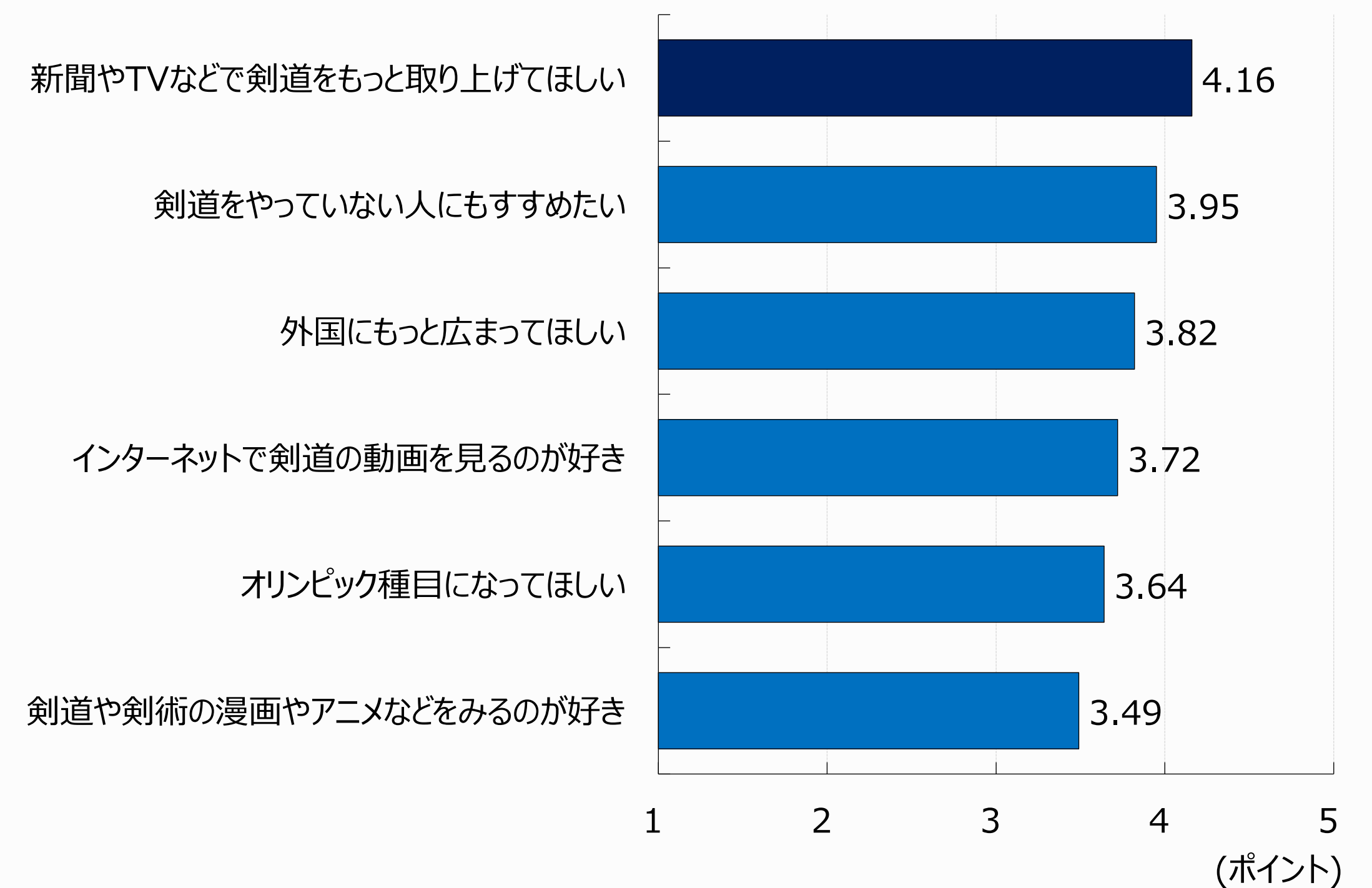


図1-25 剣道（発信・普及）について思うこと(N=3,120)

注1) 5 (とてもそう思う)・4 (少しそう思う)・3 (どちらともいえない)・2 (あまりそう思わない)・1 (全くそう思わない) の5段階評価の平均値
 注2) 紺グラフは平均値4.0以上, 青グラフは平均値3.0~3.99, 水色グラフは平均値2.99以下

- 意義・効果については, ほとんどの項目が4.0以上の高評価。
- 発信・普及については, メディア掲載を強く期待。国内外への普及も期待されている。

剣道に対する認識(6)

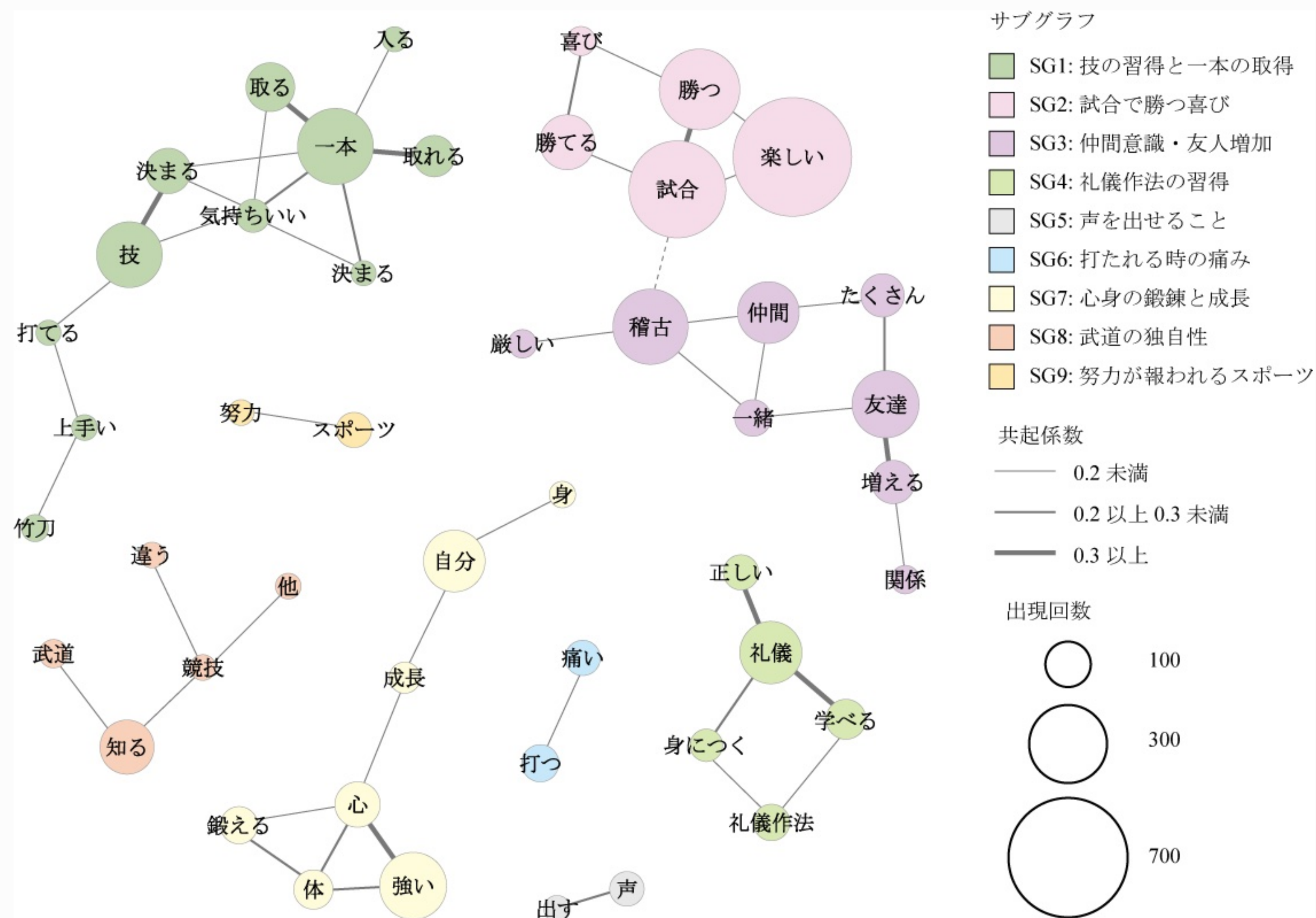


図1-26 剣道の魅力に関する自由記述の頻出語の共起ネットワーク

注) KH-Coder3を用いたテキスト分析。記入者数2,499, 分析対象文3,354, 総抽出語数40,653 (うち16,967語使用), 異なり語数2,242 (うち1,851語使用)。最小出現回数30, 上位50の共起関係を抽出, Cosine法による。

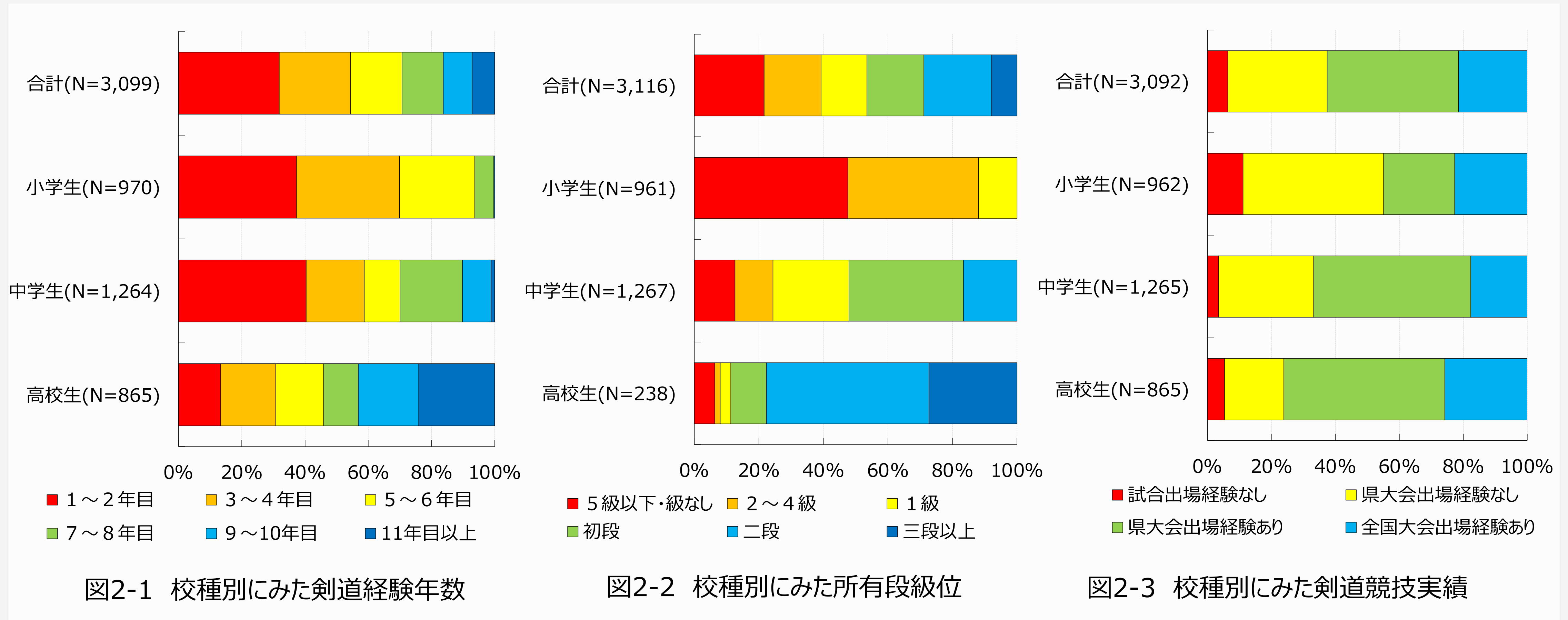
- 剣道の魅力として,
 - ① 技の習得と一本の取得 (SG1)
 - ② 試合で勝つ喜び (SG2)
 - ③ 仲間意識・友人増加 (SG3)
 を挙げる者が特に多い。
- これらに加えて, 剣道の文化性を剣道に独自の魅力と捉える者もみられる。(SG4,5,8,9)



03 校種別傾向



【校種別】剣道の取り組み状況(1)



- 学年が上がるほど、経験年数、段級位、競技実績も上昇。

【校種別】剣道の取り組み状況(2)

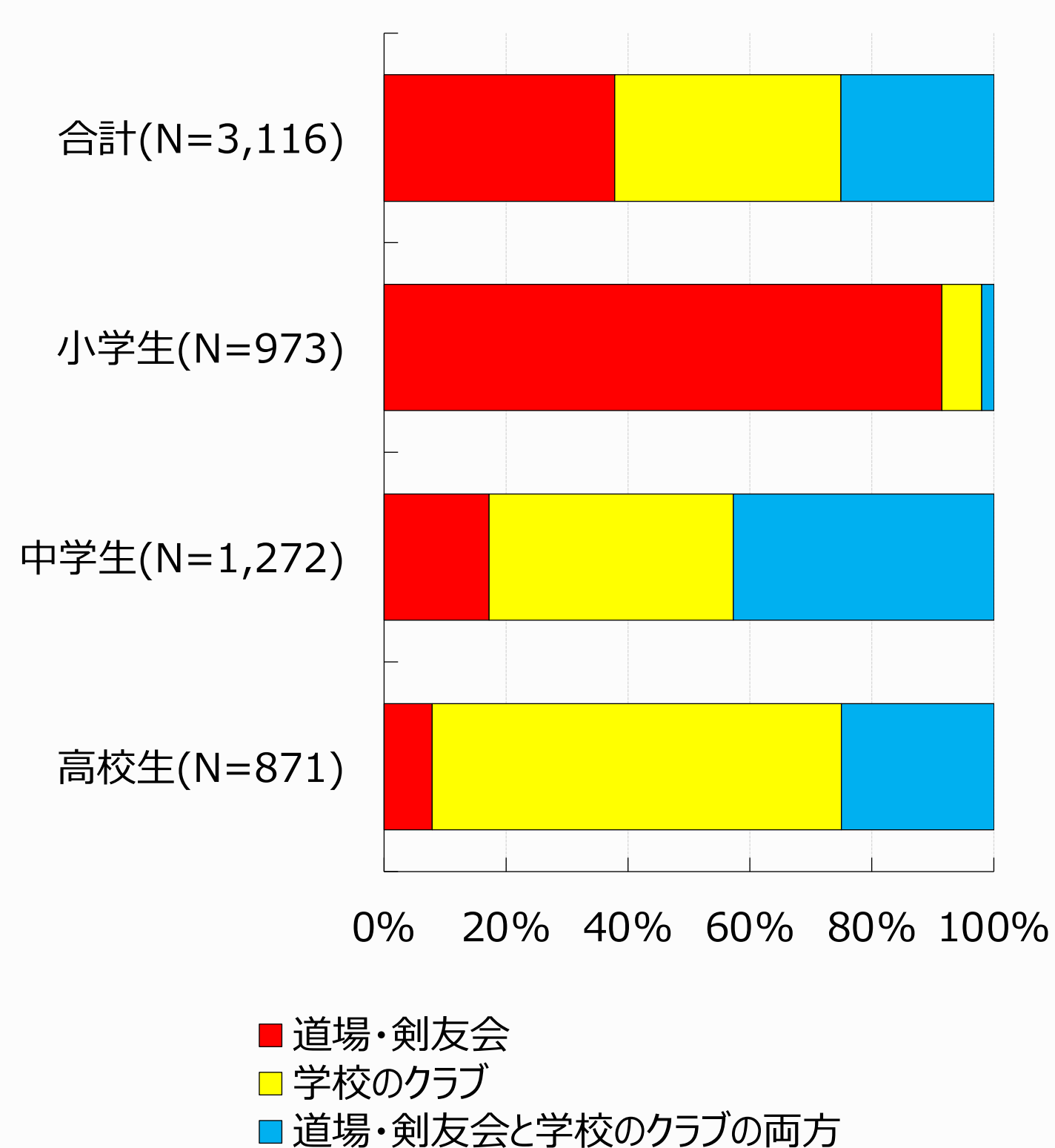


図2-4 校種別にみた稽古場所

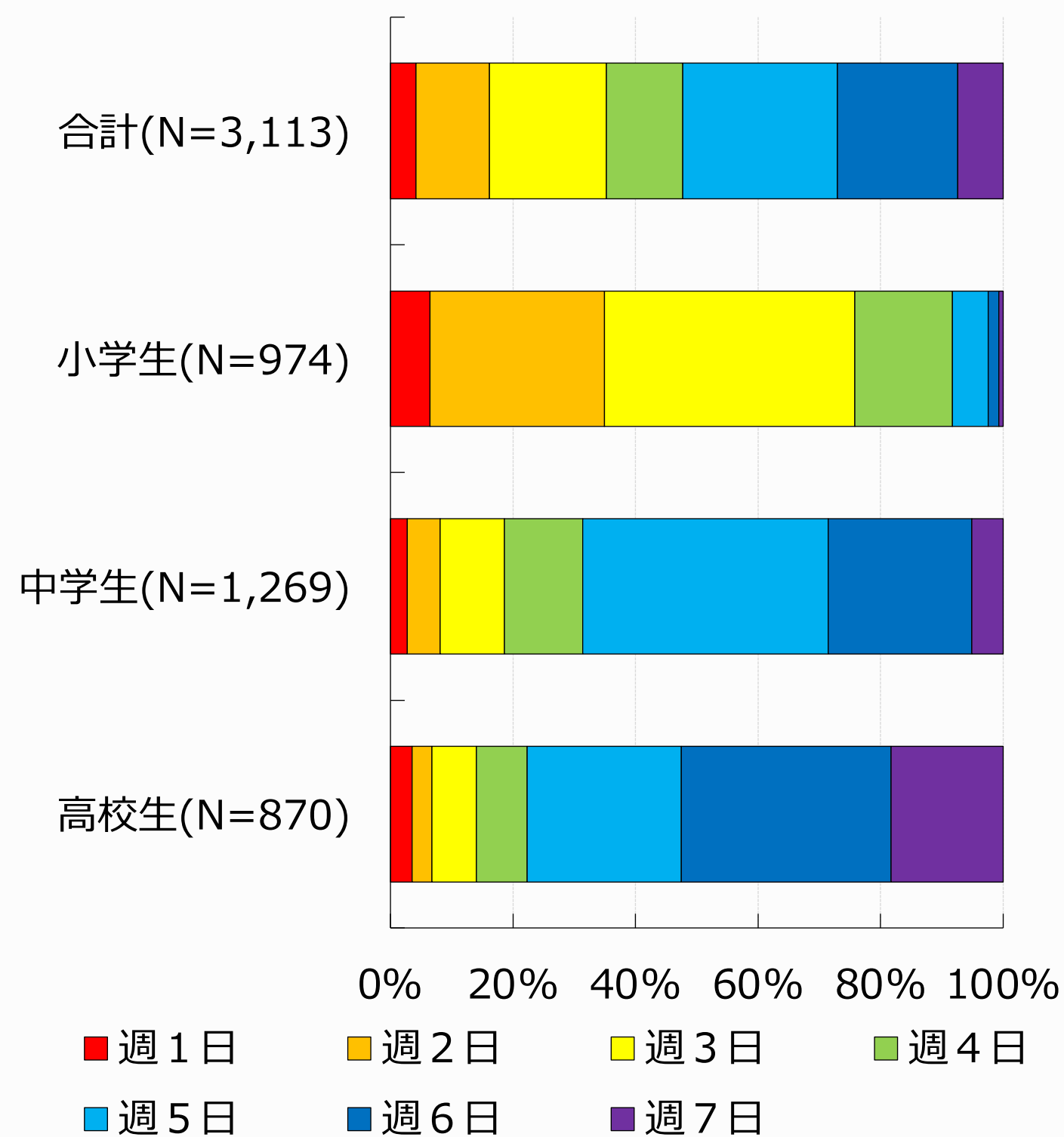


図2-5 校種別にみた稽古回数

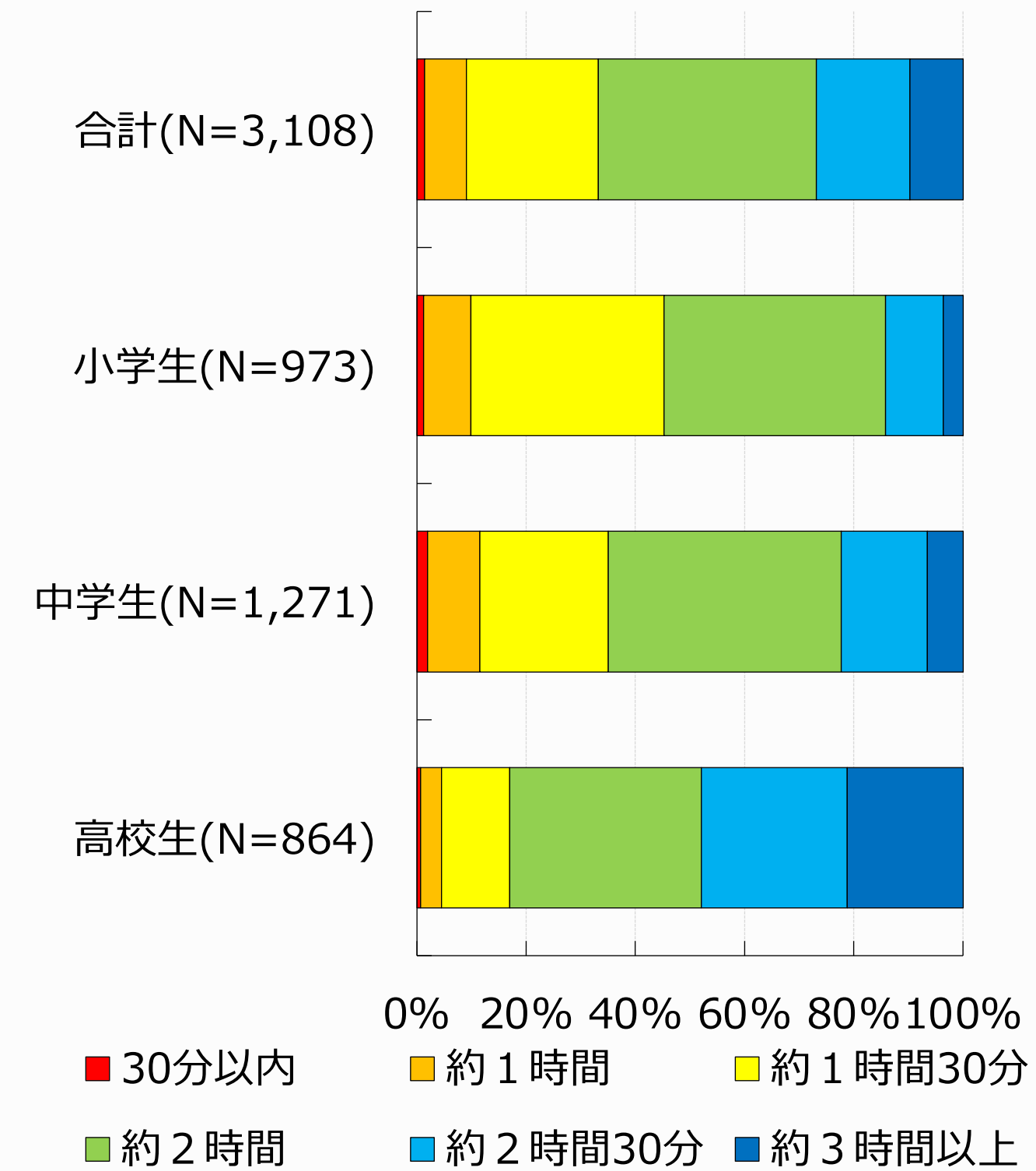


図2-6 校種別にみた1回当たり稽古時間

- 小学生は道場・剣友会，中高生は学校のクラブが主たる稽古場となっている。
- 学年が上がるほど，1週間当たりの稽古回数が増加。
中学生は約7割，高校生は8割弱が週5日以上稽古を実施。
- 学年が上がるほど，1回当たり稽古時間が増加。
高校生は約5割が1回当たり約2時間30分以上の稽古を実施。

【校種別】剣道以外の習いごと

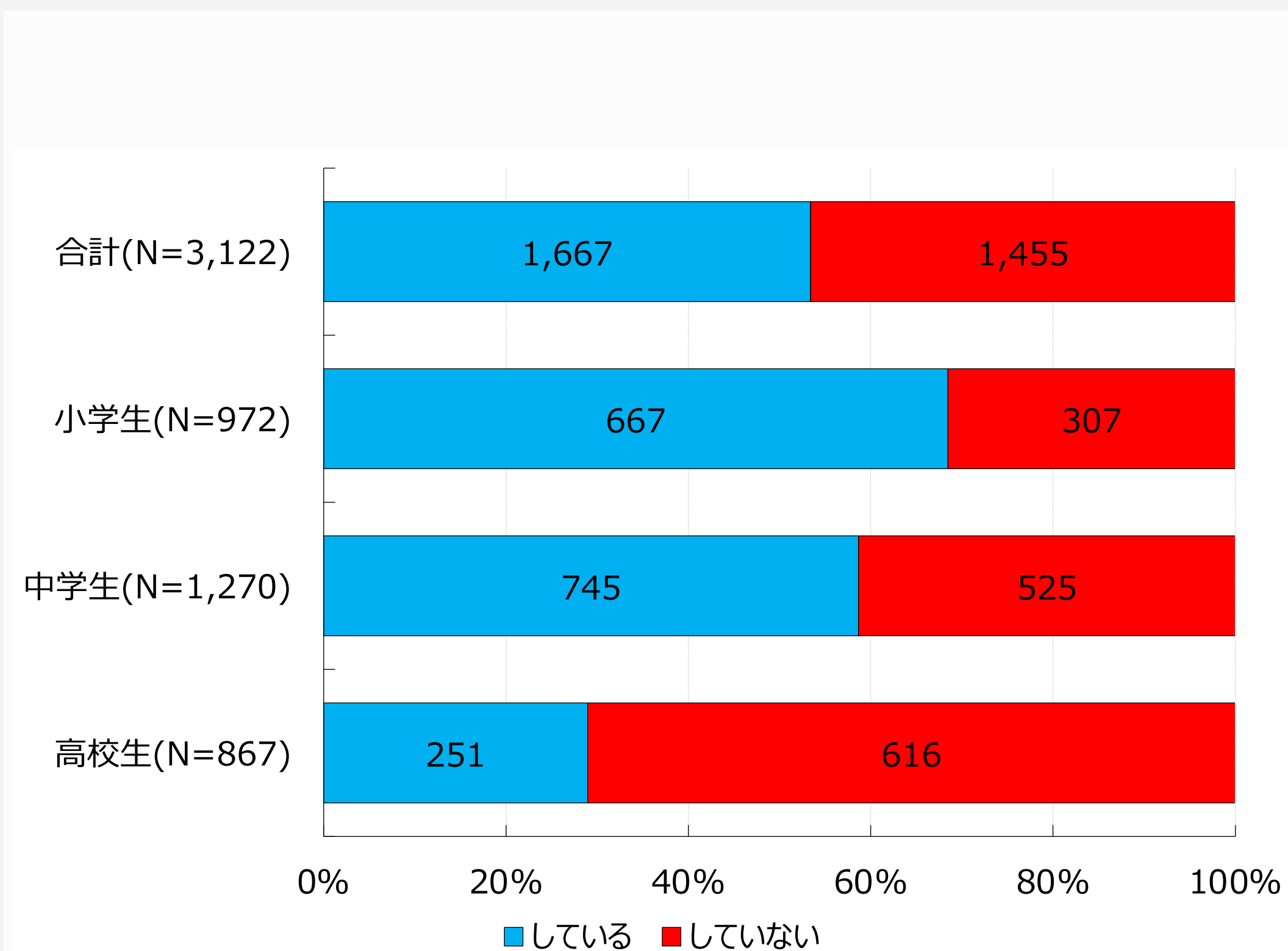


図2-7 校種別にみた剣道以外の習いごとの取り組み状況

表2-1 校種別にみた剣道以外の習いごとの内容

小学生(N=667)			中学生(N=745)			高校生(N=251)		
項目	回答者数	回答率(%)	項目	回答者数	回答率(%)	項目	回答者数	回答率(%)
学習塾	245	36.7	学習塾	528	70.9	学習塾	170	67.7
水泳	184	27.6	書道	105	14.1	ピアノ	31	12.4
ピアノ	151	22.6	ピアノ	88	11.8	他芸術文化	19	7.6
書道	119	17.8	語学	65	8.7	語学	14	5.6
語学	116	17.4	他芸術文化	52	7.0	書道	14	5.6

- 学年が上がるに従い、剣道以外の習いごとに取り組む者の割合が低下。
- いずれの校種でも、習いごとの内容は学習塾がトップ。
- 小学生はさまざまな習いごとに取り組むが、中高生は学習塾の割合が上昇して他の習いごとの割合は大きく低下。

【校種別】剣道を始めた理由



図2-8 校種別にみた剣道を始めた理由

注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

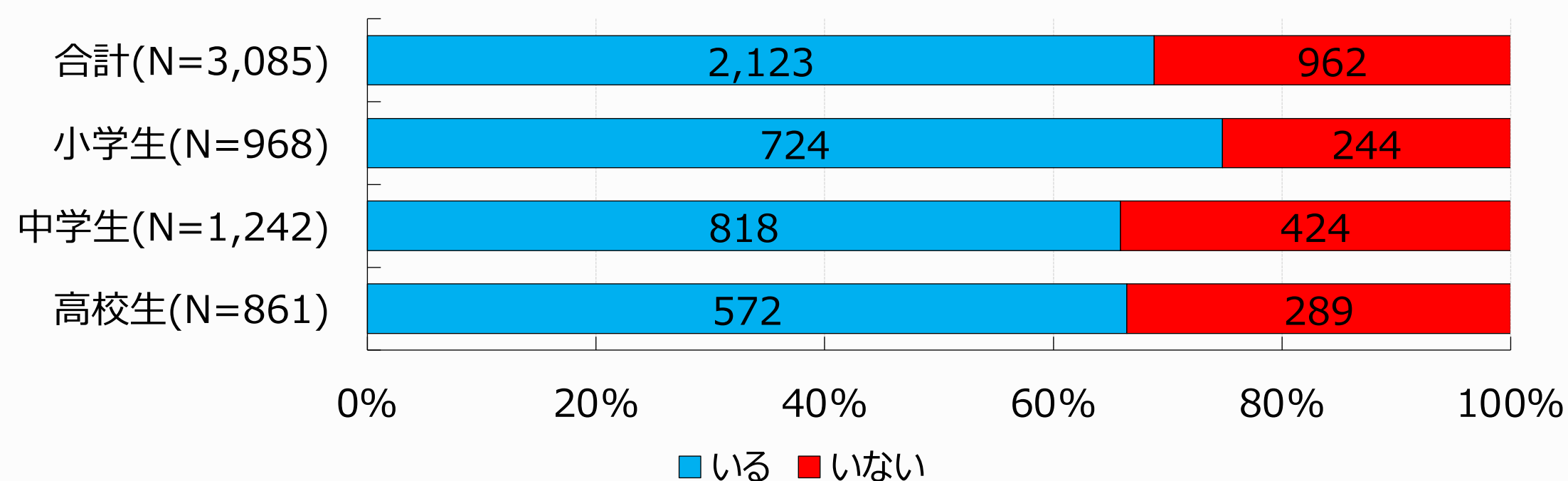


図2-9 校種別にみた家族の剣道経験者の有無

- 小学生は、家族や親戚からの勧め、各種メディアの影響から剣道を始めた者が比較的多い（他者の影響）。
- 中学生は、剣道をかっこいい／楽しいものと捉え、心身の鍛錬や礼儀正しさの習得をめざして、剣道を始めた者が比較的多い（自らの選択）。

【校種別】剣道を続ける理由と継続意思

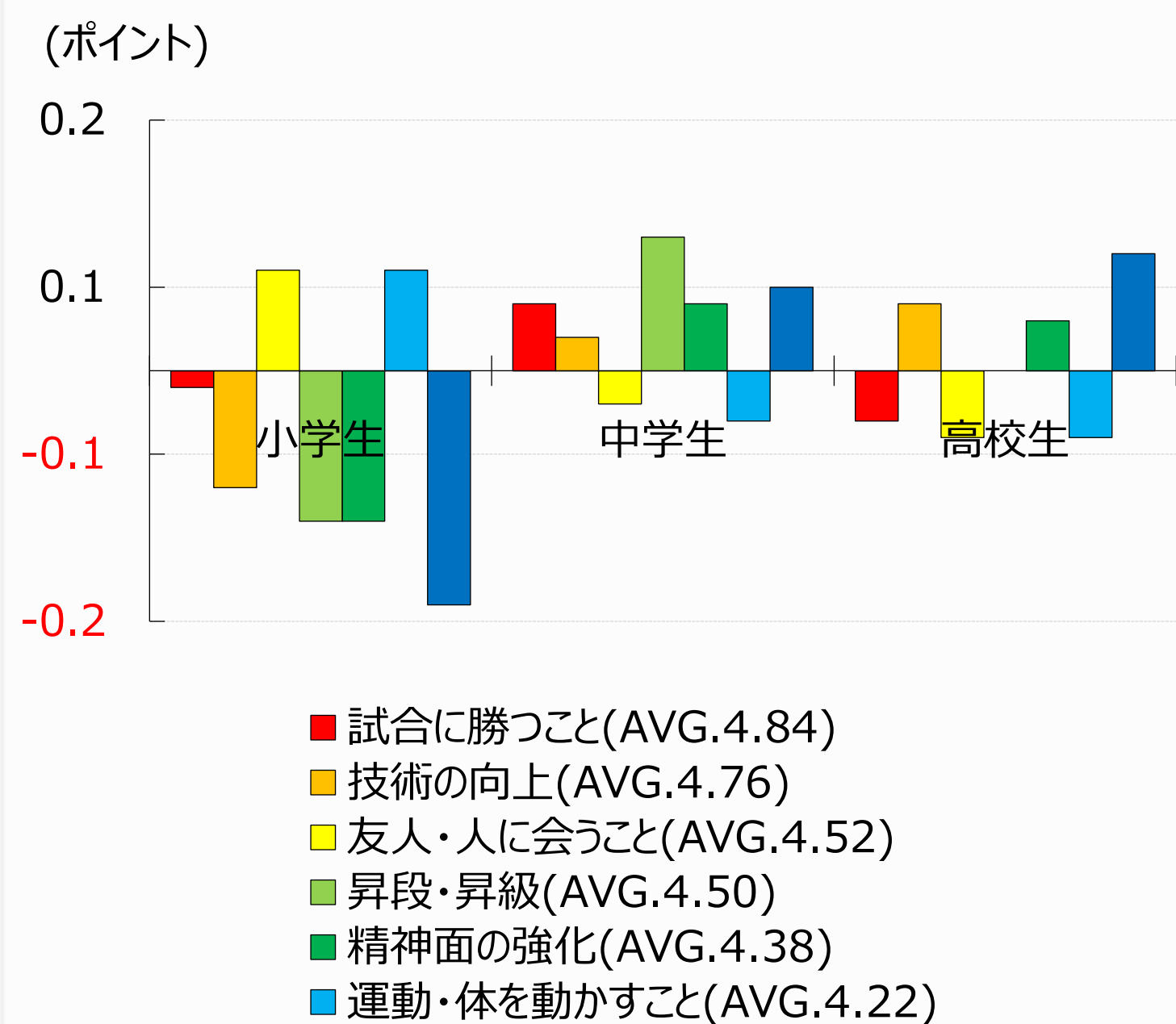


図2-10 校種別にみた剣道でうれしいこと
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

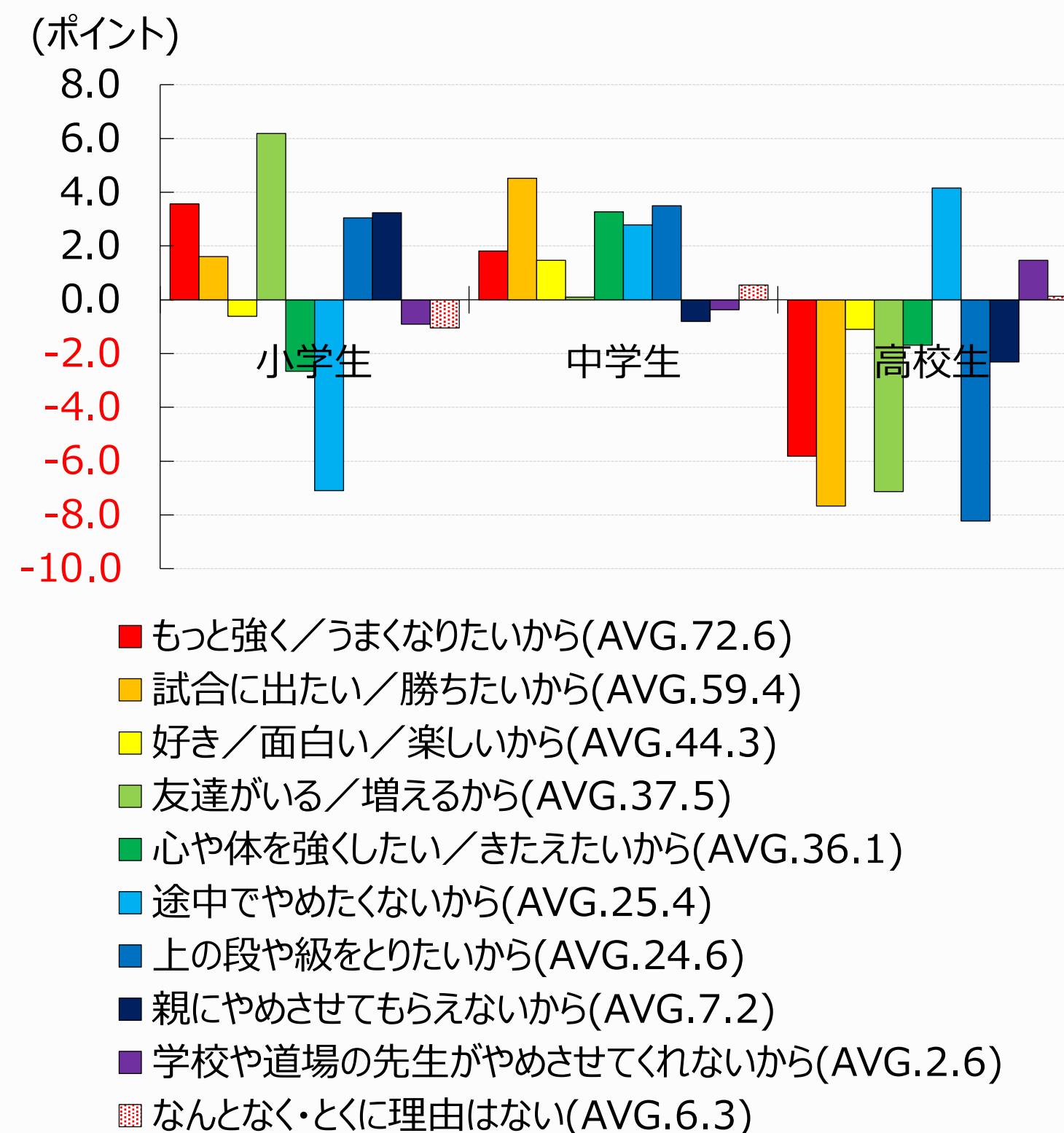


図2-11 校種別にみた剣道を続ける理由
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

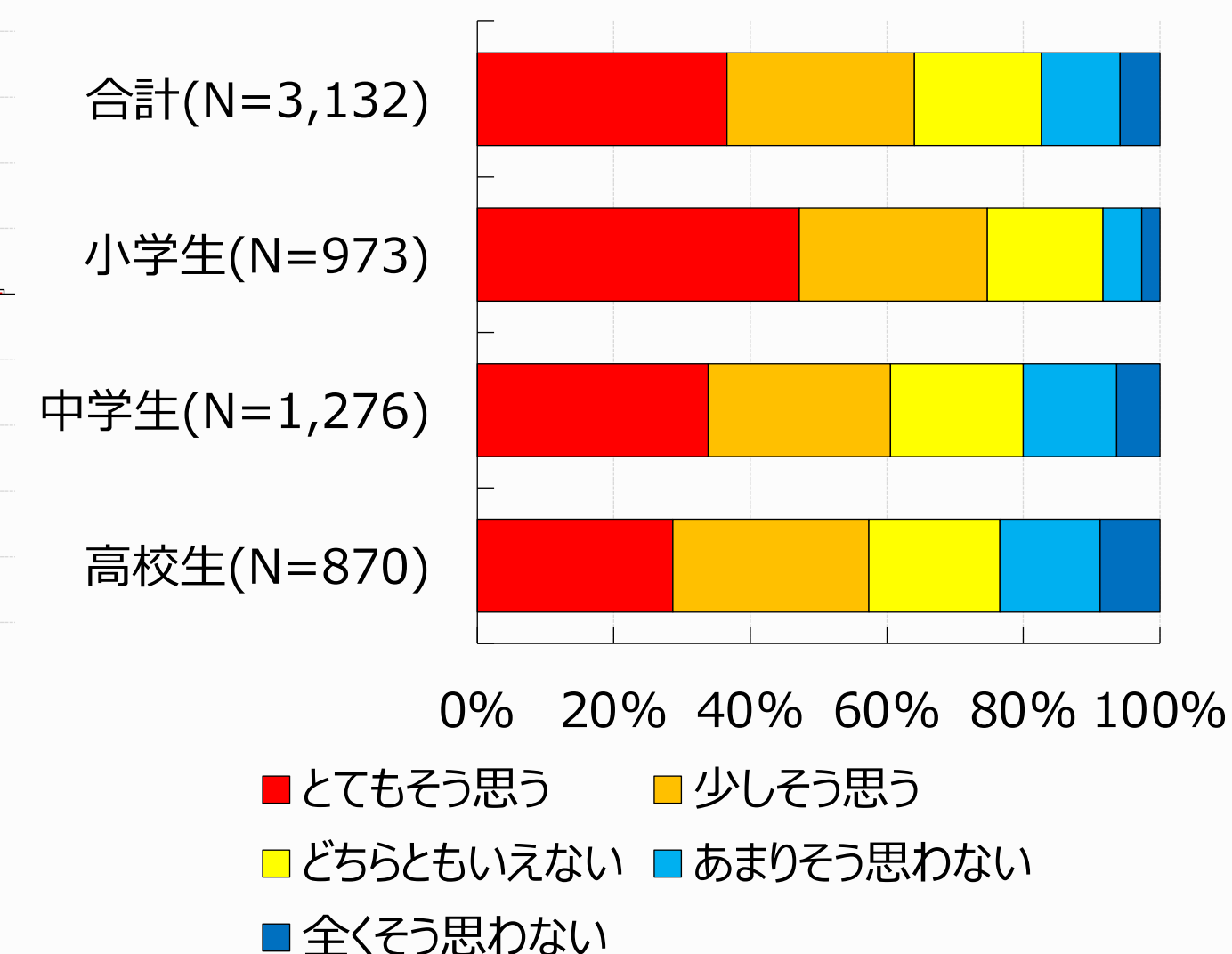


図2-12 校種別にみた剣道の継続意思

- 小学生は仲間・交流，中学生は昇段・昇級と試合での勝利が主な継続要因。
- 学年が上がるに従い，剣道を継続しようとする者の割合が低下。

【校種別】剣道に対する認識(1)

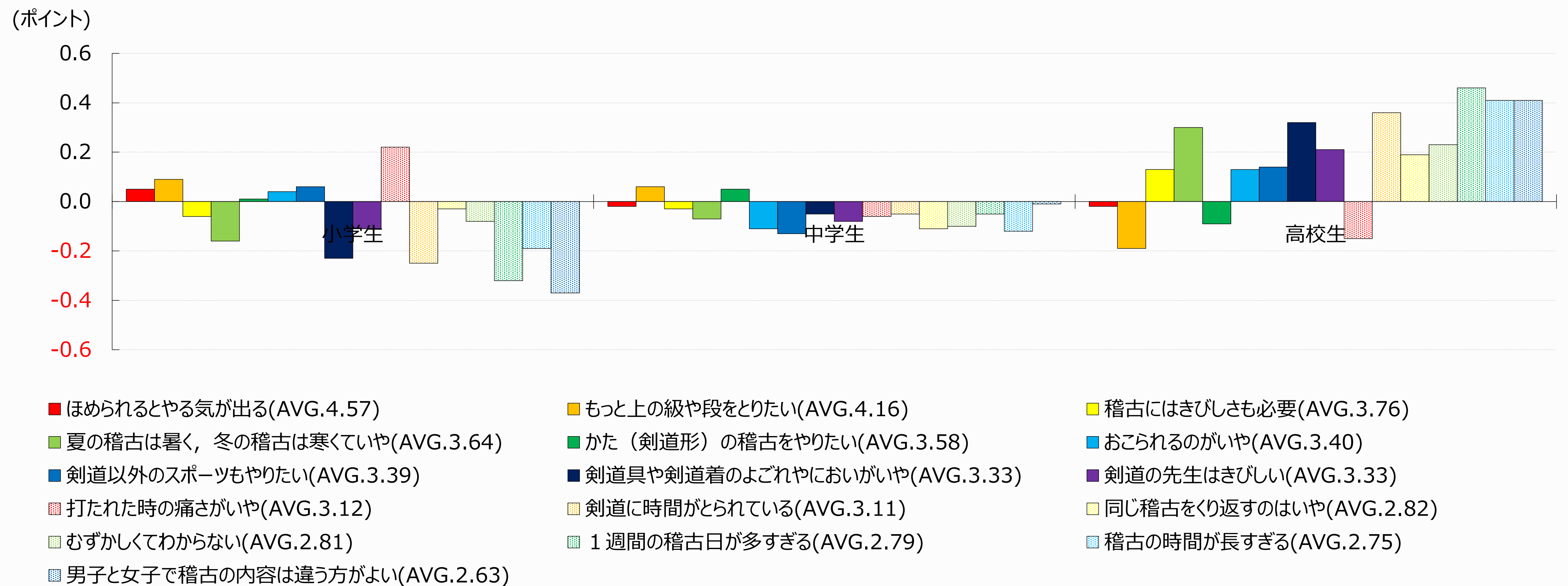


図2-13 校種別にみた剣道(稽古・指導)について思うこと

注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

- 小学生は、稽古の頻度や時間、方法、環境への満足度が比較的高いが、打たれた時の痛さを嫌だと感じる者の割合がやや高い。
- 高校生は、稽古の頻度や時間、方法、環境への不満をもつ者の割合が比較的高い。

【校種別】剣道に対する認識(2)

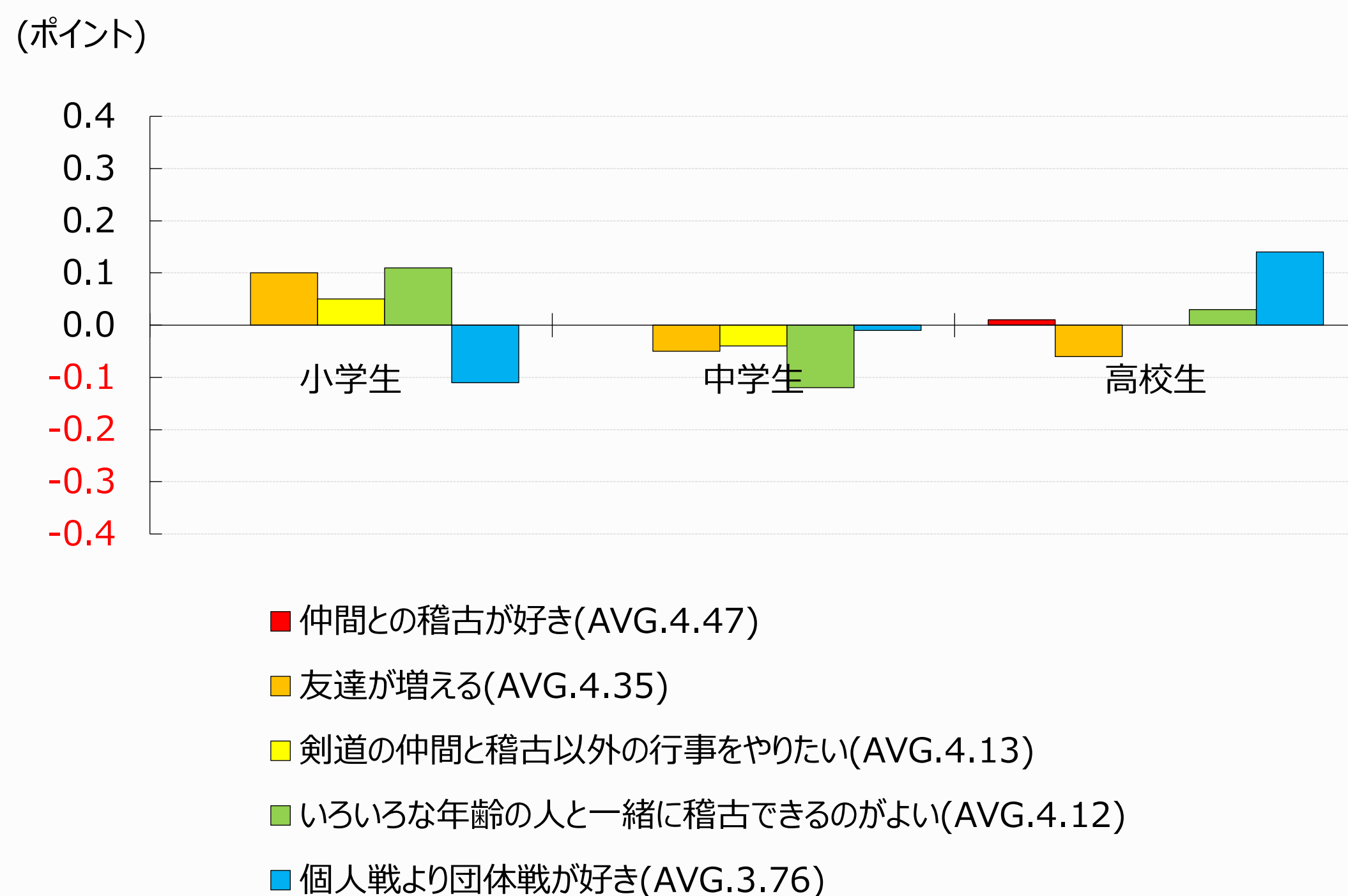


図2-14 校種別にみた剣道（仲間・交流）について思うこと
 注）項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

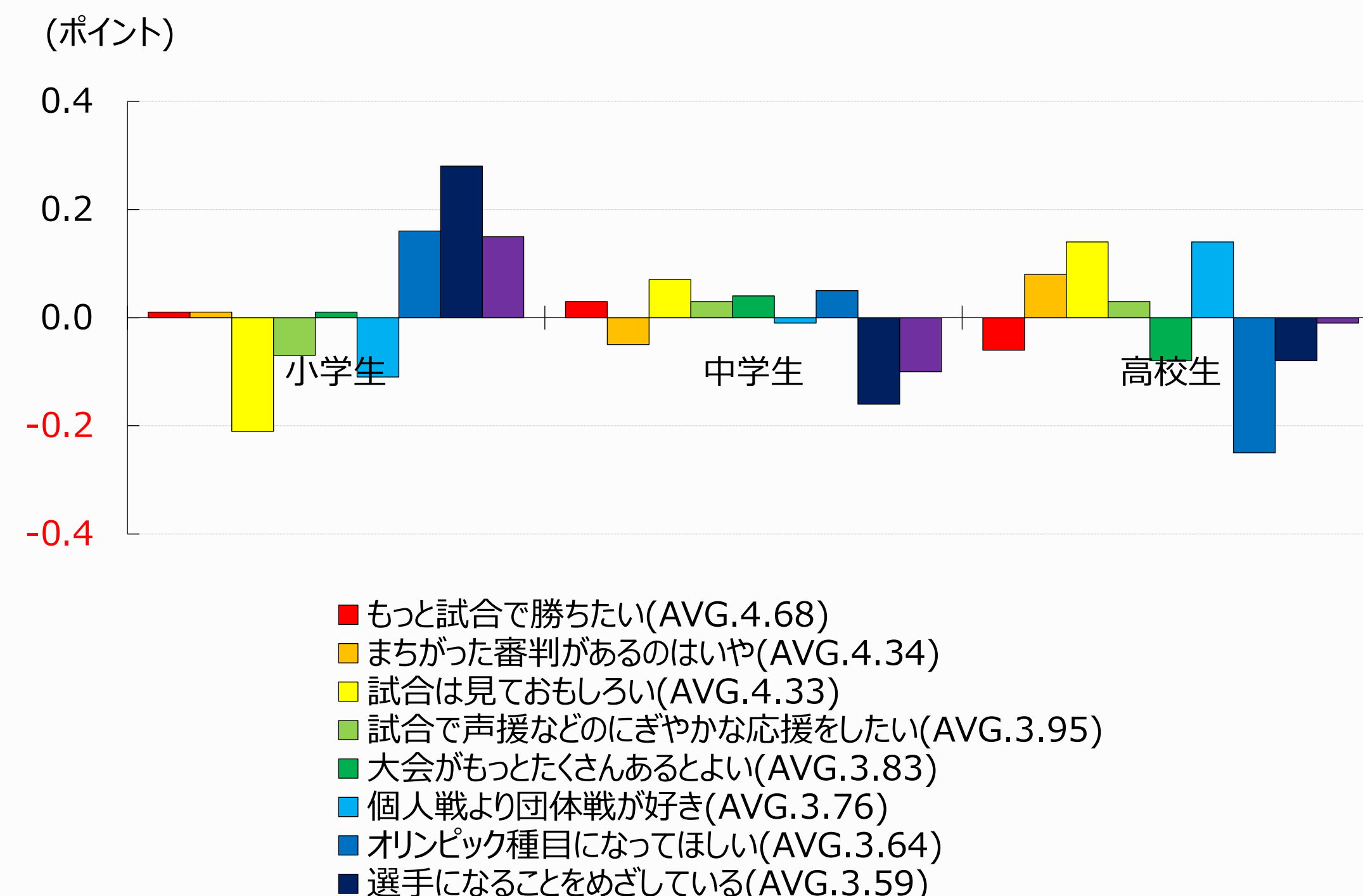
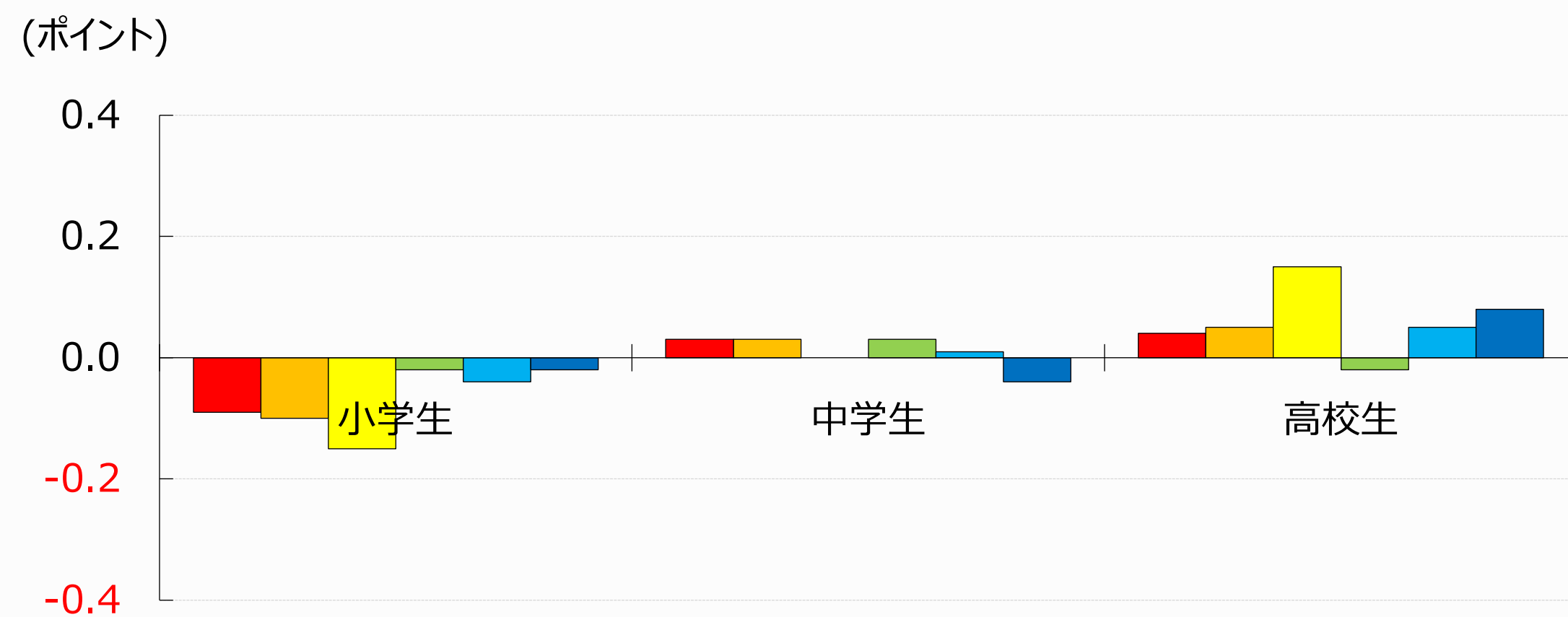


図2-15 校種別にみた剣道（試合）について思うこと
 注）項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

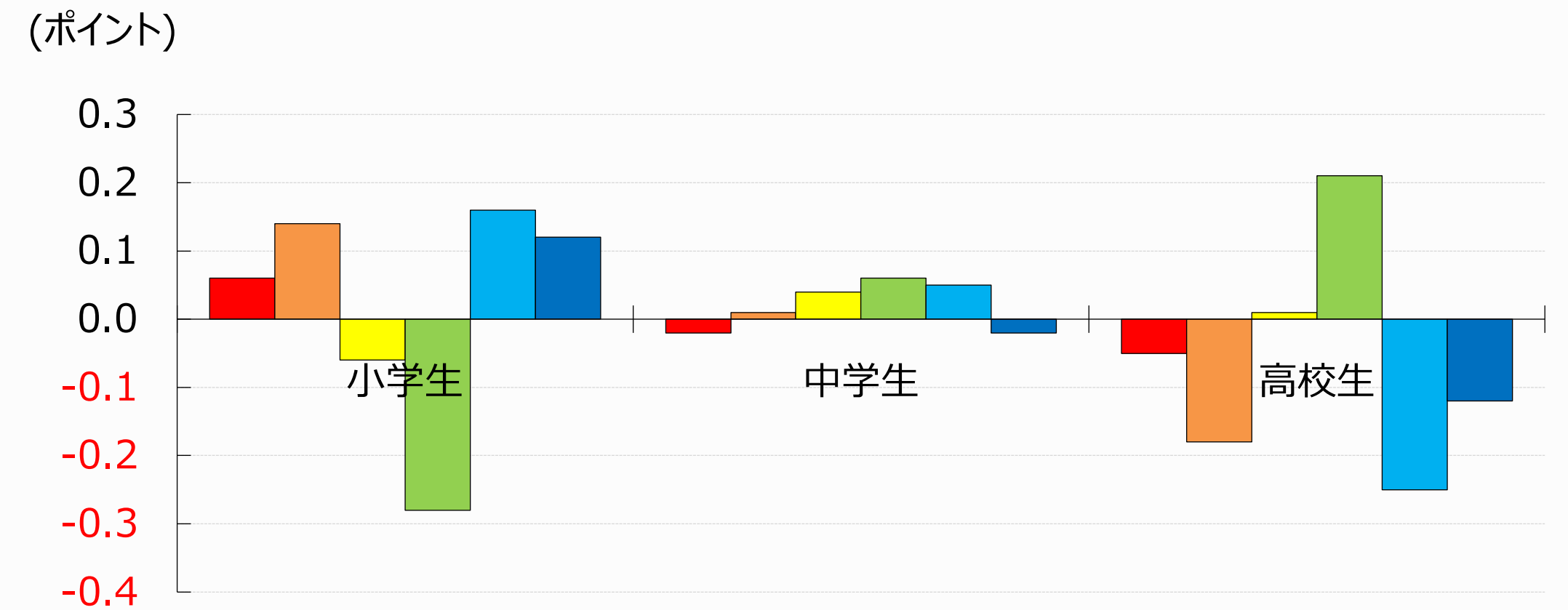
- 学年が上がるほど、剣道の意義・効果を強く実感する傾向。
- 学年が上がるほど、剣道を他者に勧める者と五輪種目採用を希望する者の割合が低下。
- 小学生は漫画・アニメ、高校生はインターネットから剣道の情報を入手する割合がやや高い。

【校種別】剣道に対する認識(3)



- 体が丈夫になる(AVG.4.55)
- 礼儀正しくなる(AVG.4.46)
- がまん強くなる(AVG.4.25)
- 集中できるようになる(AVG.4.20)
- 剣道で学んだことは生活に役立つ(AVG.4.15)
- 正座や黙想は心が落ち着くから好き(AVG.3.81)

図2-16 校種別にみた剣道（意義・効果）について思うこと
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している



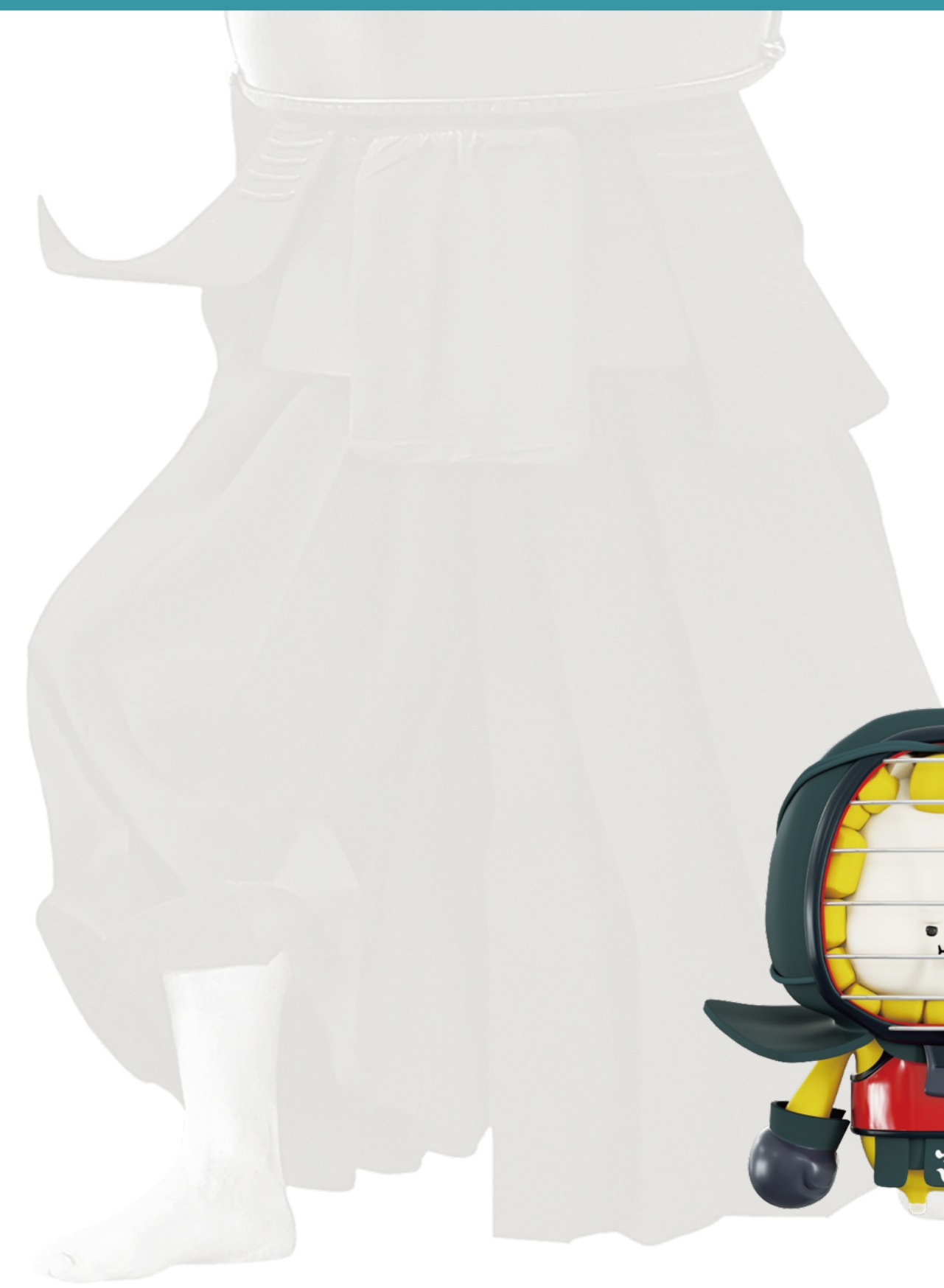
- 新聞やTVなどで剣道をもっと取り上げてほしい(AVG.4.16)
- 剣道をやっていない人にもすすめたい(AVG.3.95)
- 外国にもっと広まってほしい(AVG.3.82)
- インターネットで剣道の動画を見るのが好き(AVG.3.72)
- オリンピック種目になってほしい(AVG.3.64)
- 剣道や剣術の漫画やアニメなどをみるのが好き(AVG.3.49)

図2-17 校種別にみた剣道（発信・普及）について思うこと
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

- 小学生は、稽古の頻度や時間，方法，環境への満足度が比較的高いが，打たれた時の痛さを嫌だと感じる者の割合がやや高い。
- 高校生は、稽古の頻度や時間，方法，環境への不満をもつ者の割合が比較的高い。



04 性別傾向



【性別】剣道の取り組み状況

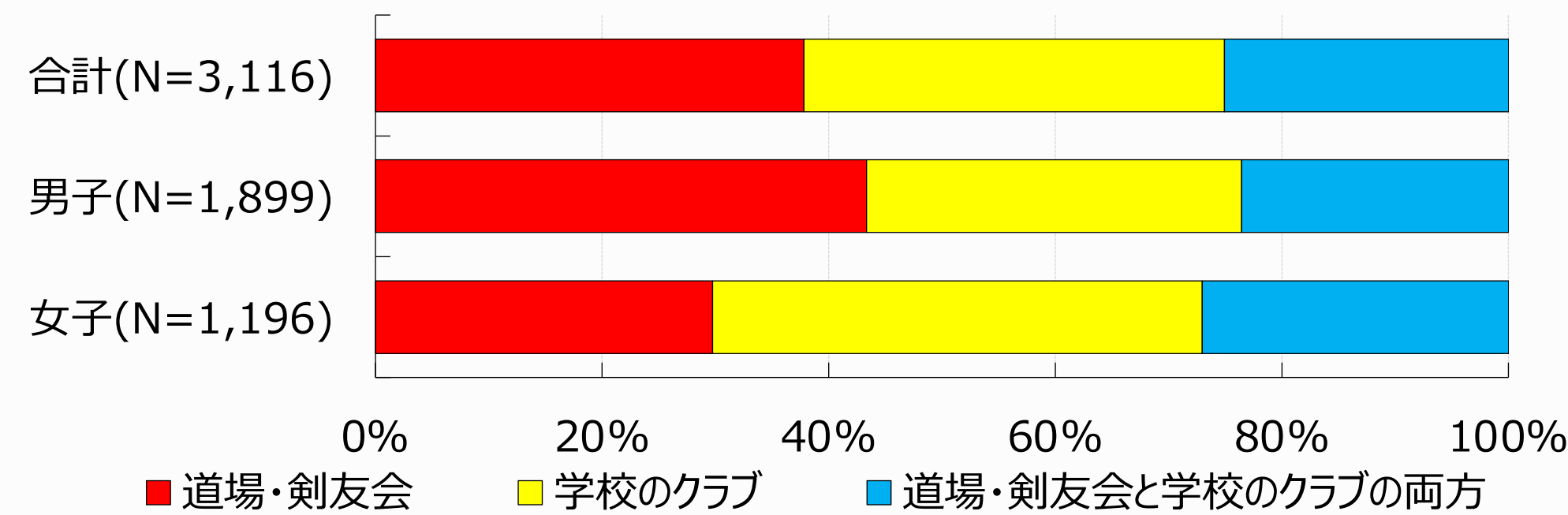


図3-1 性別にみた稽古場所

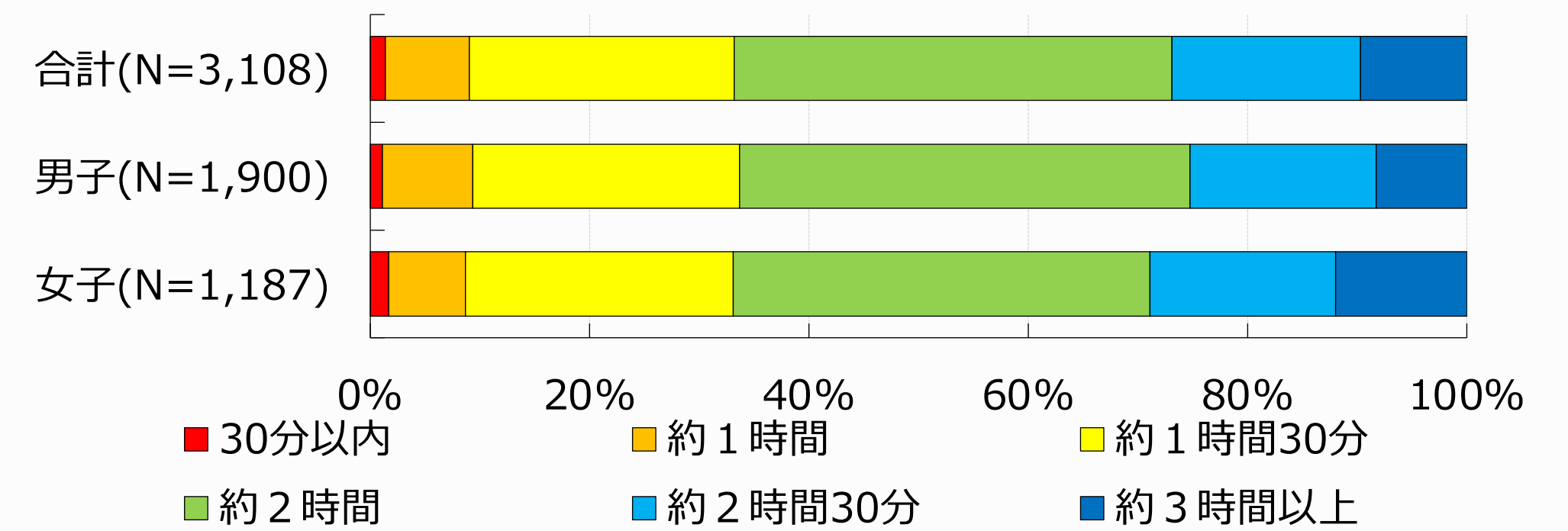


図3-3 性別にみた1回当たり稽古時間

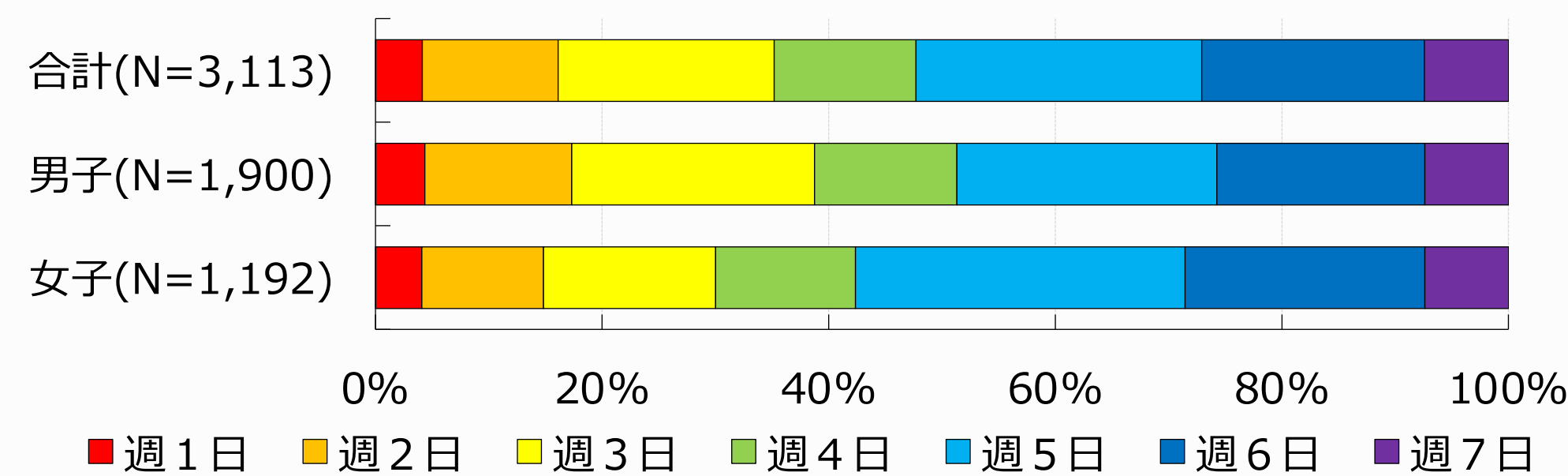


図3-2 性別にみた稽古回数

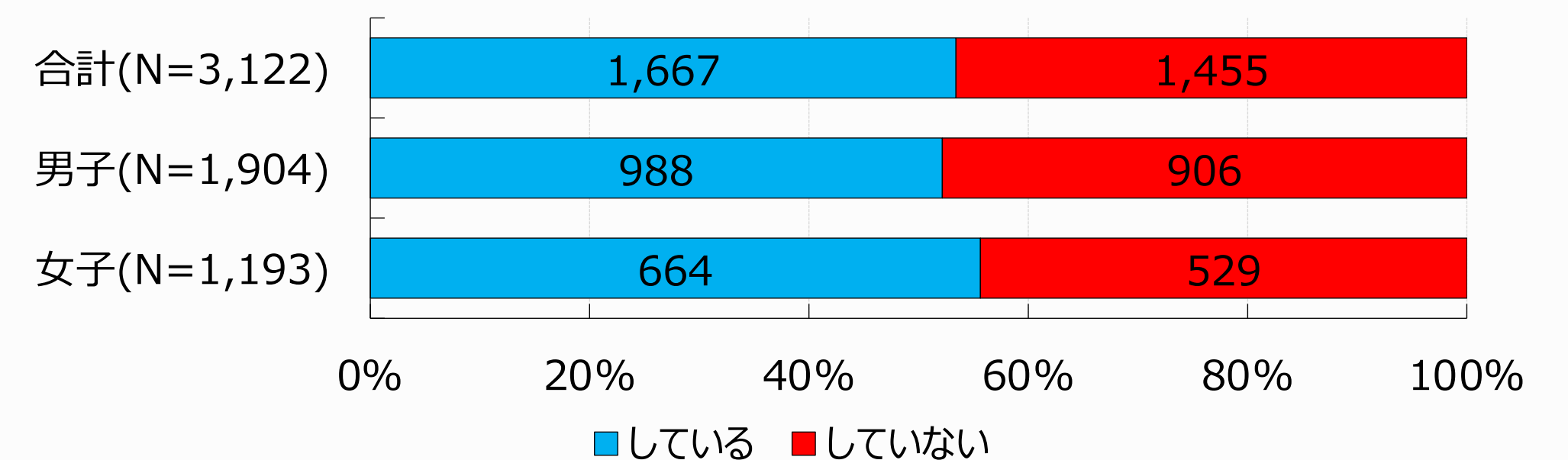


図3-4 性別にみた剣道以外の習いごとの取り組み状況

- 男子は道場・剣友会，女子は学校のクラブで稽古する者がやや多い。
- 男子よりも女子の方が1週間当たり稽古回数がやや多い。
- 1回当たり稽古時間と剣道以外の習いごとの実施状況の男女差はほとんどない。

【性別】剣道を始めた理由



図3-5 性別にみた剣道を始めた理由

注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

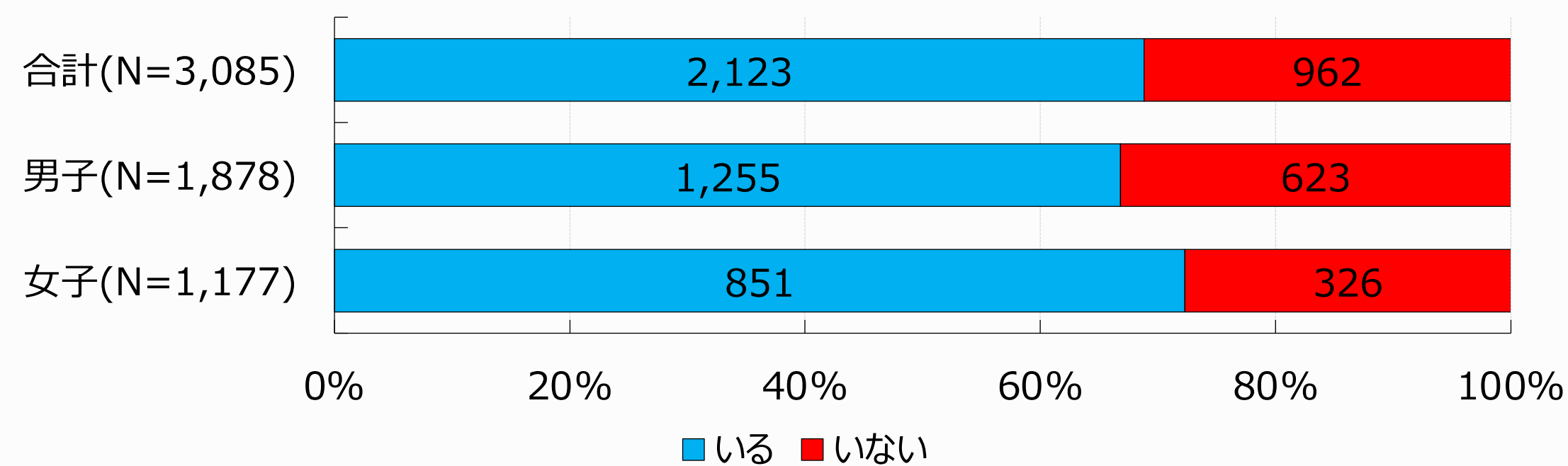
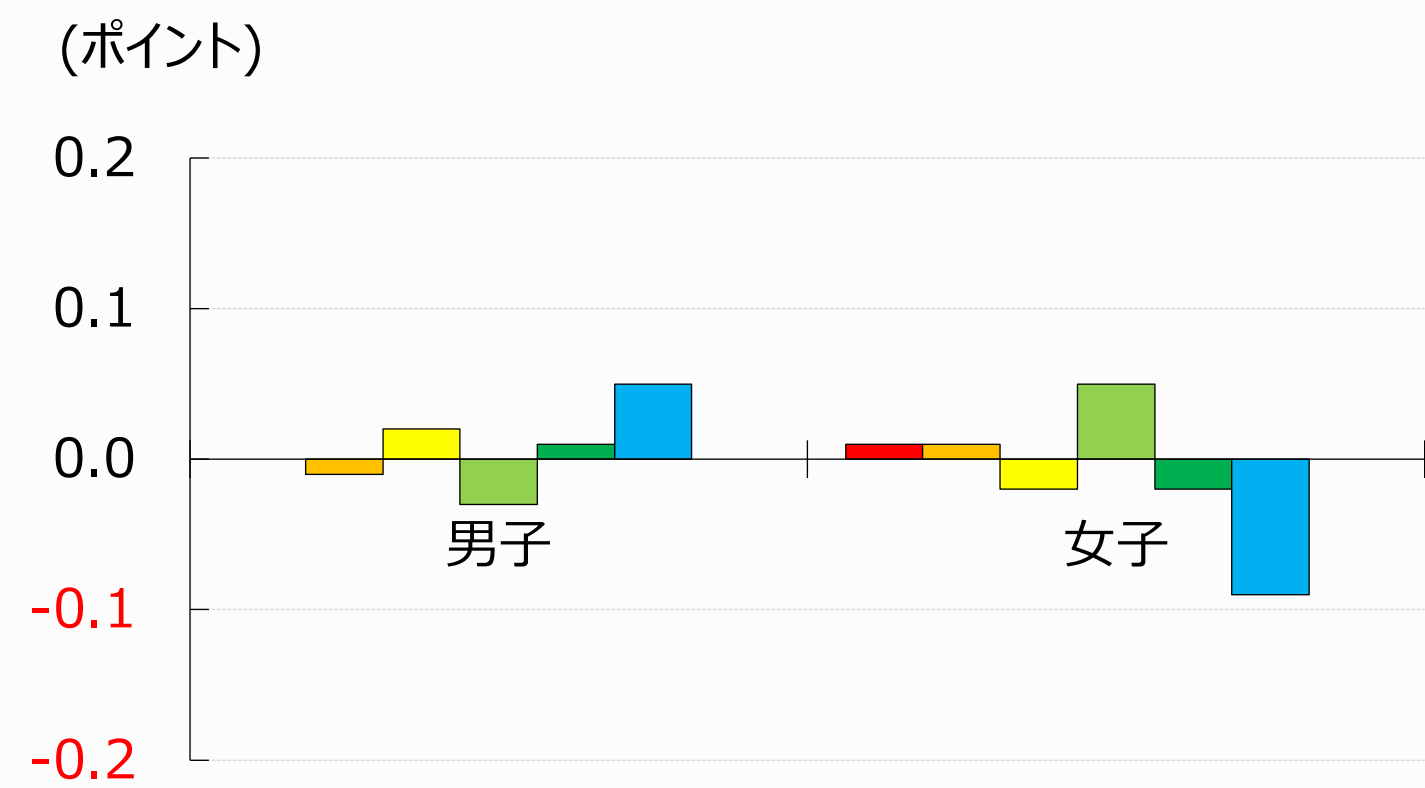


図3-6 性別にみた家族の剣道経験者の有無

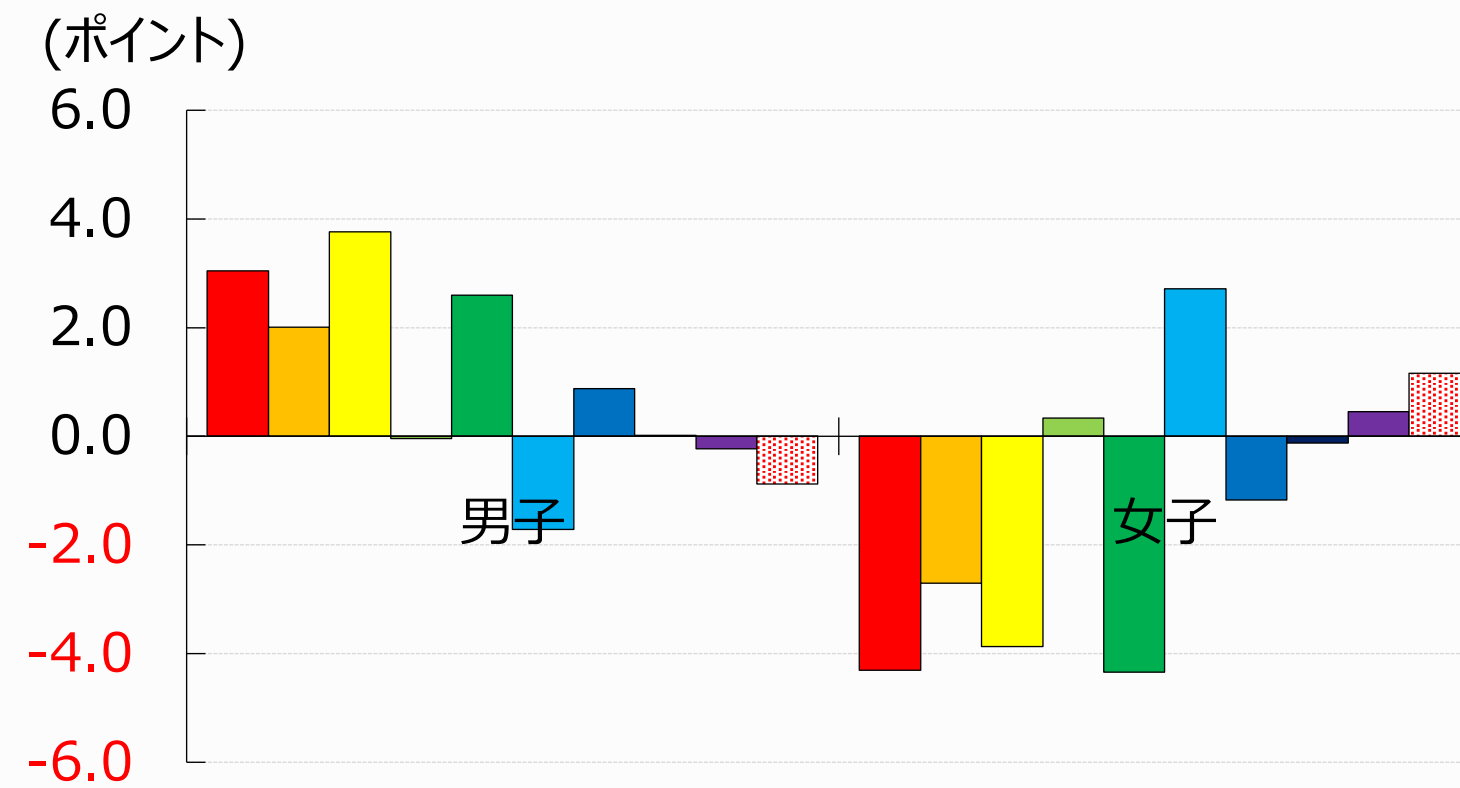
- 女子はカッコよさにあこがれて剣道を始めた者の割合が比較的高い一方、心身の鍛錬をめざして剣道を始めた者の割合が比較的低い。
- 家族の剣道経験者の有無に顕著な男女差はみられない。

【性別】剣道を続ける理由と継続意思



- 試合に勝つこと(AVG.4.84)
- 技術の向上(AVG.4.76)
- 友人・人に会うこと(AVG.4.52)
- 昇段・昇級(AVG.4.50)
- 精神面の強化(AVG.4.38)
- 運動・体を動かすこと(AVG.4.22)
- 文化・礼儀作法の学習(AVG.4.21)

図3-7 性別にみた剣道でうれしいこと
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している



- もっと強く／うまくなりたいから(AVG.72.6)
- 試合に出たい／勝ちたいから(AVG.59.4)
- 好き／面白い／楽しいから(AVG.44.4)
- 友達がいる／増えるから(AVG.37.5)
- 心や体を強くしたい／きたえたいから(AVG.36.1)
- 途中でやめたくないから(AVG.25.4)
- 上の段や級をとりたいたいから(AVG.24.6)
- 親にやめさせてもらえないから(AVG.7.2)
- 学校や道場の先生がやめさせてくれないから(AVG.2.6)
- なんとなく・とくに理由はない(AVG.6.3)

図3-8 性別にみた剣道を続ける理由
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

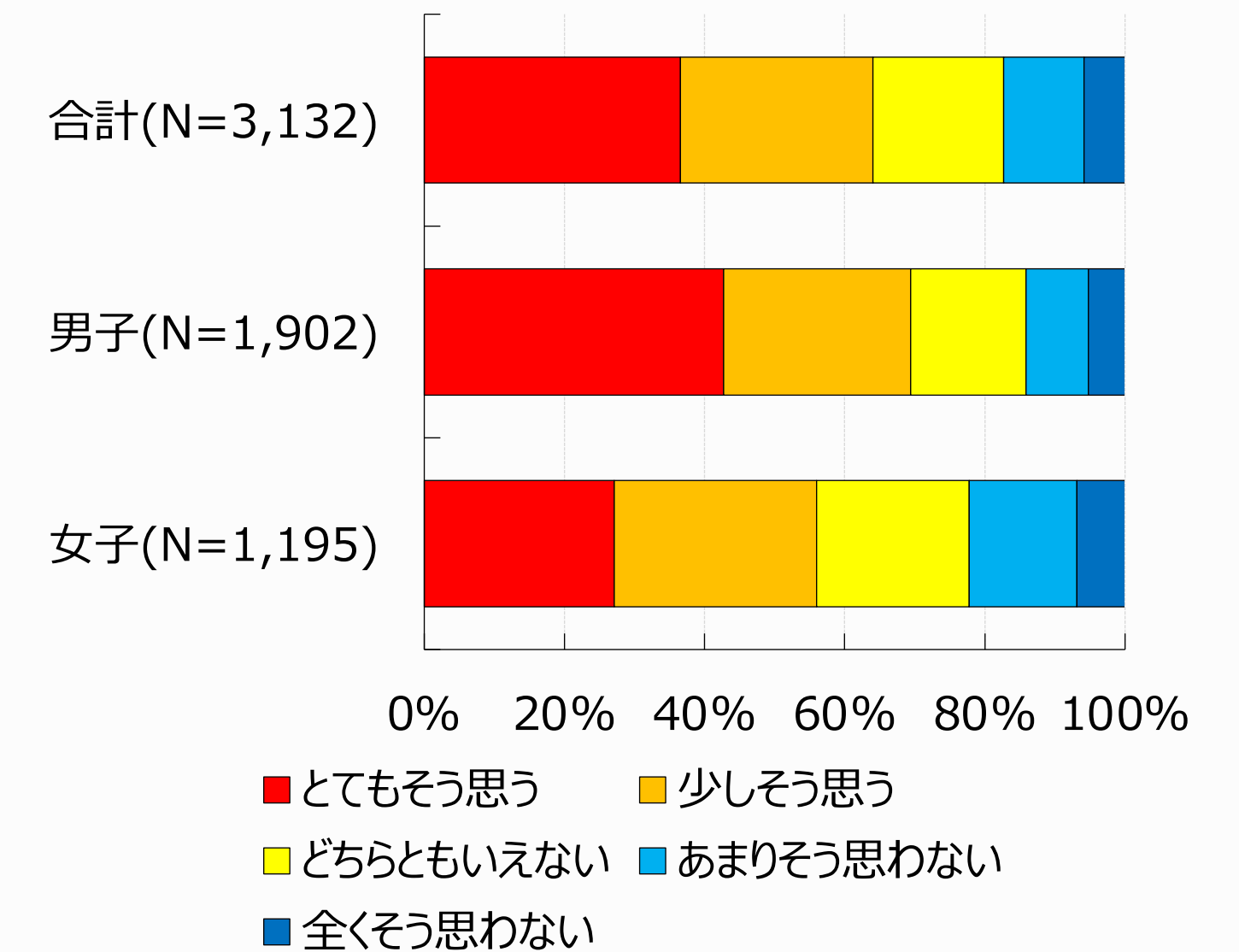


図3-9 性別にみた剣道の継続意思

- 男子は女子と比べて、楽しさ、技術の向上、試合での勝利、心身の鍛錬を継続理由にする。
- 女子は男子と比べて、ポジティブな継続理由を挙げる者が少ない。
- 女子より男子の方が継続希望の割合が高い。

【性別】剣道に対する認識(1)

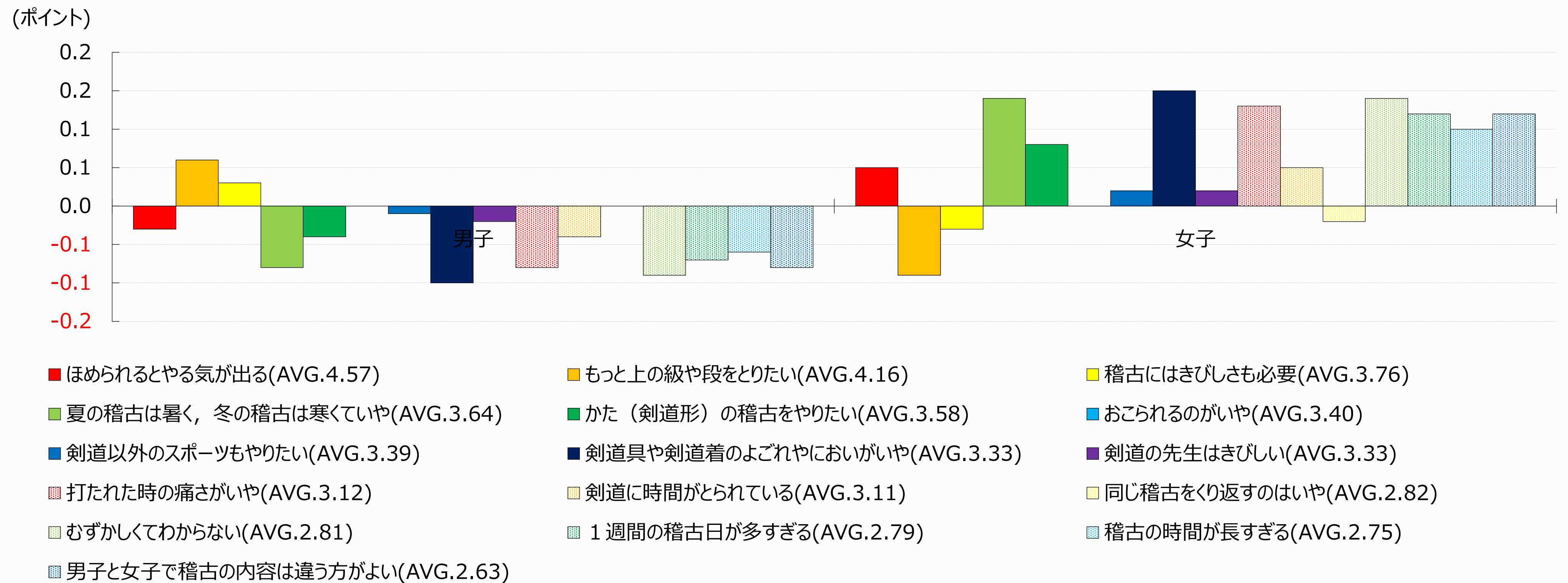


図3-10 性別にみた剣道 (稽古・指導) について思うこと

注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

- 男子が女子よりポイントが高いのは, 昇段・昇級と稽古の厳しさ。
- その他の項目は, 男子より女子の方がポイントが高い。
特に稽古の回数や時間, 方法, 環境のポイントが高い (不満が大きい) 。

【性別】剣道に対する認識(2)

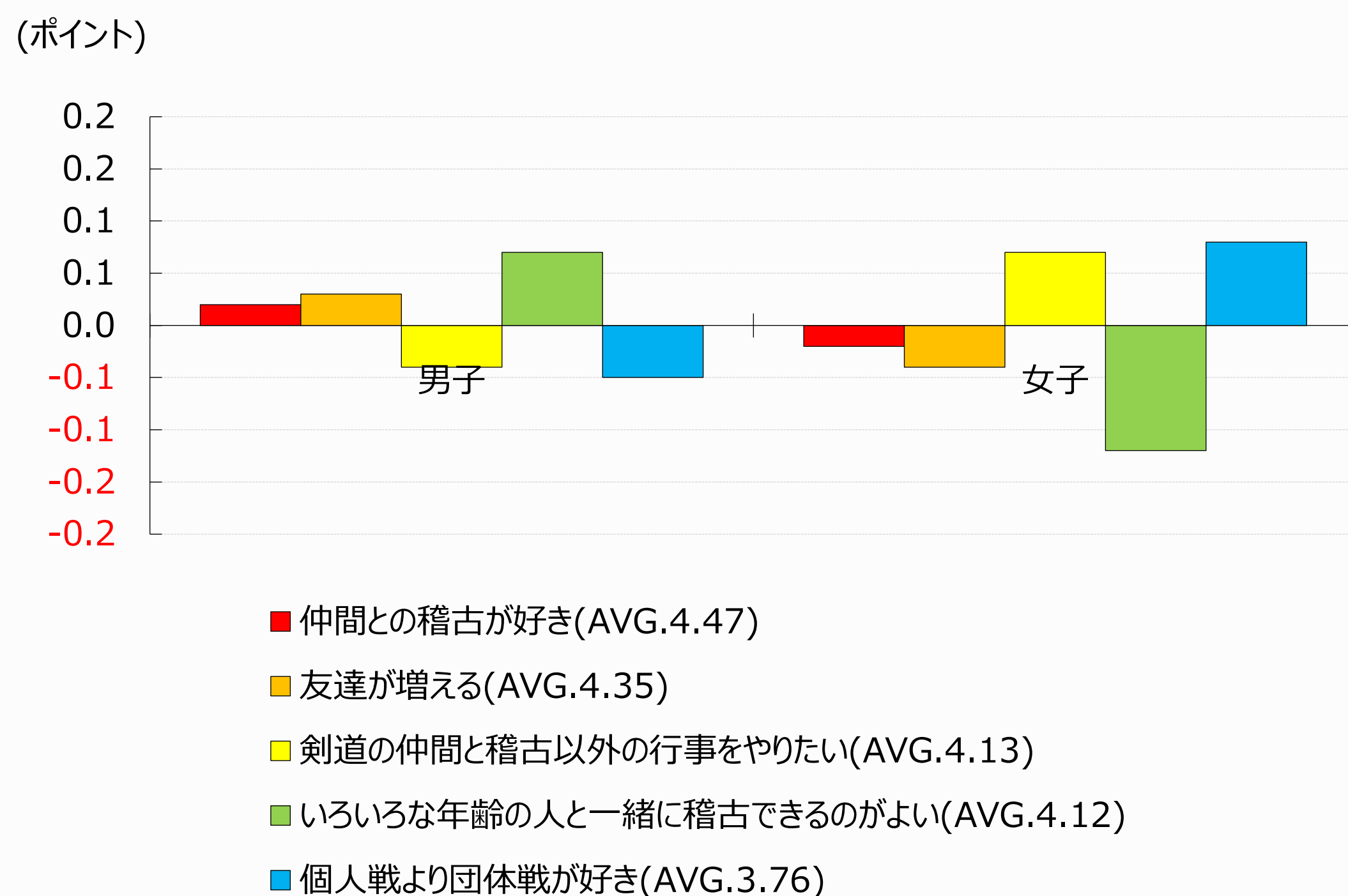


図3-11 性別にみた剣道（仲間・交流）について思うこと
 注）項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

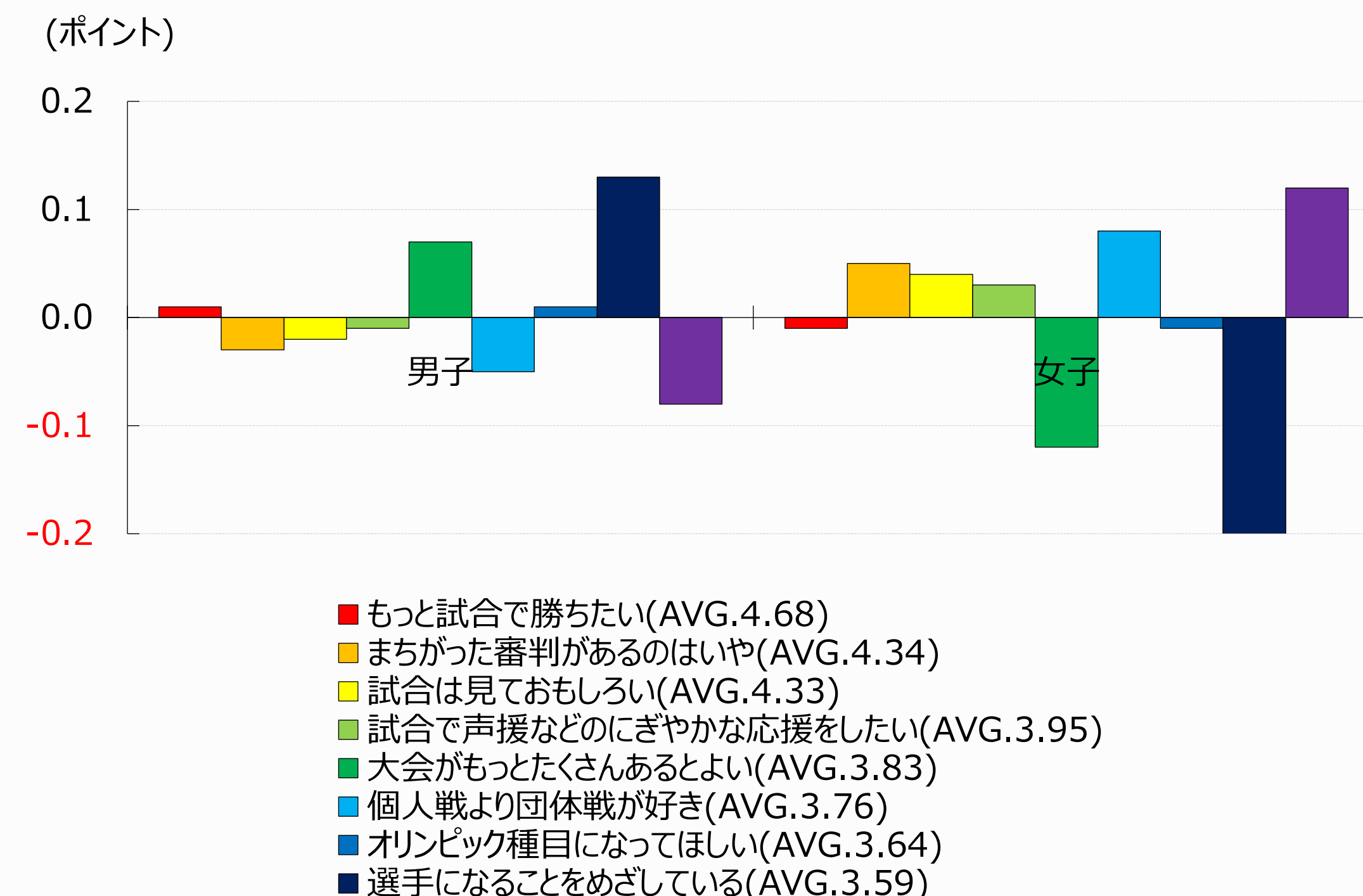


図3-12 性別にみた剣道（試合）について思うこと
 注）項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

- 仲間・交流について，男子は世代間交流を，女子は仲間との結束（団体戦，稽古以外の行事）をやや重視する。
- 試合について，男子は多くの大会に選手として出場することを，女子は仲間との結束（団体戦）を重視する。
 また女子は，一本のわかりにくさを指摘する者の割合が男子より高い。

【性別】剣道に対する認識(3)

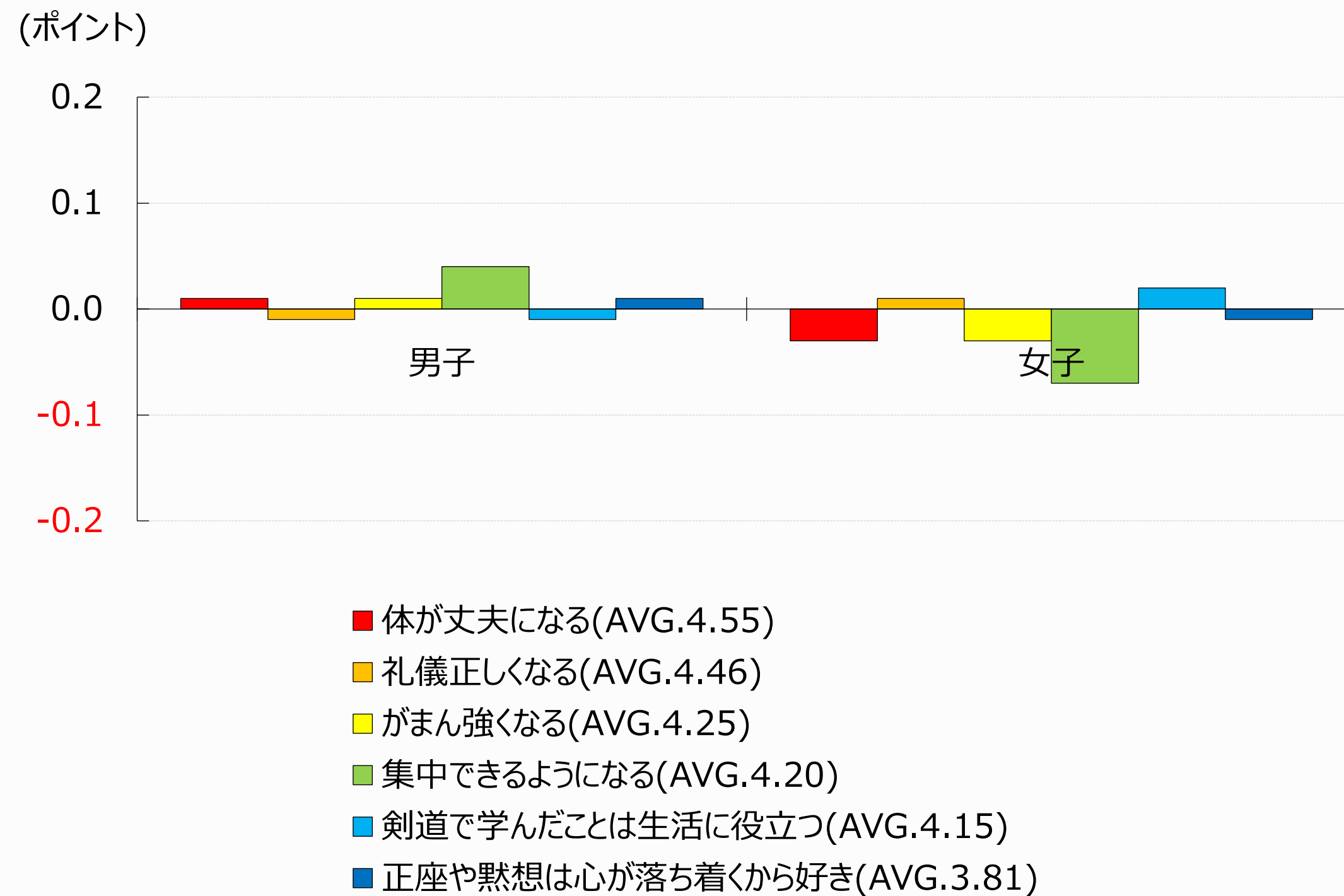


図3-13 性別にみた剣道（意義・効果）について思うこと
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

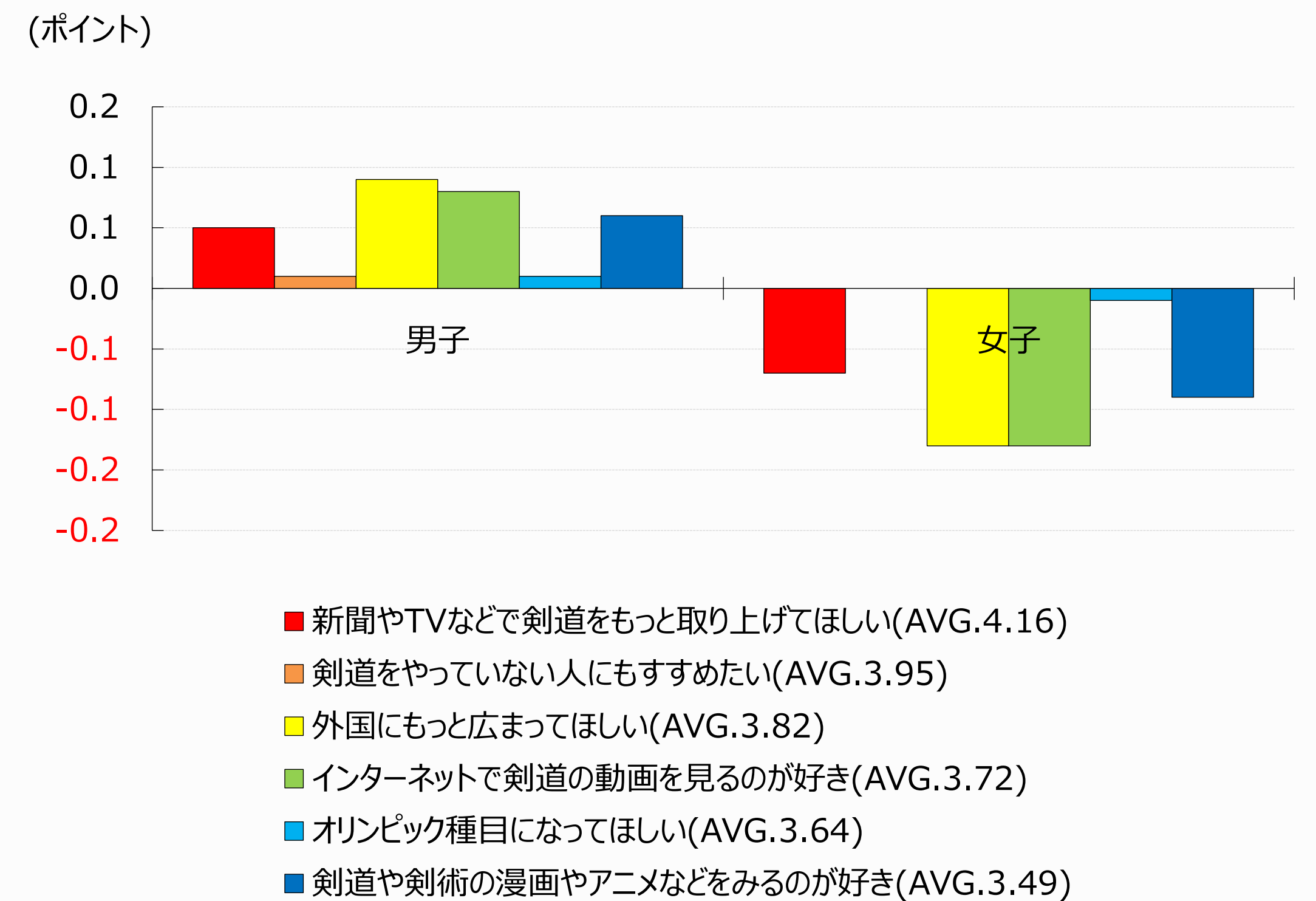


図3-14 性別にみた剣道（発信・普及）について思うこと
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

- 意義・効果について，顕著な男女差はみられない。
- 発信・普及について，女子より男子の方がやや積極的である。
- 女子より男子の方が漫画・アニメを視聴する者の割合が高い。

05 地域別傾向

地域別分析では人口動向（実数・密度・増減）等により区分した以下の3地域ごとの分析結果を示す。

【東京大都市圏】： 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県

【名阪福大都市圏（名古屋・京阪神・福岡大都市圏）】： 愛知県・京都府・大阪府・兵庫県・福岡県

【地方圏】： 他38道県



【地域別】剣道の取り組み状況

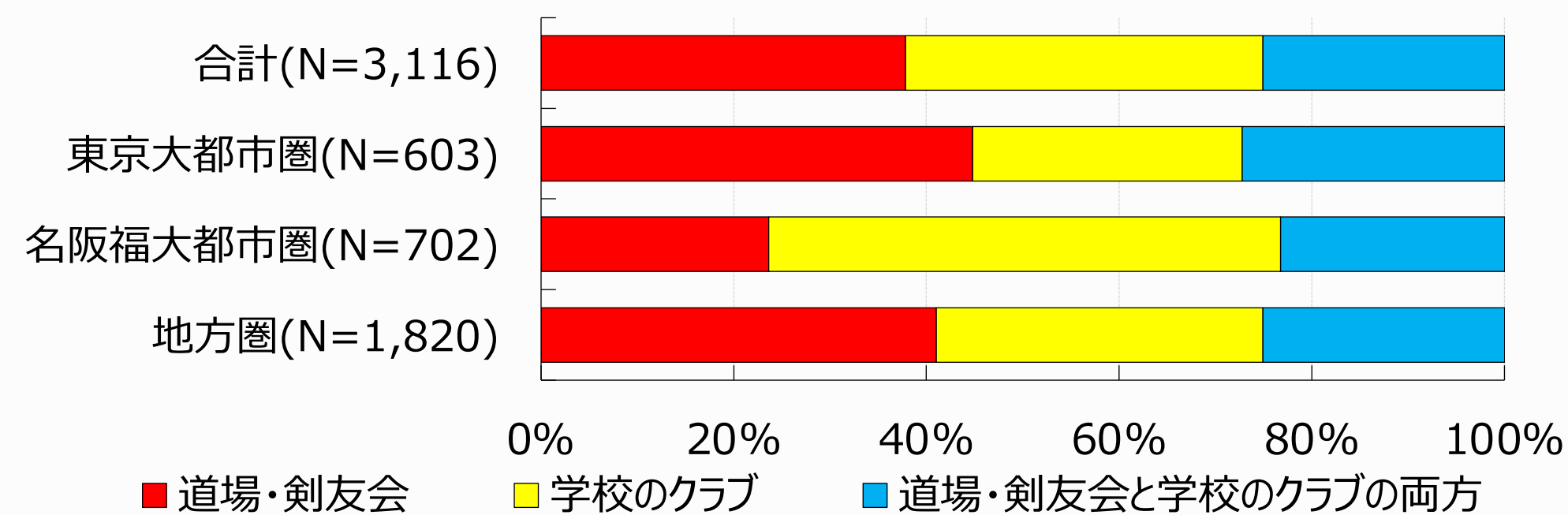


図4-1 地域別にみた稽古場所

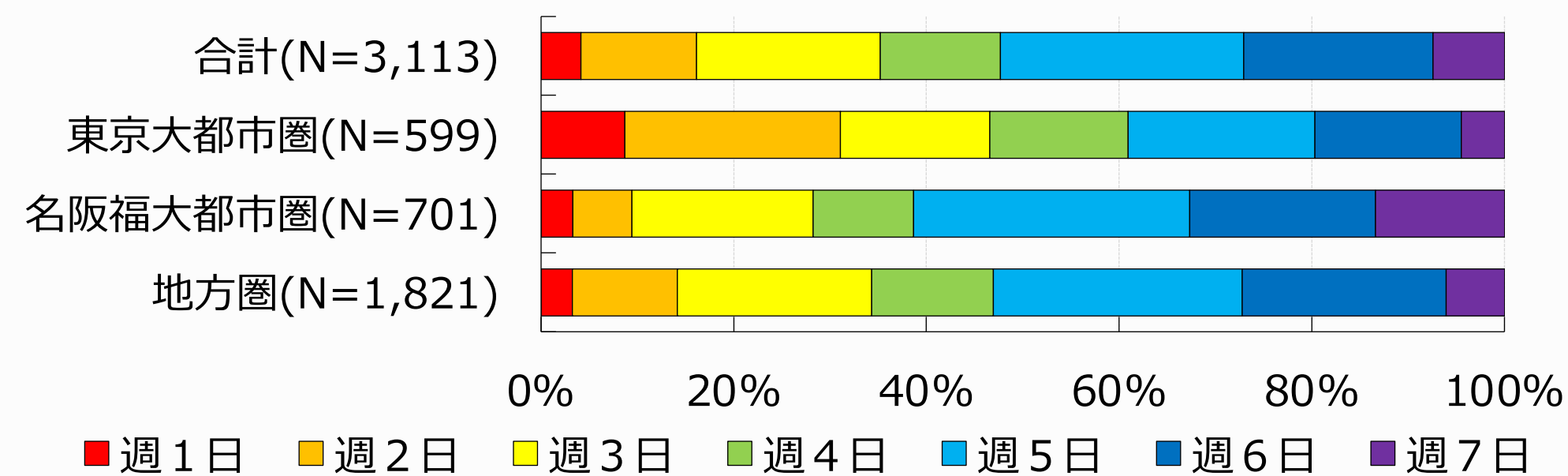


図4-2 地域別にみた稽古回数

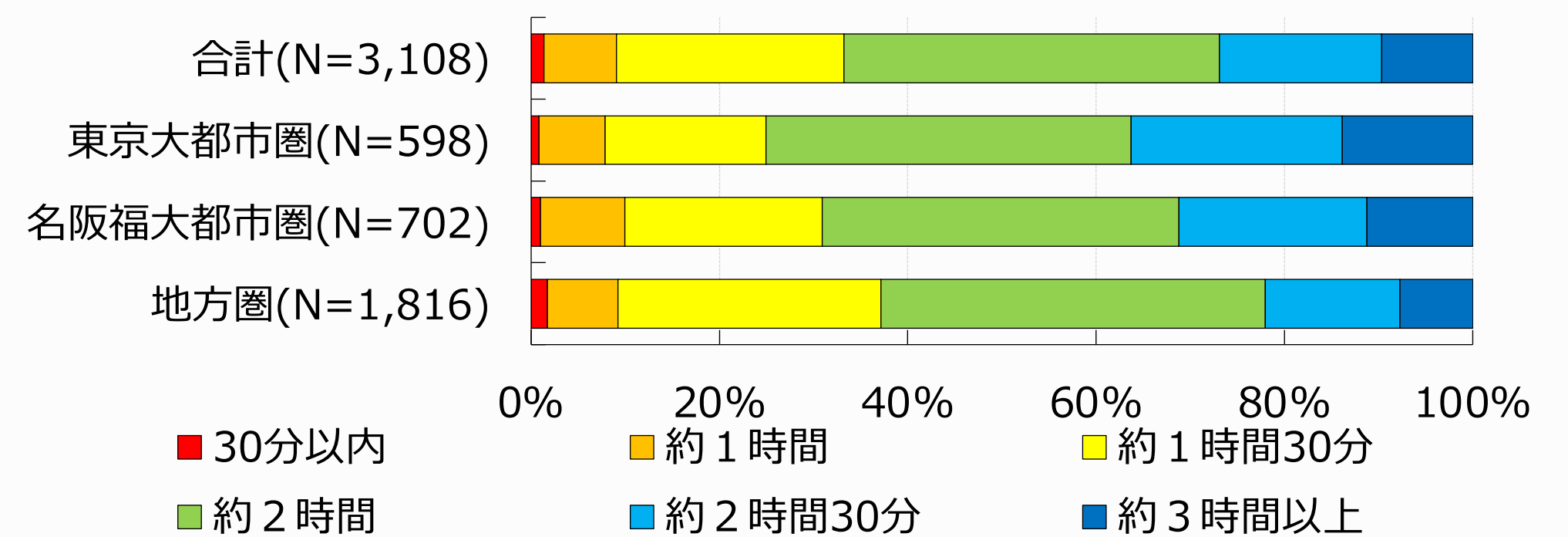


図4-3 地域別にみた1回当たり稽古時間

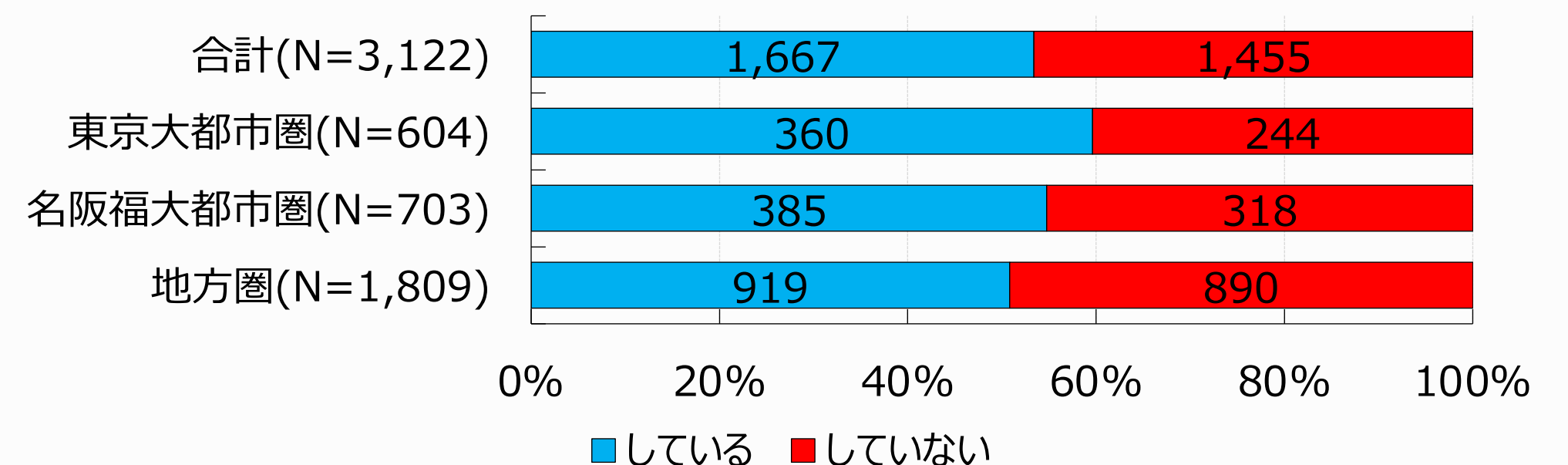


図4-4 地域別にみた剣道以外の習いごとの取り組み状況

- 稽古回数は、東京大都市圏よりもそれ以外の地方の方がやや多い。
- 1回当たり稽古時間は、東京大都市圏よりもそれ以外の地方の方がやや短い。
- 剣道以外の習いごとは、地方圏より大都市圏の方が取り組む者の割合がやや高い。

【地域別】剣道を始めた理由

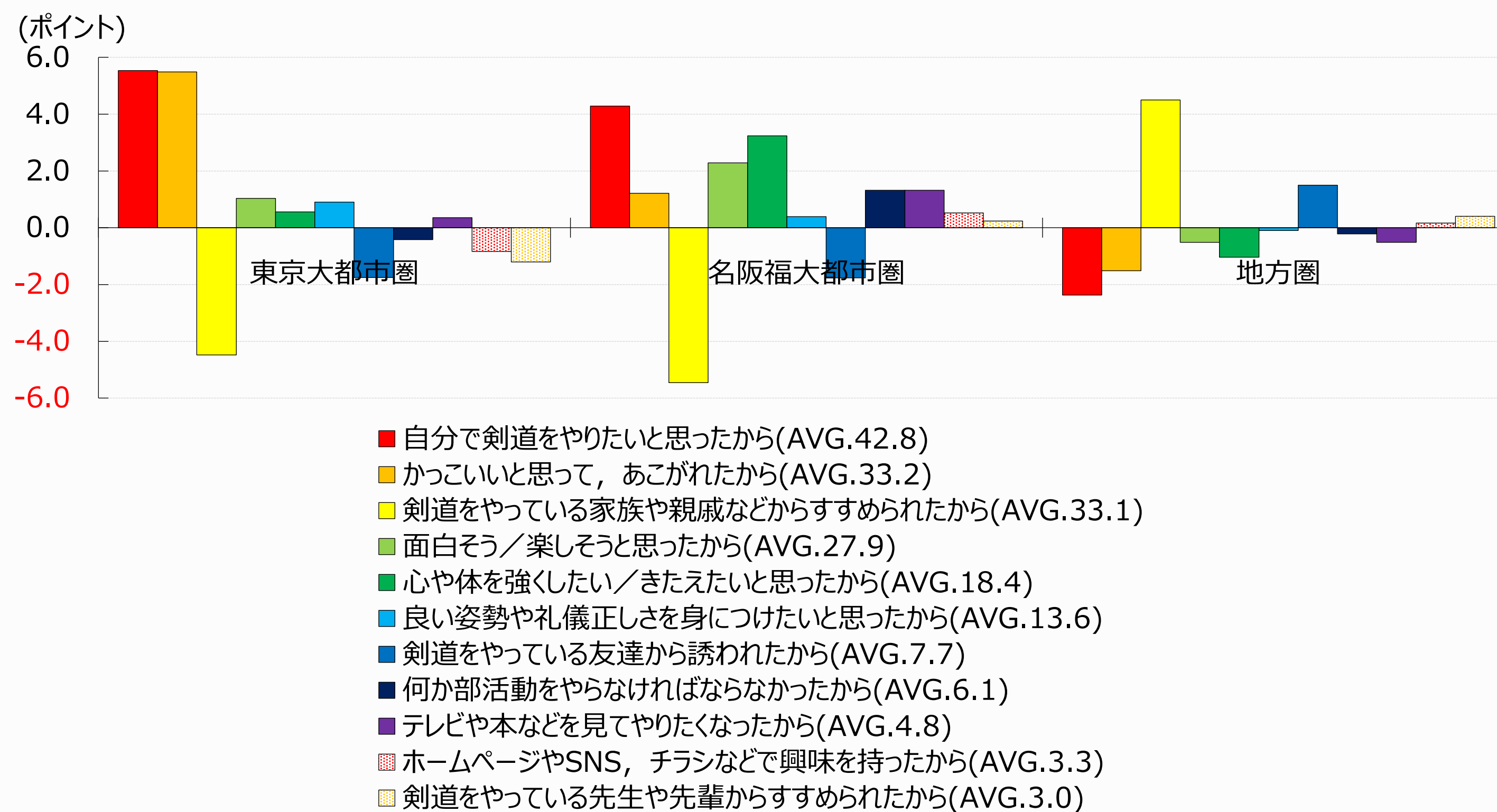


図4-5 地域別にみた剣道を始めた理由

注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

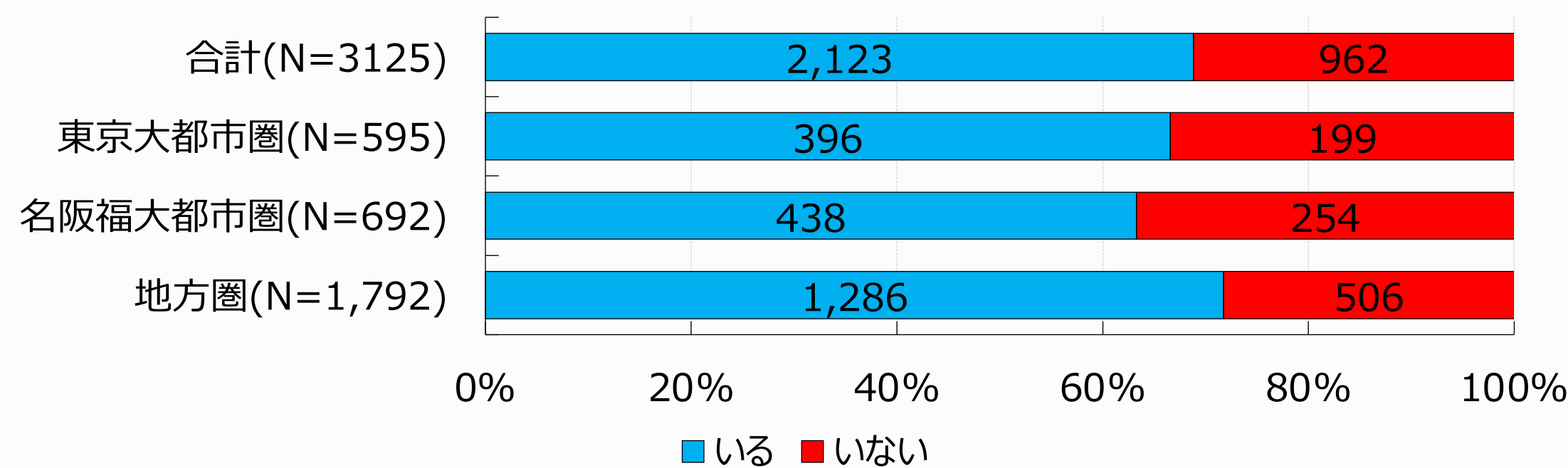


図4-6 地域別にみた家族の剣道経験者の有無

- 大都市圏では、剣道がかっこいい／楽しいものと捉え、心身の鍛錬や礼儀正しさの習得をめざして、剣道を始めた者が比較的多い（自らの選択）。
- 地方圏では、家族や親戚、友人、先生・先輩からの勧めで剣道を始めた者が比較的多い（他者の勧め）。
- 地方圏は、家族に剣道経験者のいる者の割合が大都市圏よりやや高い。

【地域別】剣道を続ける理由と継続意思

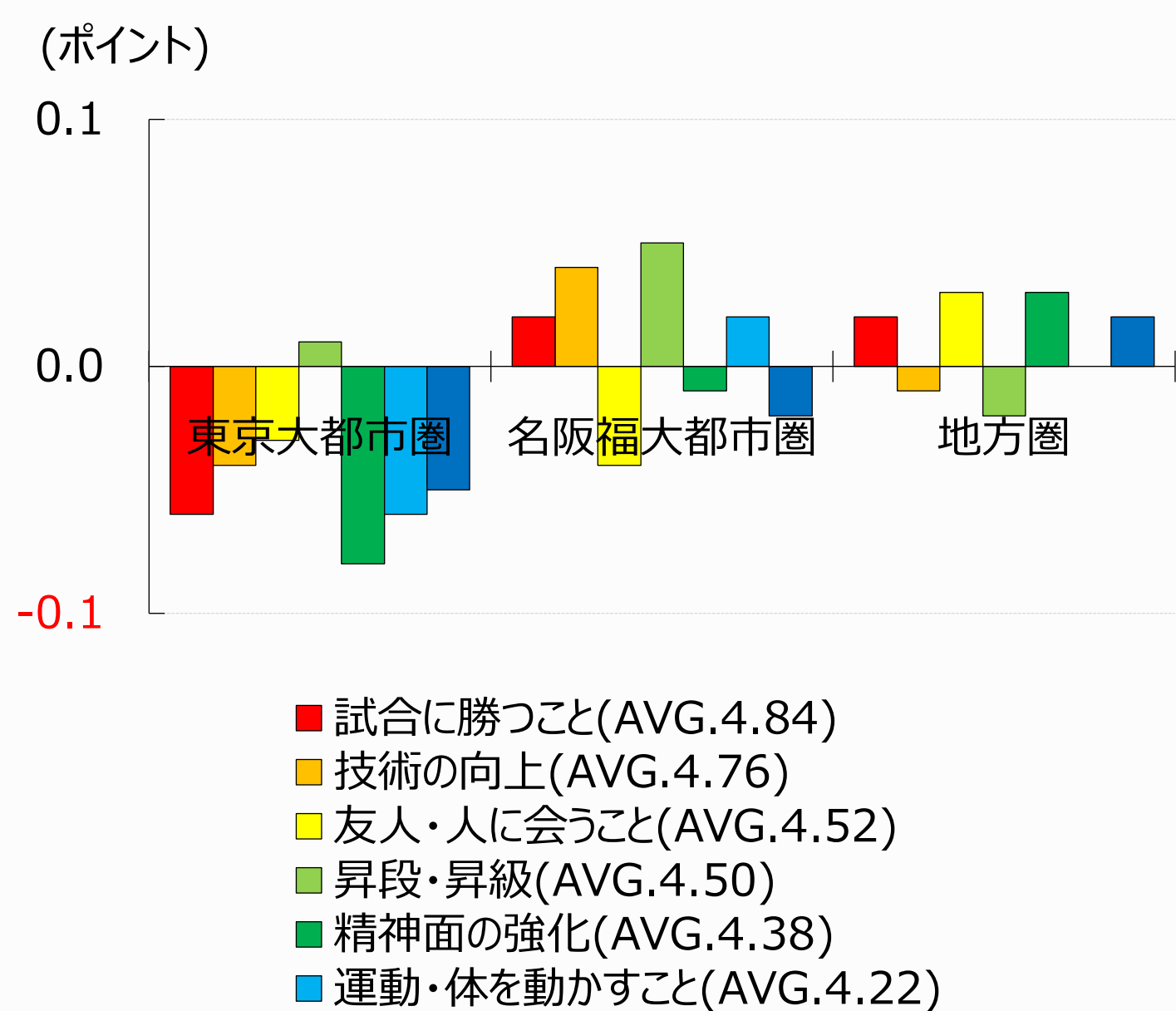


図4-7 地域別にみた剣道でうれしいこと
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

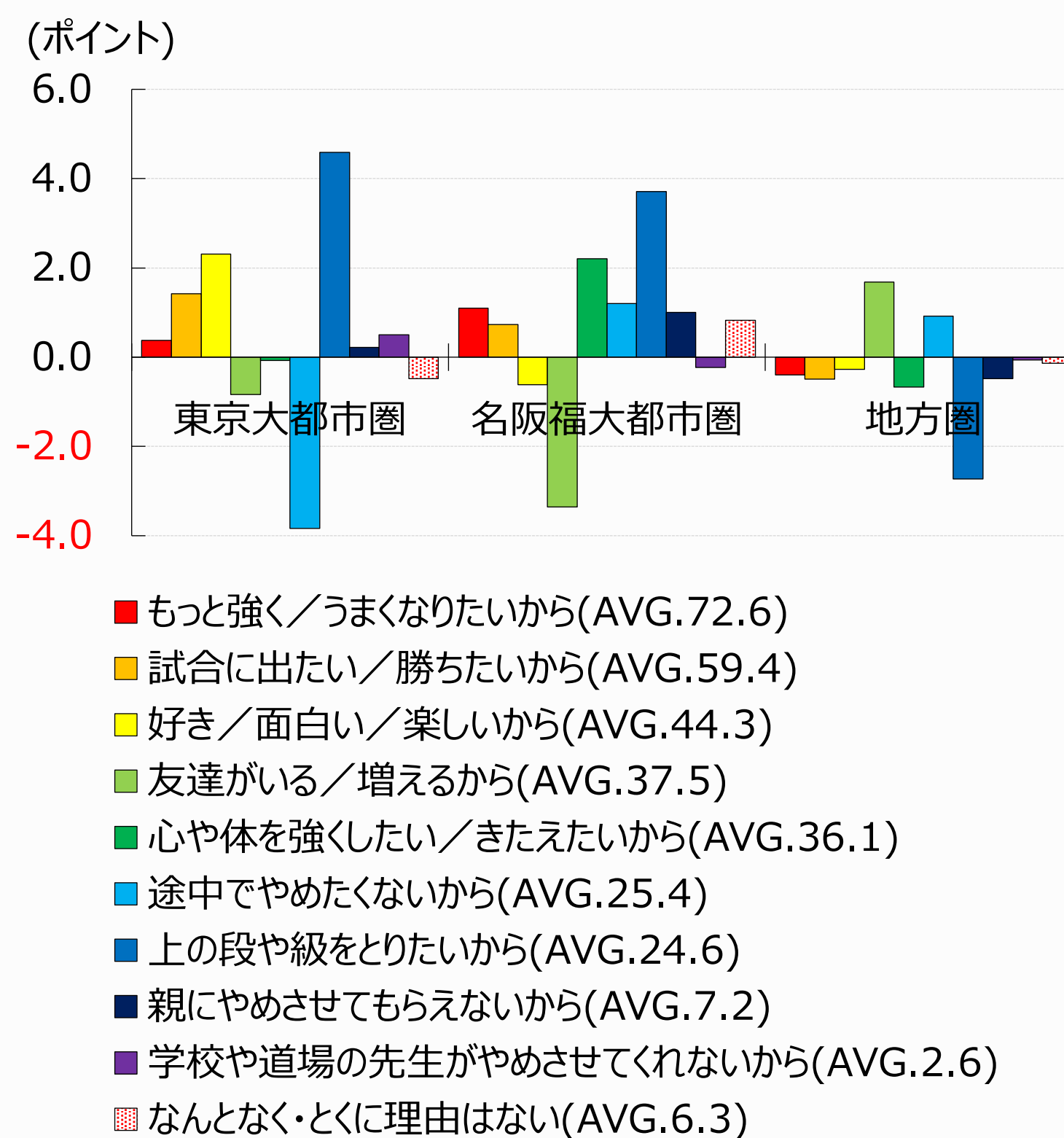


図4-8 地域別にみた剣道を続ける理由
注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

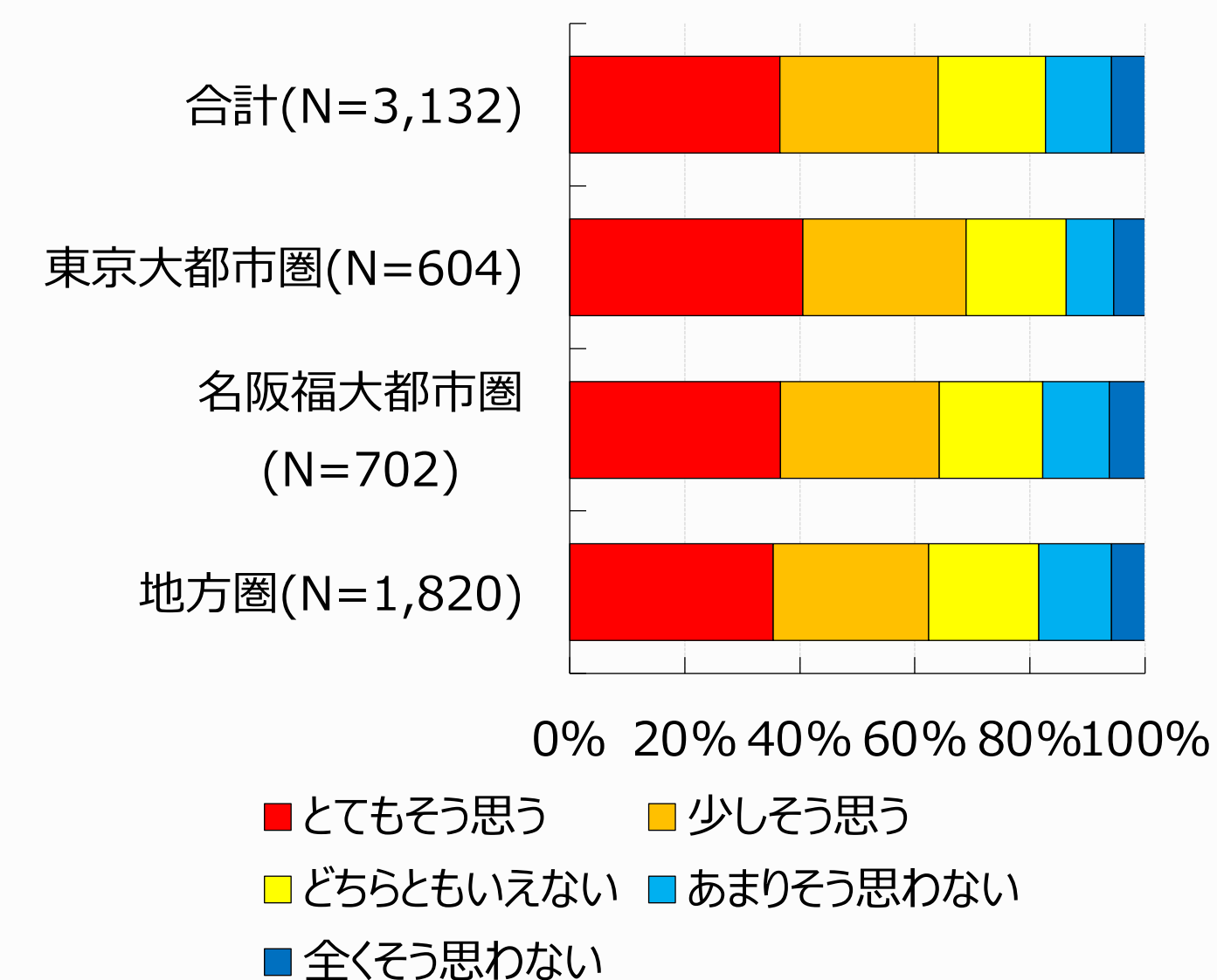


図4-9 地域別にみた剣道の継続意思

- 大都市圏は地方圏と比べて剣道自体への意欲を挙げる者、地方圏は大都市圏と比べて友人の存在を挙げる者の割合がやや高い。
- 地方圏より大都市圏の方が継続希望の割合が高い。

【地域別】剣道に対する認識(1)

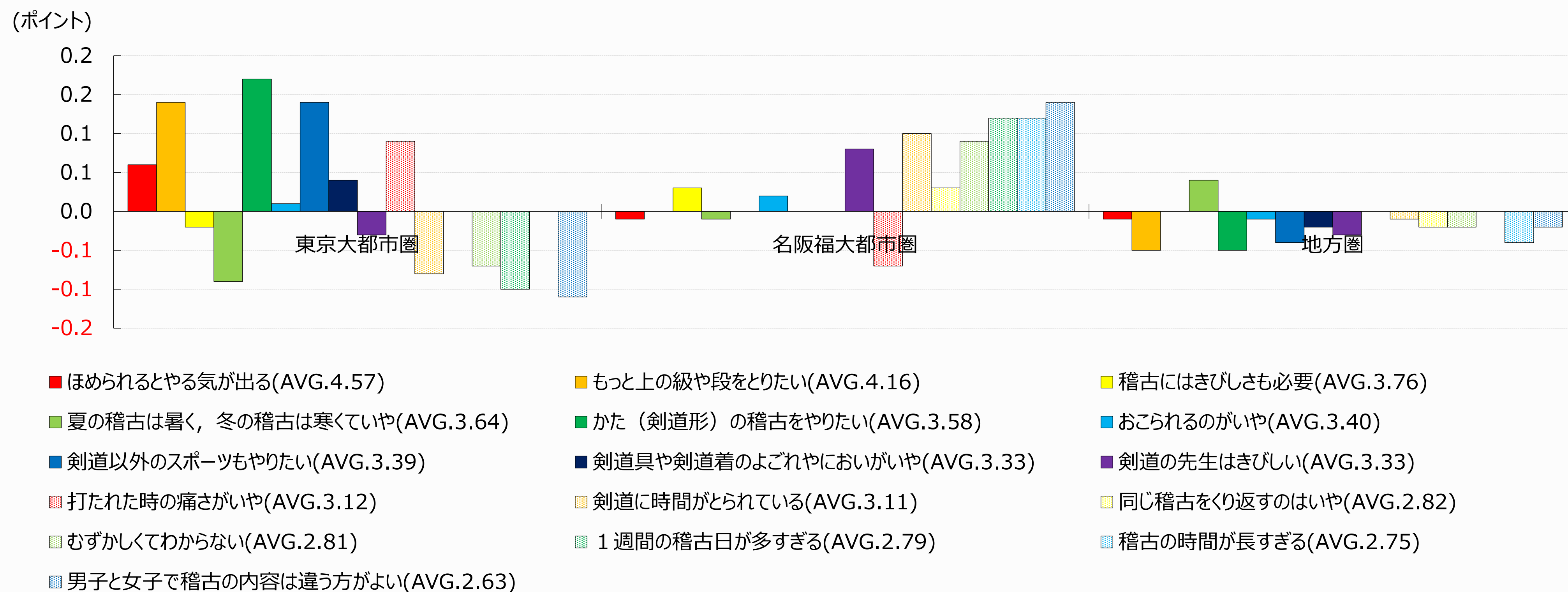


図4-10 地域別にみた剣道(稽古・指導)について思うこと

注) 項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

- 地方圏より大都市圏の方が稽古・指導に対する意識が高い傾向。
- 東京大都市圏では、昇段・昇級と形稽古への期待がやや高い一方、剣道以外のスポーツへの関心もやや高い。

【地域別】剣道に対する認識(2)

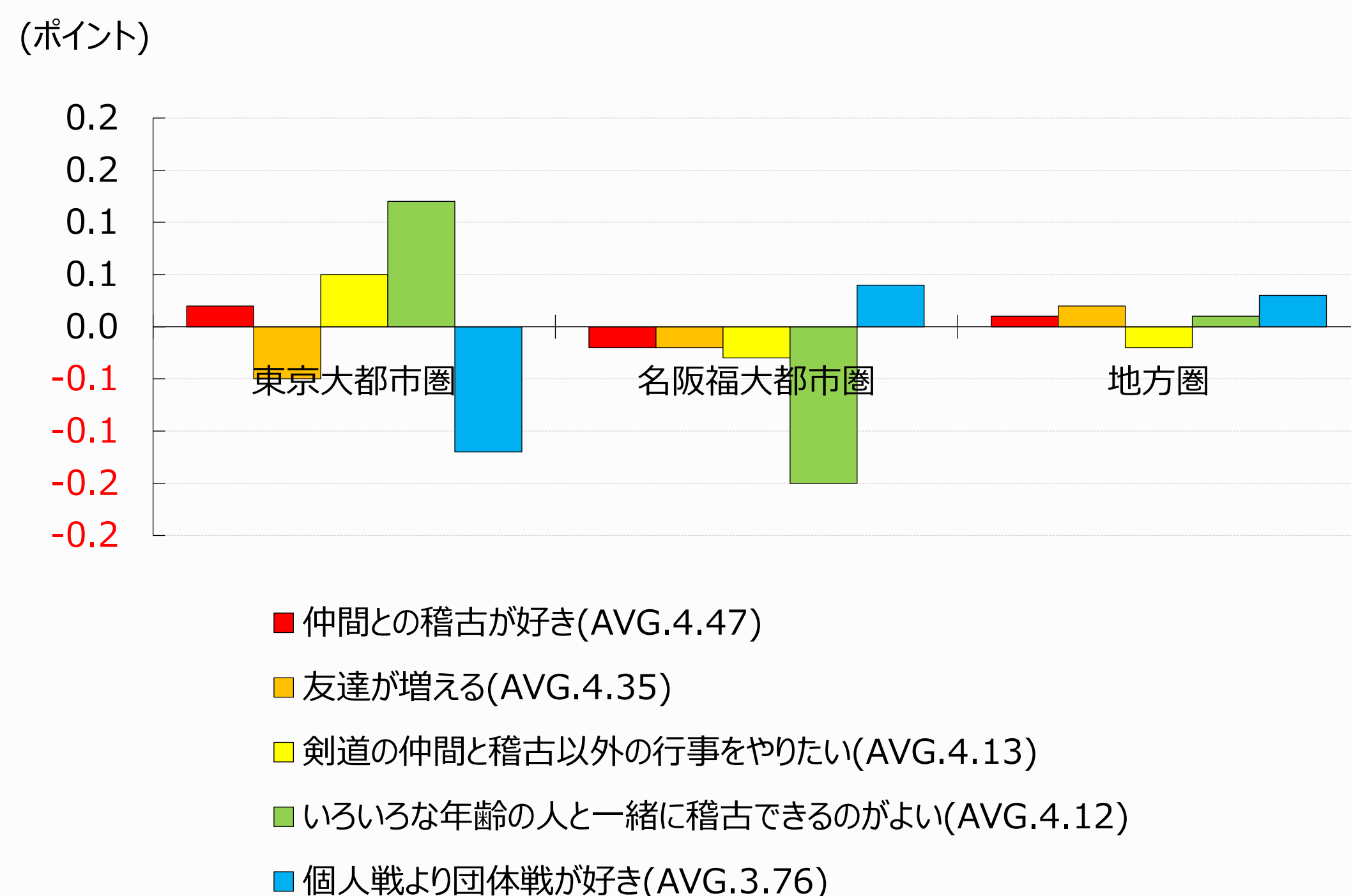


図4-11 地域別にみた剣道（仲間・交流）について思うこと
注）項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

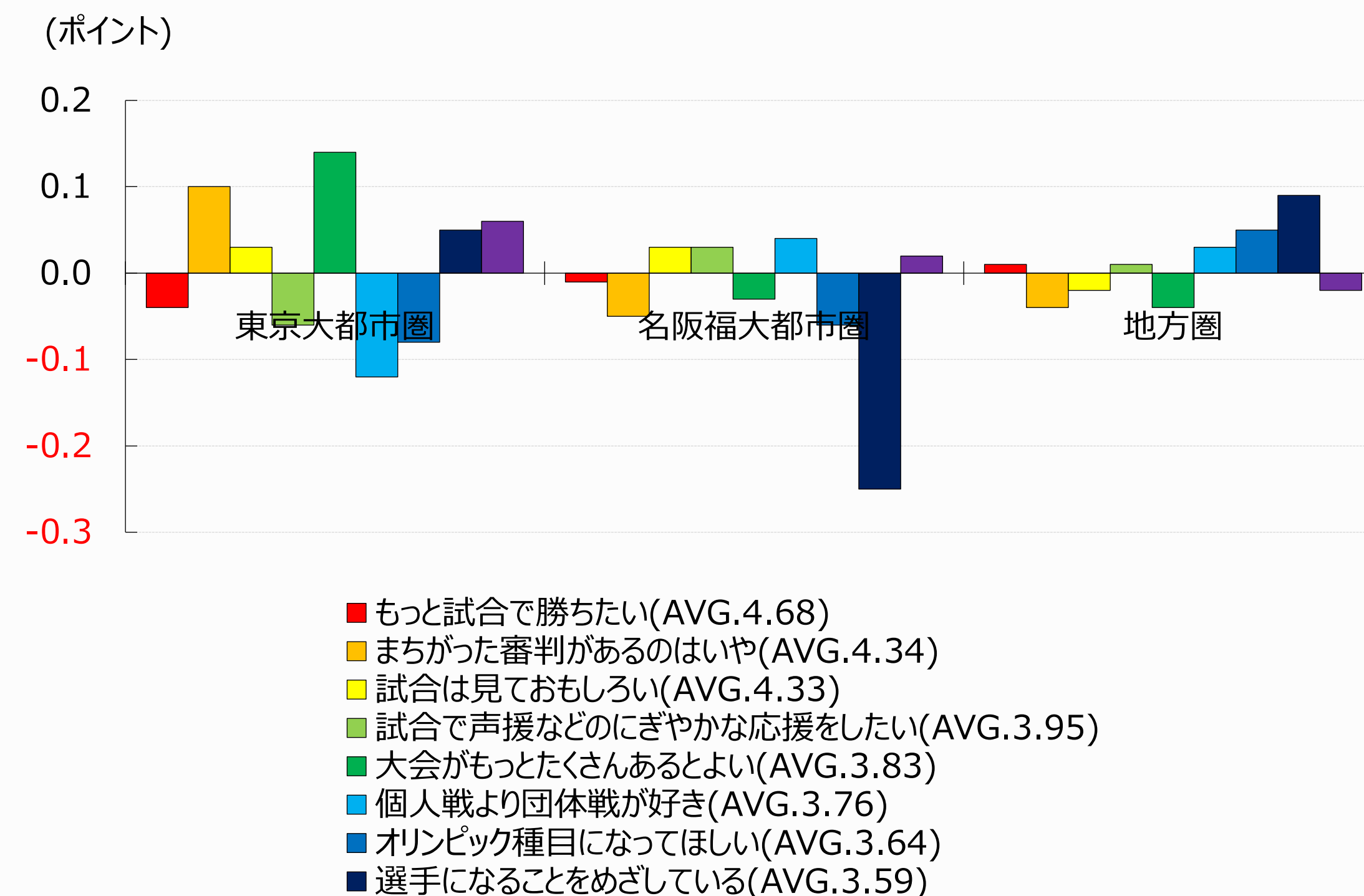


図4-12 地域別にみた剣道（試合）について思うこと
注）項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

- 仲間・交流について，東京大都市圏は世代間交流を，それ以外の地方は仲間との結束（団体戦）をやや重視する。
- 試合について，東京大都市圏はそれ以外の地方と比べて，多くの大会に選手として出場することをやや重視し，併せて誤審がなくなることを期待する。

【地域別】剣道に対する認識(3)

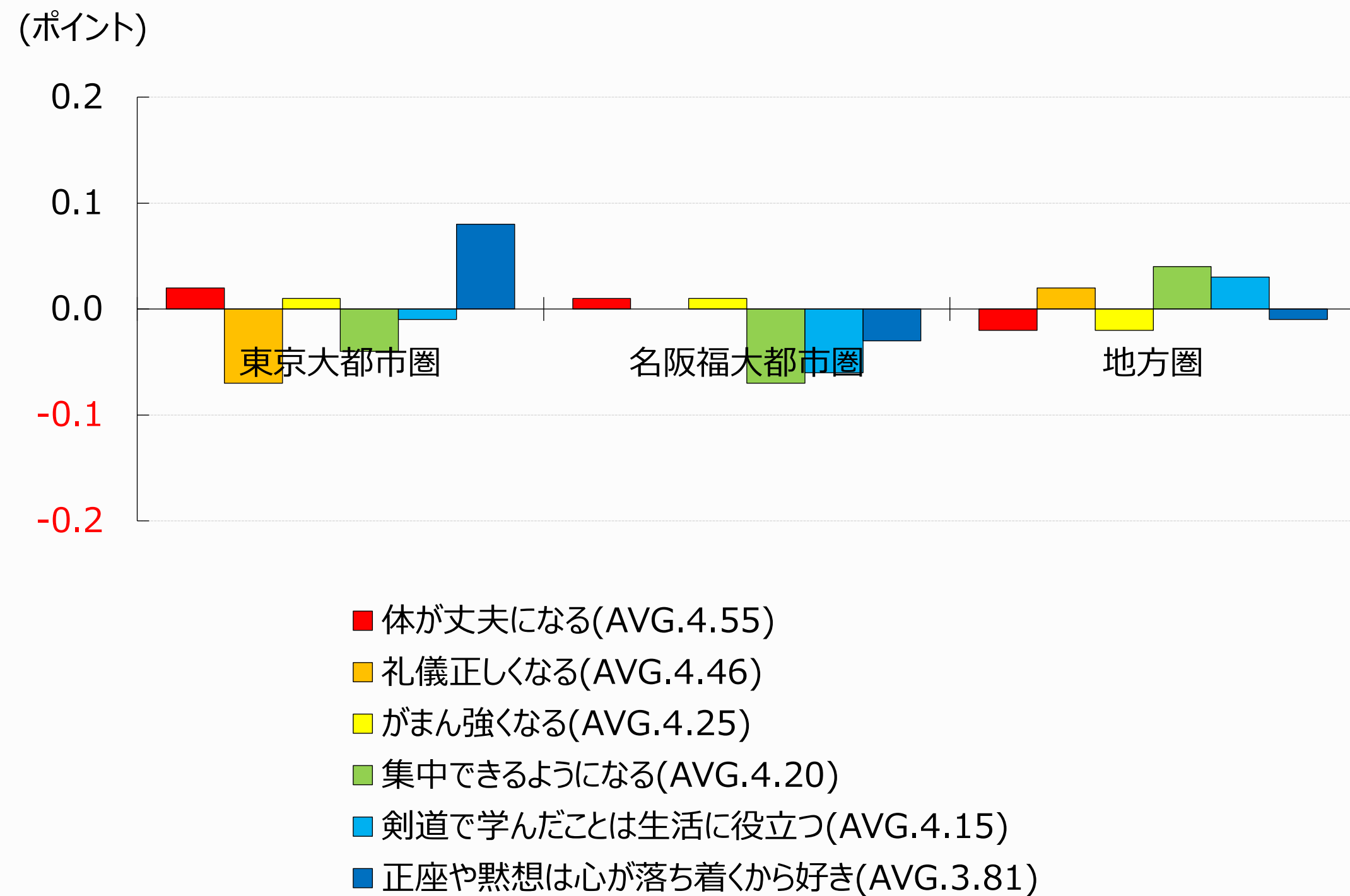


図4-13 地域別にみた剣道（意義・効果）について思うこと
注）項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

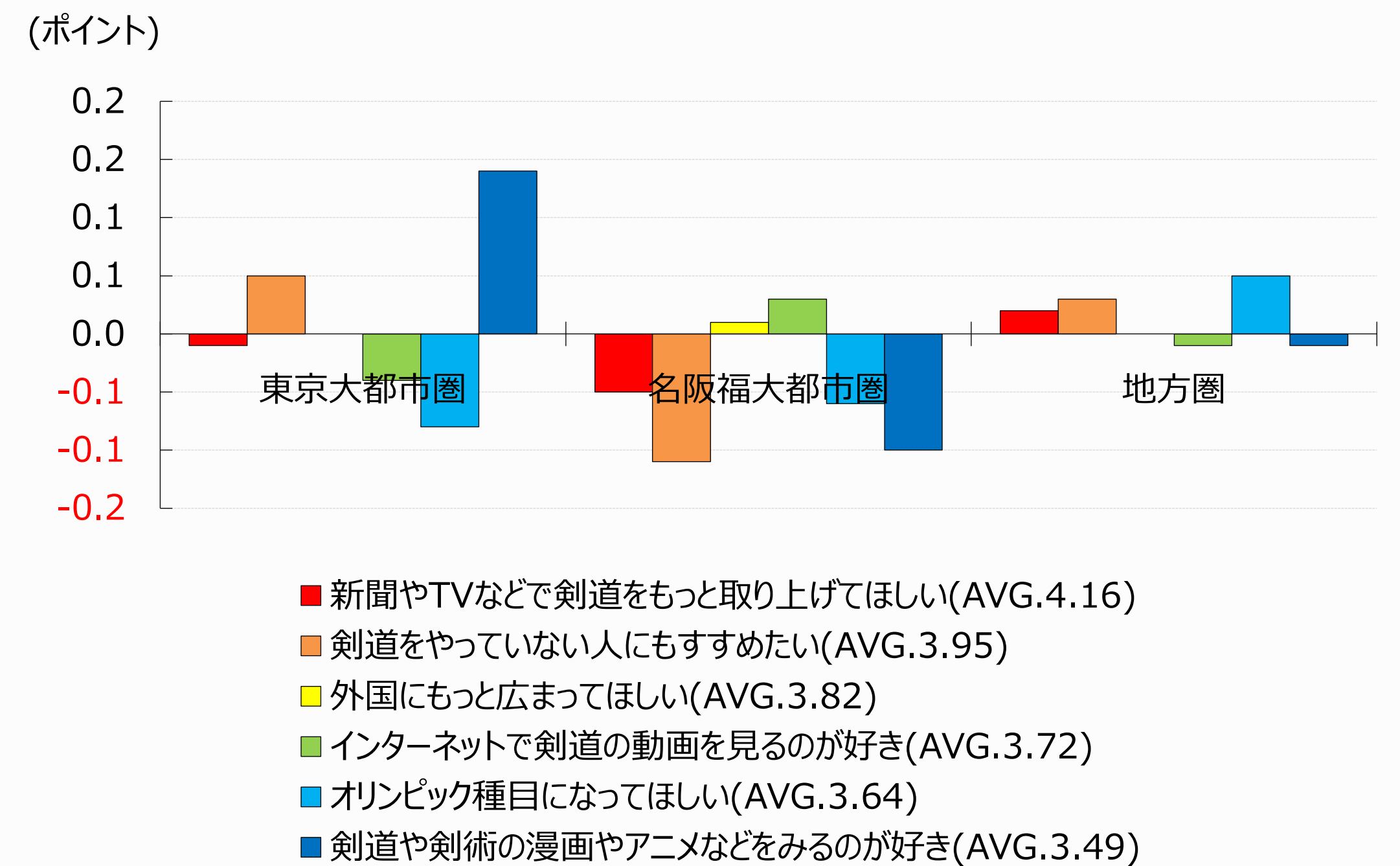


図4-14 地域別にみた剣道（発信・普及）について思うこと
注）項目ごとの全体平均値とのポイント差を示している

- 意義・効果について，顕著な地域差はみられない。
- 東京大都市圏では，漫画・アニメを視聴する者の割合が高い。



06 まとめ



調査結果のポイントと今後の検討課題（例）（1）

調査結果のポイント

今後の検討課題（例）

家族に剣道経験者がいる者：約2/3

- 家族等の勧めで始めた者：約1/3
（特に小学生・地方圏）
- 自分の意思で始めた者：約2/5
（特に中学生・大都市圏）

剣道経験者からの勧誘強化（特に小学生・地方圏）

剣道の魅力発信・関心向上（特に大都市圏・中学生）

剣道を続けようと思わない2つの要因

- プル要因（勉強・仕事への集中，他競技等への移行）
- プッシュ要因（剣道自体が抱える問題点）

プル要因対応 → 市場調査・剣道の魅力発信強化

プッシュ要因対応 → 指導方法・稽古環境等の改善

指導者のよいところ（指導者に求めるもの）

- 丁寧で的確な技術指導
- 児童生徒本位の稽古・指導
- 児童生徒との適切なコミュニケーション

指導方法の改善（マイナスの除去）

好事例の把握・共有（プラスの共有）

剣道の魅力（未経験者に伝えたいこと）

- 技の取得と一本の取得
- 試合で勝つ喜び
- 仲間意識・友人増加
- 剣道の文化性（武道，礼儀作法，鍛錬など）

剣道の魅力発信強化（対象別に内容・方法を選択）

調査結果のポイントと今後の検討課題（例）（2）

調査結果のポイント

今後の検討課題（例）

取り組み実態と認識の男女差

- 男子：自己鍛錬 → 向上への意欲 → 発信への積極性
- 女子：あこがれ → 実態への不満 → 発信への消極性

認識の男女差を踏まえた指導方法の確立・共有

女子児童・生徒が剣道を続けやすい環境の整備

取り組み実態と認識の地域差

- 大都市圏：自ら選択 → 向上心やや高 → 継続意思やや高
- 地方圏：他者の勧め → 向上心やや低 → 継続意思やや低

認識の地域差を踏まえた発信・普及方法の選択

地方圏児童・生徒が剣道を続けやすい環境の整備

調査実施主体

公益財団法人 全日本剣道連盟 剣道未来プロジェクト

プロジェクト責任者	中谷 行道（副会長 兼 専務理事）
プロジェクトチーム	奈良 隆(プロジェクトリーダー)*, 軽米 満世(プロジェクトサブリーダー)*, 近藤 亮平, 濱崎 満, 俊野 徹人, 山神 眞一, 佐藤 厚子, 谷 勝彦, 篠原 政美, 阿部 晶人*, 武藤 健一郎(幹事)*
ワーキンググループ	奈良 隆(共同責任者)*, 軽米 満世(共同責任者)*, 阿部 晶人*, 安藤 翔, 大石 純子, 小田 佳子, 木ノ内 雅章, 清野 忍, 佐々木 陽一郎, 武藤 健一郎(幹事)*
調査分析オブザーバー	和田 崇（県立広島大学 地域創生学部 教授）
事務局（問合せ先）	公益財団法人 全日本剣道連盟 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル2F お問い合わせフォーム： https://www.kendo.or.jp/contact/

注) 氏名右肩に*のある者はプロジェクトチームとワーキンググループを兼任